SHARP®

取扱説明書

液晶デジタルビデオカメラ

形名 VL-MX1
（ブイ エル エムエックス）

“Mini DV”ロゴは商標です。

お買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ご使用の前に、「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。 …12ページ

◆本書は、保証書とともに、いつでも見ることができる所に必ず保存してください。
◆保証書は、必ず購入店名・購入日などの記入を確かめてお受け取りください。

Quick Start Guide ……page209

もくじ

撮影を始める前に

大切な撮影(旅行・結婚式など)の場合には、かならず事前に試し撮りをして、正常に録画・録音されていることをお確かめください。

ページ

簡単に使ってみる ····· 4
テープに撮って見る ····· 4
カードに撮って見る ····· 6
テープとカードを同時に撮って見る ····· 8
本機の特長 ····· 10
本書の見かた ····· 11
安全にお使いいただくために ····· 12
付属品 ····· 19
お使いになる前に ····· 20

準備

各部のなまえとおもな機能 ····· 22
バッテリーパックを充電する ····· 32
ご家庭のコンセントで使う ····· 33
バッテリーパックを取り付ける ····· 34
ビューファインダーを使うときは ····· 35
液晶モニターを使うときは ····· 36
ボタン電池を入れる ····· 37
日付・時刻を設定(修正)する ····· 38
ビデオテープを入れる ····· 40
カードを取り付ける／取り外す ····· 41
電源の入れかた・切りかた(モードの切り換え) ····· 42
機能の選択・設定のしかた ····· 44
持ちかた・かまえかた ····· 50

撮る・見る

撮影する ····· 52
再生する ····· 58
テレビに接続して見る ····· 62
撮影した映像をその場で確認する(録画サーチ) ····· 64
録画の終わった部分をさがす(撮影スタンバイ) ····· 66

使いこなす

撮影の練習をする(トレーニング機能) ····· 68
静止画面で撮る(スナップ撮影) ····· 72
逆光の中や暗いときに撮る(デジタルガンマ明るさ補正) ··· 75
暗闇で撮る(ナイトレーダー) ····· 76
自然な色合いで撮る(ホワイトバランス) ····· 78
明るさを補正する(アイリス補正) ····· 82
暗い場面を撮る(ゲインコントロール) ····· 84
シャッタースピードを調整する ····· 86
シーンに合わせた設定にする(プログラム設定) ····· 88
手動でピントを合わせる ····· 92
音声をよりよく撮る ····· 94
録画・再生の経過時間を知りたいとき(タイムコード表示)・ 98
手ブレ補正を解除する(ブレ補正) ····· 100

ページ

より楽しく使う

シーンの切り換わりを効果的に撮る(フェード) …… 102
ワイド画面で撮る …… 103
特殊効果を付ける(演出効果) …… 104
暗いシーンを明るくして見やすくする …… 105
分割画面にする(マルチストロボ) …… 106
撮影した映像を拡大して見る(再生ズーム) …… 109
デザインや他の画像を合成する …… 112
インデックスを作って頭出しをする(インデックスサーチ) … 116
液晶モニターをリモコンとして使う …… 122
本機→他の機器へダビングする …… 126
他の機器→本機へダビングする(外部録画) …… 128
アフレコをする …… 130
アフレコした音声を聞く …… 133
「記録中メッセージ」を設定する …… 134

カードを使う

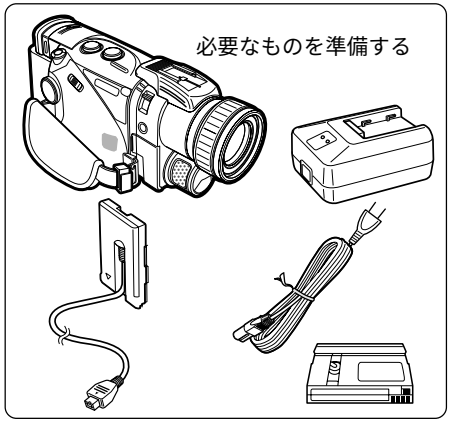
画質／画像サイズを設定する …… 136
静止画を撮る …… 138
セルフタイマーを使う …… 141
静止画を見る …… 142
静止画を連続で見る(スライドショー再生) …… 144
肌色補正をする …… 146
テープ→カードにコピーする(フォトコピー) …… 148
カード→テープにコピーする(フォトコピー) …… 150
大切な画像を保護する(プロテクト) …… 152
静止画を消去する …… 154
カードを初期化する(フォーマット) …… 156
プリント情報を付ける(プリントマーク) …… 158

役立つ情報

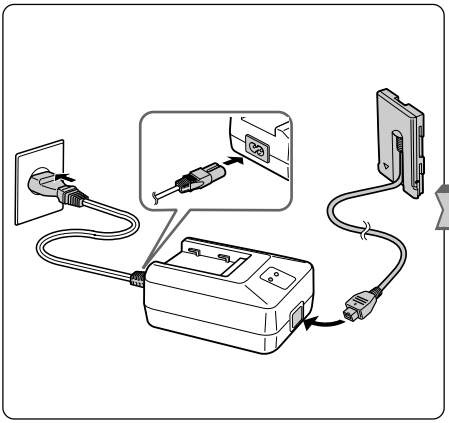
バッテリー残量とテープ残量の表示について …… 162
確認音を変える …… 163
映像を調整する(液晶モニター／ビューファインダー) …… 164
海外の現地時間に合わせる …… 166
海外での電源コンセントの種類 …… 167
撮りかたの基本 …… 168
メニュー項目の説明 …… 170
静止画加工パソコンソフト「デイジーコラージュSHARP Edition」について … 178
カードをパソコンで直接使う …… 180
カード内のデータをパソコンに保存する …… 181
パソコンに保存したデータをカードに戻す …… 182
パソコン接続キット／USB動画キットがあれば …… 183
バッテリーパックについて …… 184
つゆ付き(結露)について …… 186
ヘッドの汚れについて …… 187
使用上のご注意 …… 188
故障かな？と思ったら …… 193
保証とアフターサービスについて …… 197
お客様ご相談窓口のご案内 …… 198
仕様 …… 202
警告とお知らせメッセージ …… 204
用語の解説 …… 206
付録 …… 208
Quick Start Guide …… 209
おもな機能別インデックス …… 214
さくいん …… 215

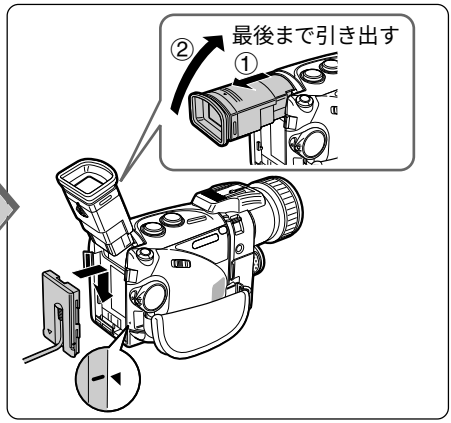
テープに撮って見る

1 準備

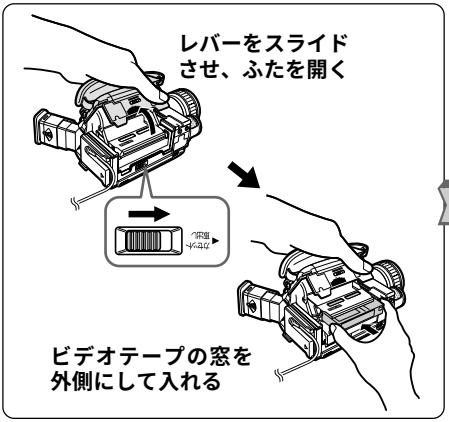


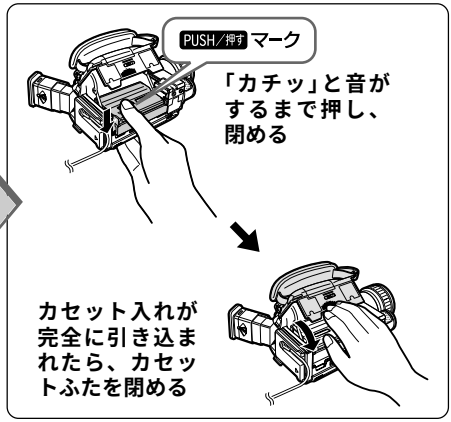
2 電源をつなぐ



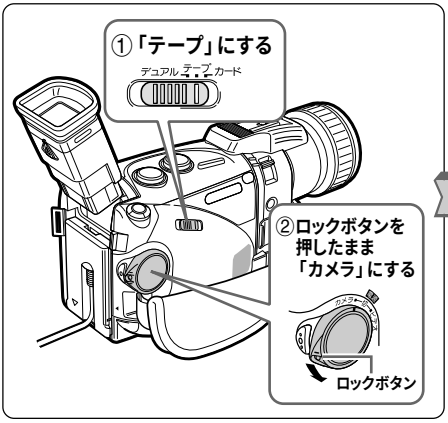


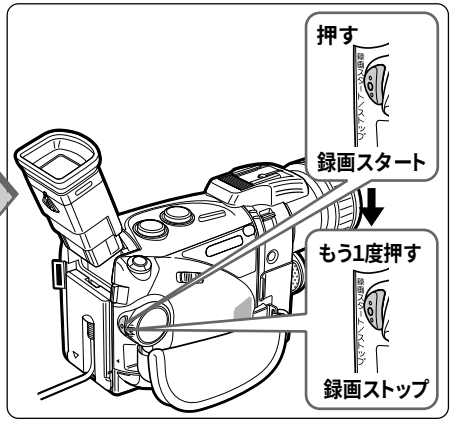
3 テープを入れる



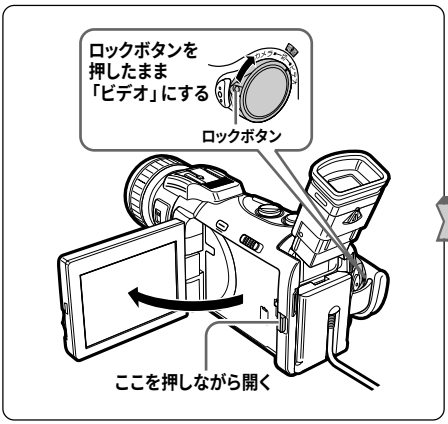


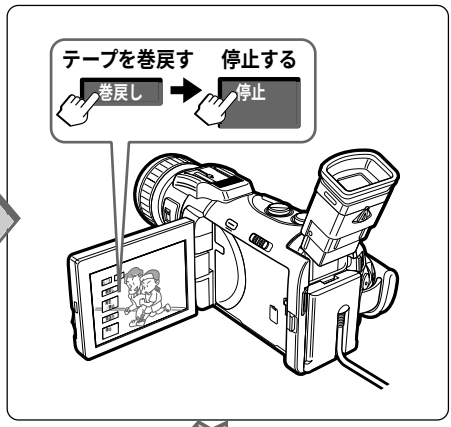
4 撮影する

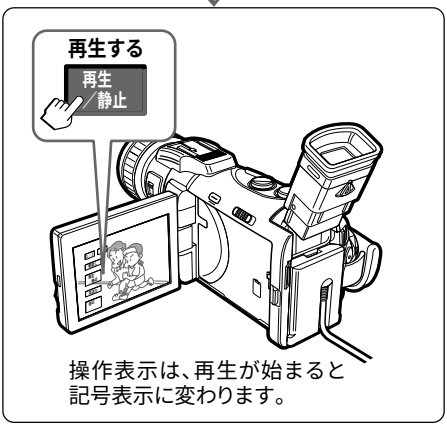




5 再生する







操作表示は、再生が始まると
記号表示に変わります。

くわしくは……

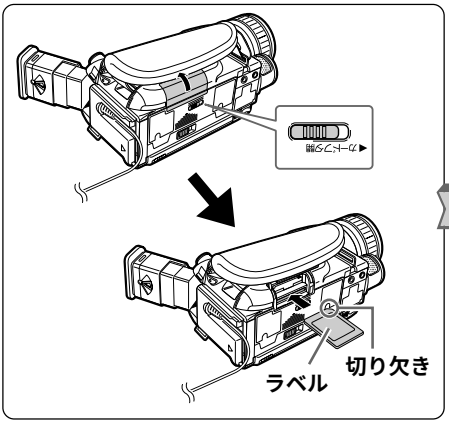
- ご家庭のコンセントで使う ····· **33**
- ビデオテープを入れる ···· **40**
- 撮影する ····· **52**
- 再生する ····· **58**

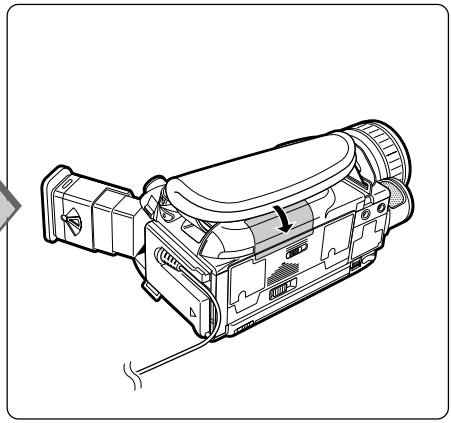
カードに撮って見る

1 電源をつなぐ

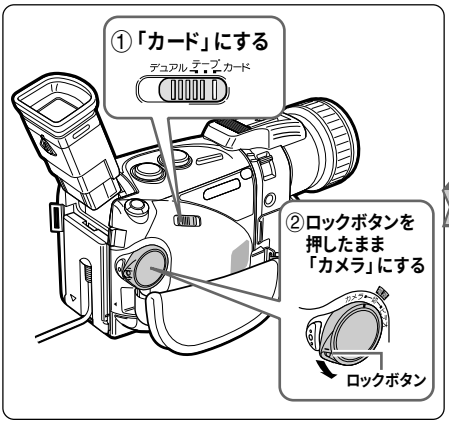
4ページ
2 電源をつなぐ
を行ってください

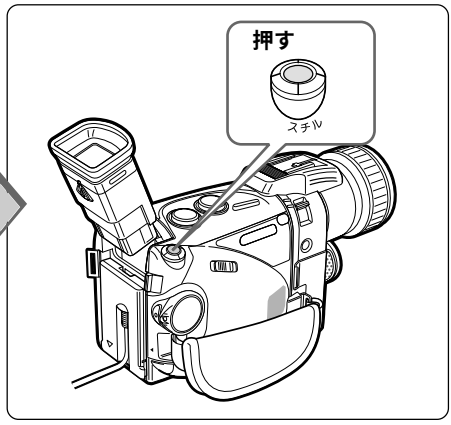
2 カードを入れる



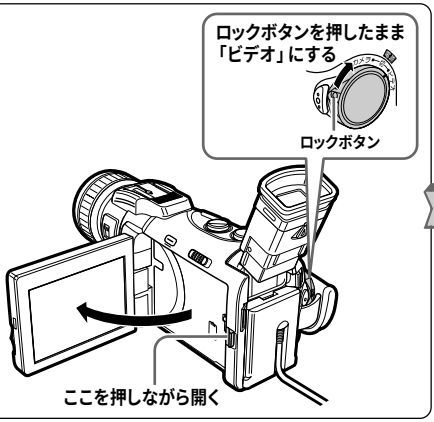


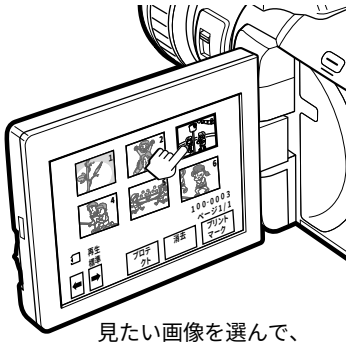
3 撮影する



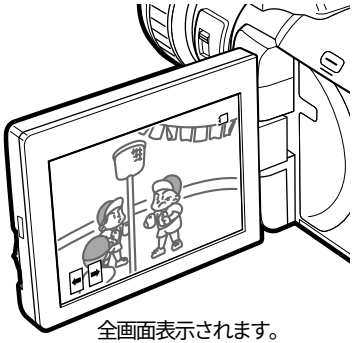


4 再生する





見たい画像を選んで、
もう一度タッチする。



全画面表示されます。

くわしくは……

- カードを取り付ける …… **41**
- 静止画を撮る …… **138**
- 静止画を見る …… **142**

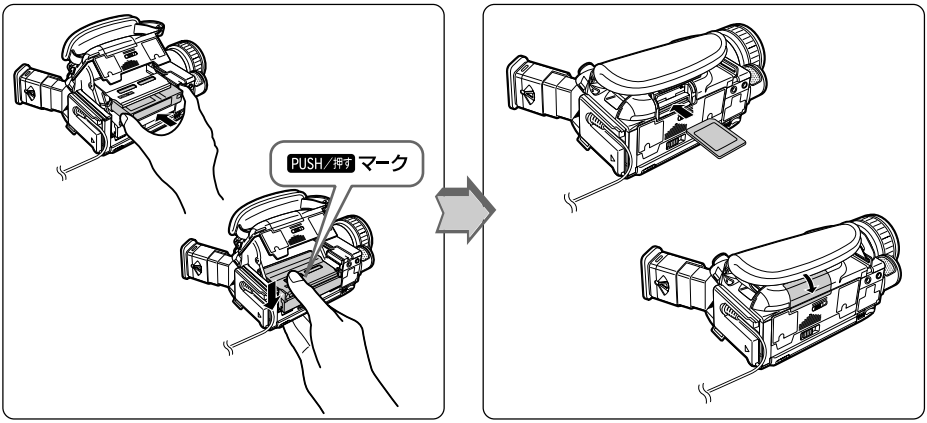
簡単に使ってみる

テープとカードを同時に撮って見る

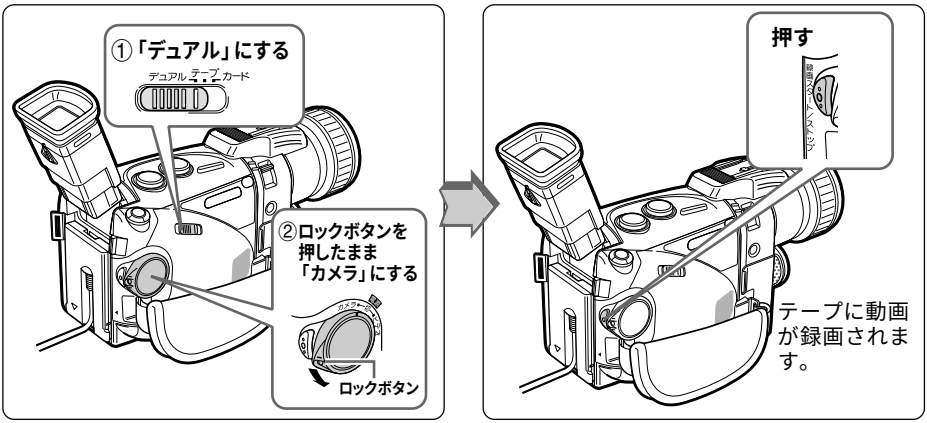
1 電源をつなぐ

4ページ
2 電源をつなぐ
を行ってください

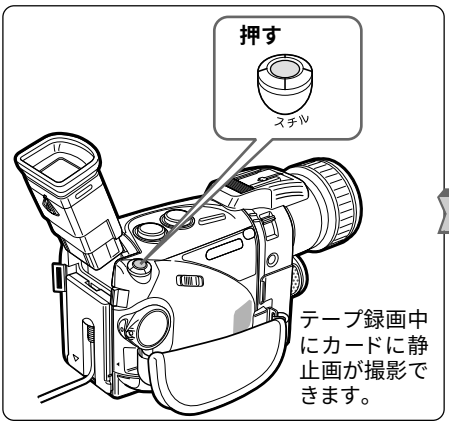
2 テープとカードを入れる



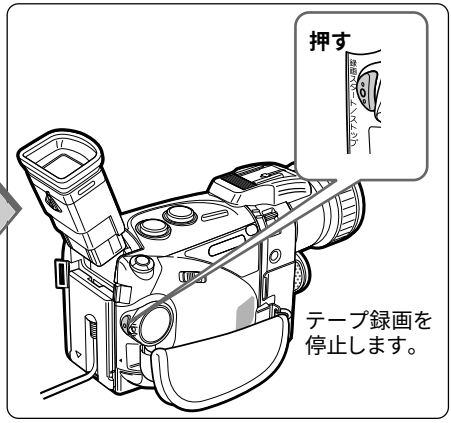
3 テープに動画を録画しながら、カードに静止画を撮影する



3 テープに動画を録画しながら、カードに静止画を撮影する（つづき）

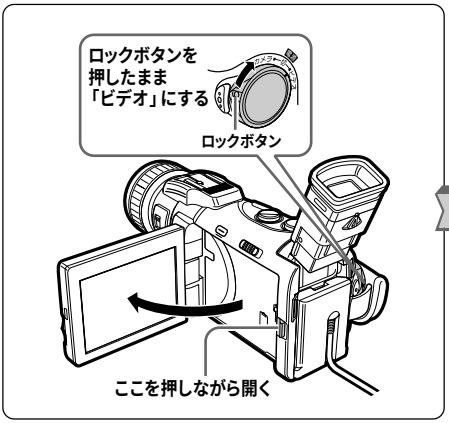


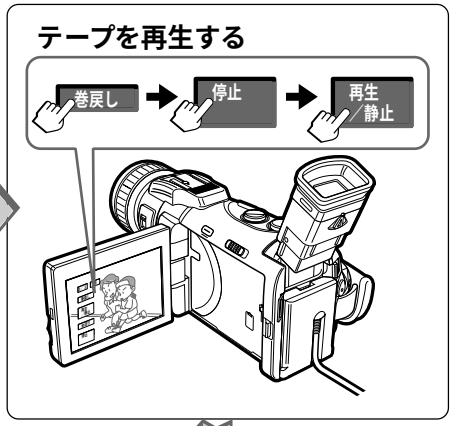
テープ録画中にカードに静止画が撮影できます。

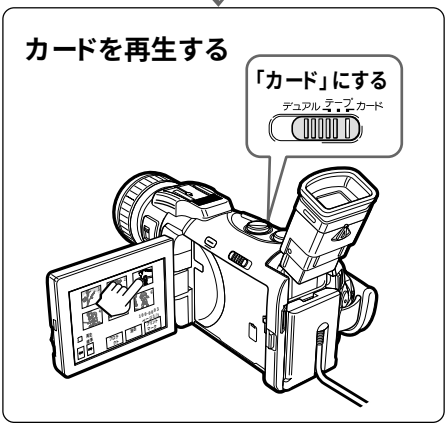


テープ録画を停止します。

4 テープ、カードを再生する







くわしくは……

- ビデオテープを入れる …… **40**
- カードを取り付ける …… **41**
- 撮影する …… **52**
- 再生する …… **58**
- 静止画を撮る …… **138**
- 静止画を見る …… **142**

本機の特長

133万画素CCD搭載

•動画に加えて高精細な静止画の撮影ができます。

高音質ズームマイクをアクセサリーキットに同梱

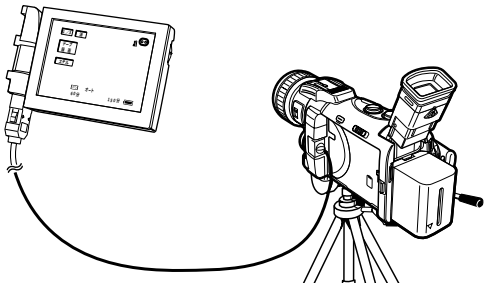
•従来モデル※では捉えることが難しかった遠くの音も記録できます。高画質映像だけでなく、よりリアルで臨場感あふれる高音質な音響を、光学ズーム連動の高音質ズームマイクが記録します。
※従来モデル：VL-PD3

これまで不可能だった暗いシーンの撮影を、動画はナイトレーダーで実現

•0ルクスでもモノクロの動画撮影が可能なナイトレーダー機能を搭載。

液晶モニターリモコンで、手元でカメラをコントロール

•液晶モニターは、本体から取り外せばワイヤードリモコンになります。手元で映像を確認しながら、ズームや撮影ができる液晶リモコン機能を採用。



デジタルカメラ感覚でカードに静止画が記録できる、マルチメディアカードスロットを標準装備

•汎用性の高いマルチメディアカードに静止画を記録。パソコンへの映像の取り込みも、市販のマルチメディアカード用PCカードアダプターを使うだけの手軽さです。

本書の見かた

この取扱説明書の見かたについて

説明している機能が使えるモード

•以下の説明が、どのモードのときに行えるのかを示します。

操作するボタンなどの一覧

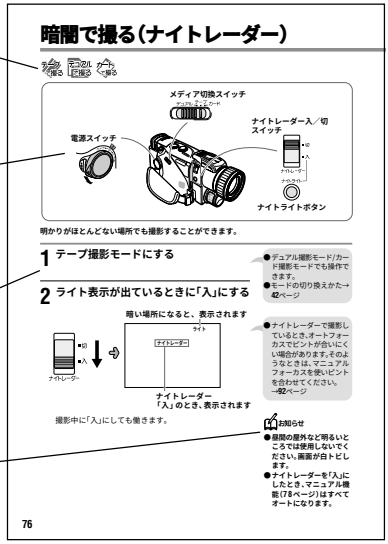
•その項目の中で操作するボタンやスイッチの場所を示します。

操作手順

•手順1から順に操作してください。

お知らせ・ヒント

•説明している機能に関連するヒントやお知らせを示します。



本書で使用のアイコン（絵文字）について

- テープで撮る ····· メディア切換スイッチが「テープ」で、電源スイッチが「カメラ」になっている状態のことです。
- カードで撮る ····· メディア切換スイッチが「カード」で、電源スイッチが「カメラ」になっている状態のことです。
- テープを見る ····· メディア切換スイッチが「テープ」または「デュアル」で、電源スイッチが「ビデオ」になっている状態のことです。
- カードを見る ····· メディア切換スイッチが「カード」で、電源スイッチが「ビデオ」になっている状態のことです。
- デュアルで撮る ····· メディア切換スイッチが「デュアル」で、電源スイッチが「カメラ」になっている状態のことです。
- お知らせ ····· もう少し詳しい説明や、機能の制限事項です。
- も使えます ····· 本体での操作のほかに、ワイヤレスリモコンでも操作できることを示しています。

•本書内の画面表示やイラストは、説明のために簡略化しておりますので、実際とは多少異なります。
•本書ではマルチメディアカードをカードと表記しています。

安全にお使いいただくために

ご使用の前に

- 「安全にお使いいただくために」は使う前に必ず読み、正しく安全にご使用ください。

絵表示について

この取扱説明書には、安全にお使いいただくための、いろいろな絵表示をしています。その表示を無視し誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **危険**	人が死亡または重傷を負う恐れが高い内容を示しています。
⚠ **警告**	人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。
⚠ **注意**	人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示しています。

絵表示の意味

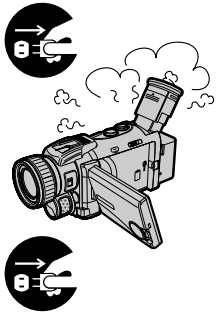
（絵表示の一例です）

⚠	⃠	❗
気をつける必要があることを表しています。	してはいけないことを表しています。	しなければならないことを表しています。

⚠警告

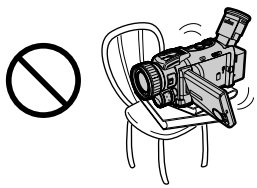
■ 煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のときは電源プラグを抜く

- 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜いて（ACアダプター使用時）、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- このビデオカメラを落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて（ACアダプター使用時）、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



■ 不安定な場所に置かない

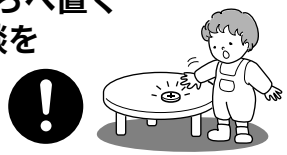
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



⚠警告

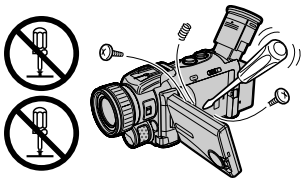
■ ボタン電池は幼児の手の届かないところへ置く 飲み込んだときは、ただちに医師と相談を

- ボタン電池を取り外した場合は、誤って口に入れることがないように保管してください。飲み込んで胃などに止まると大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。



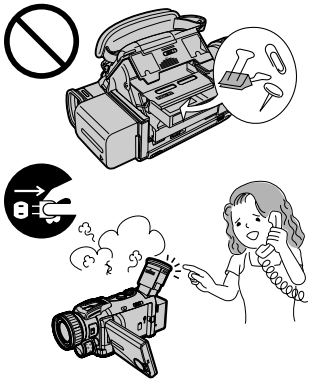
■ キャビネットは絶対に開けない

- 感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
- このビデオカメラを分解したり改造しないでください。発熱・発火・感電・けがの原因となります。



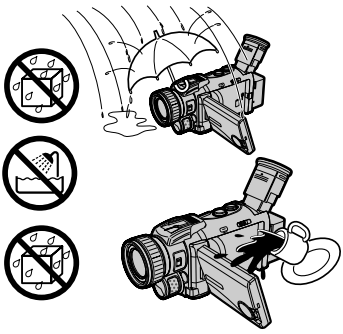
■ 内部に物や水などを入れない

- このビデオカメラの開口部（通風孔、ビデオテープの挿入口など）から内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
  特にお子様のいるご家庭では注意してください。
- 異物や水がビデオカメラの内部に入った場合は、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて（ACアダプター使用時）、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭では注意してください。



■ 水をかけたり、ぬらしたりしない

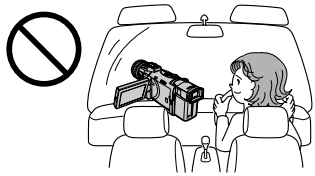
- 水が入ったり、ぬらさないでください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
- 風呂、シャワー室では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



⚠警告

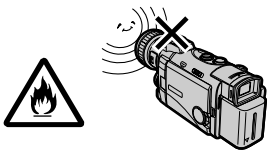
■ 移動中は液晶画面を見ない

- 自動車などの運転中や歩行中に操作をしたり、画面を見ないでください。けがをしたり、交通事故を起こす原因となります。動きながら撮影するときは、まわりに気をつけてください。



■ レンズやビューファインダーに太陽等の強い光が進入する状態で長時間放置しない

- レンズの集光作用により、火災が発生する原因となります。



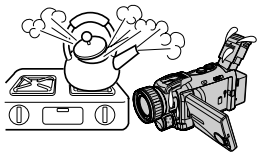
■ 太陽を見ない

- ビューファインダーで、太陽等の強い光をのぞかないでください。目に回復不能な重大な障害を起こす原因となります。

⚠注意

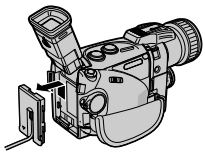
■ 油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



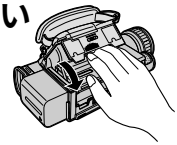
■ お手入れのときは電源供給機器を本機から取り外す

- 感電の原因となることがあります。（ACアダプター使用時）



■ ビデオテープ挿入口などのすきまに手を入れない

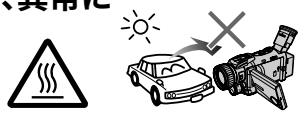
- ビデオテープ挿入口から、手を入れないようにしてください。けがの原因となることがあります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。



⚠注意

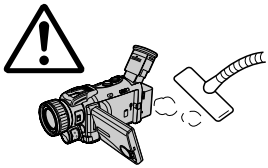
■ 日中の窓を閉めきった自動車の中など、異常に温度が高くなる場所に放置しない

- キャビネットが高温になり、さわるとやけどの原因となることがあります。



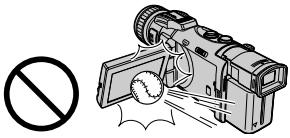
■ 3年に一度くらいはビデオカメラ内部の清掃を販売店に依頼する

- 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、内部掃除費用については、販売店などにご相談ください。



■ 液晶モニターに衝撃をあたえない

- ガラスでできていますので、割れるとけがをする恐れがあります。

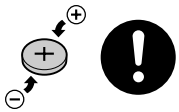


■ 指定以外の電池は使用しない

- 電池の破裂・液もれによって、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

■ 電池を入れるときは極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）の向きを間違えない

- 間違えると電池の破裂・液もれによって、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



■ 機器の上に乗らない

- この機器に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。こわれたり、けがの原因となることがあります。

バッテリーパックについて<アクセサリーキット（別売品）に付属>

⚠危険

■ バッテリーパックの取扱いについて

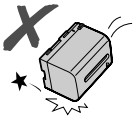
- バッテリーパックを使用するときは、次のことを必ず守ってください。バッテリーパックを液もれ、発熱、破れつさせる原因となります。

1. 分解や改造をしたり、端子に直接ハンダ付けしない。
2. 取り外したバッテリーパックの⊕極と⊖極を針金・ネックレスなどの金属類でショートさせない。
3. 直射日光の当たるところや自動車のダッシュボードなどの高温（60℃以上）になるところに置かない。
4. 水や火の中に投入したり、加熱したりしない。
5. 専用の充電器以外は使用しない。

⚠警告

■ バッテリーパックの取扱いについて

1. 持ち運ぶ際は必ず保護カバーをする。
2. 強い衝撃を与えたり落下をさせない。
3. 子供の手の届くところに置かない。
4. 電子レンジや洗濯機に入れない。



- 乳幼児の手の届かない所で使用、保管してください。
- バッテリーパック内部の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。また、皮膚や衣類に付着した場合には皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、直ちにきれいな水で洗い流してください。

⚠注意

■ 安全のため、ご使用後は必ずバッテリーパックを取り外し、涼しい場所に保存する

■ バッテリーパックを充電するときに

- 充電するときは、10℃～30℃の範囲で使用してください。この温度範囲以外では、バッテリーパックの液もれ、発熱、破れつの原因となることがあります。

ACアダプターについて　＜アクセサリーキット（別売品）に付属＞

⚠警告

■ ACアダプターの取扱いについて

- リチウムイオンタイプバッテリーパック専用の充電器です。リチウムイオンタイプバッテリーパック以外の充電には使用しないでください。誤って使用した場合、バッテリーパックが液もれ、発熱、破れつする原因となります。
- 本体や付属の接続コードの接点部に金属類を差し込まないでください。感電、発熱、発火の原因となります。

■ ACアダプターの電源コードを破損するようなことはしない

- 電源コードを傷つけたり、加工したり無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。電源コードが破損して火災・感電の原因となります。
- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが機器の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものをのせてしまうことがあります。

■ 雷が鳴り出したらACアダプターの電源プラグには触れない

- 感電の原因となります。

■ ACアダプターを指定以外の電圧では使用しない

- 表示された電源電圧交流100～240ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

■ ACアダプターの電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は乾いた布で取り除く

- そのままで使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

■ ACアダプターを使うときは

- **電源プラグをぬれた手でさわらない**
- **プラグやコードが傷ついたまま使わない**
- **市販の「電子式変圧器」は使用しない**
  火災・感電・故障の原因となることがあります。

■ ACアダプターの電源コードを熱器具に近づけない

- コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

■ ACアダプターの電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

- コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

■ 旅行などで長時間ご使用にならないときは、電源プラグを抜く

- 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- ご使用後やご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。感電、発熱、発火の原因となることがあります。

■ ACアダプターの電源プラグは根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全なときは、発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。
- 刃にふれると感電の原因となることがあります。

■ ACアダプターの電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるときはコンセントに接続しない

- 発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

付　属　品

付属品は次のものが入っています

- レンズフード
- ボタン電池（CR2025）
- 取扱説明書（本書）
- 保証書
- 撮影ガイドブック

すぐにお買い求めいただきたいもの

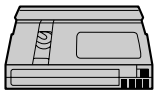
アクセサリーキット（VR-KTX1）

ご使用になる前に、アクセサリーキット取扱説明書の「安全にお使いいただくために」をよくお読みください。

- ACアダプター
- ACアダプター用電源コード
- バッテリーパック（VR-BLF41）
- DCケーブル
- ワイヤレスリモコン
- リモコン用ボタン電池（CR2025）
- ショルダーベルト
- ズームマイク
- ウインドスクリーン
- ※1 マルチメディアカード（8MB／タイトル・背景デザイン内蔵）
- AV・S映像ケーブル
- 液晶モニターリモコンケーブル（線長2m）
- クリーニングクロス
- ※2 静止画加工パソコンソフト（CD-ROM）「デイジーコラージュ SHARP Edition」

別売品

- ビデオテープ（ミニDVカセット VR-DVM60）



※1 付属のマルチメディアカードは初期化（フォーマット）されていますのでそのままご使用いただけます。
初期化（フォーマット）すると内蔵されているタイトルや背景デザインが消去されますのでご注意ください。

※2 本ソフトの取扱説明書はPDF形式でCD－ROMに収録されています。

別売品について

カメラからの映像（再生映像）をパソコンに取り込みたいとき

- パソコン接続キット「ピクスラボ」（VR-PK120）
- USB動画キット「ピクスラボ」（VR-PKU10）

離れた場所からカメラをコントロールし、撮影したいとき

- 液晶モニターリモコンケーブル（VR-LCB2）（線長5m）

※アクセサリーキット付属の液晶モニターリモコンケーブル（2m）と接続して使用することはできません。

カメラを小雨の中で使うとき

- オールシーズンジャケット（VR-AJX1）

バッテリーパック

- 標準タイプインテリジェントバッテリーパック（VR-BLF21）
- 長時間タイプインテリジェントバッテリーパック（VR-BLF41）

安定したカメラ撮影を手軽にしたいとき

- 一脚（VR-MJ1）

照明を使うとき

- ビデオ&IRライト（VR-VLR1）

お使いになる前に

お使いになる前に知っておいてください

試し撮り

- 大切な撮影（旅行・結婚式など）の場合には、かならず事前に試し撮りをして、正常に録画・録音されていることを確かめてください。

録画内容の補償について

- 本機、ビデオテープ、およびカードを使用中、万一これらの不具合により、録画・録音・記録されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

本書内の写真について

- 液晶モニターの画像を説明するのにスチル写真やイラストを使っていますので、実際の表示とは異なります。

本書内のイラスト（画面）について

- 画面表示やイラストは、説明のために簡略化しておりますので、実際とは多少異なります。

著作権などについて

- **あなたが本機で撮影したものは、個人で楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。**
  なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国および他の国における登録商標または商標です。
- Acrobat、Acrobat Readerは、Adobe Systems Incorporatedの登録商標または商標です。
- デイジーコラージュは、株式会社市川ソフトラボラトリーの登録商標または商標です。
- DPOFは、キヤノン（株）、イーストマン・コダック社、富士写真フイルム（株）、松下電器産業（株）の商標です。
- 本機で再生できる静止画データのうち「ＤＣＦ」とは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格「Design rule for Camera File system」の略称です。主としてデジタルカメラの画像ファイルを関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された規格です。
  ただし「DCF規格」は、機器間の完全な互換性を保証するものではありません。
  本ロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File system」の規格を表す団体商標です。
- その他の社名、および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

● ここでは、各部のなまえや液晶モニターの使いかた、液晶画面の見かたなどについて説明しています。
撮影をはじめる前にお読みください。

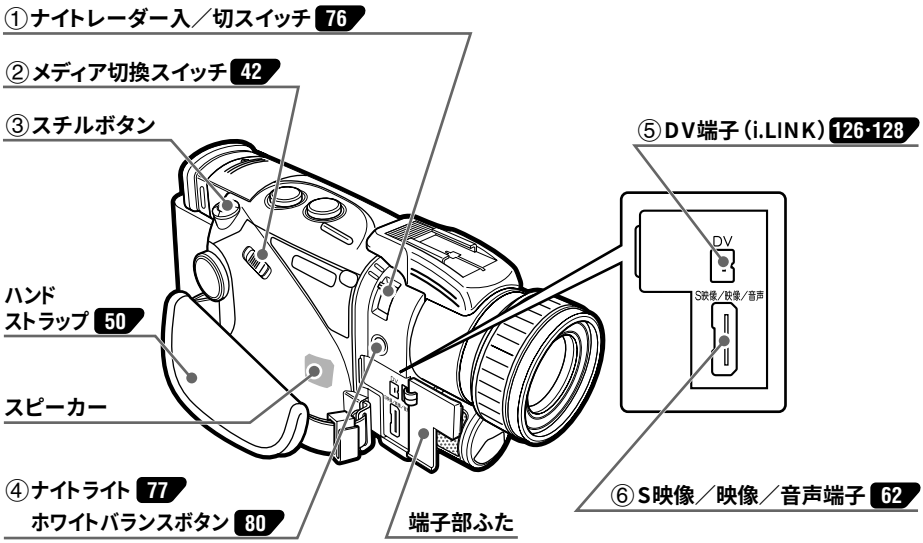
準備

ページ

各部のなまえとおもな機能 …… 22
レンズフードを取り付ける …… 23
ズームマイクの保管について …… 25
ワイヤレスリモコンへのボタン電池の入れかた …… 30
ワイヤレスリモコンの使いかた …… 31
バッテリーパックを充電する …… 32
ご家庭のコンセントで使う …… 33
バッテリーパックを取り付ける …… 34
ビューファインダーを使うときは …… 35
視力に合わせて視度調整をする …… 35
液晶モニターを使うときは …… 36
ボタン電池を入れる …… 37
日付・時刻を設定(修正)する …… 38
ビデオテープを入れる …… 40
カードを取り付ける／取り外す …… 41
取り付けかた …… 41
取り外しかた …… 41
電源の入れかた・切りかた(モードの切り換え) …… 42
機能の選択・設定のしかた …… 44
持ちかた・かまえかた …… 50

各部のなまえとおもな機能

くわしくは ページをご覧ください。
製品改良のため、外観の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。



① **ナイトレーダー入／切スイッチ**
暗い場所で撮影するとき「入」にします。通常は「切」でお使いください。

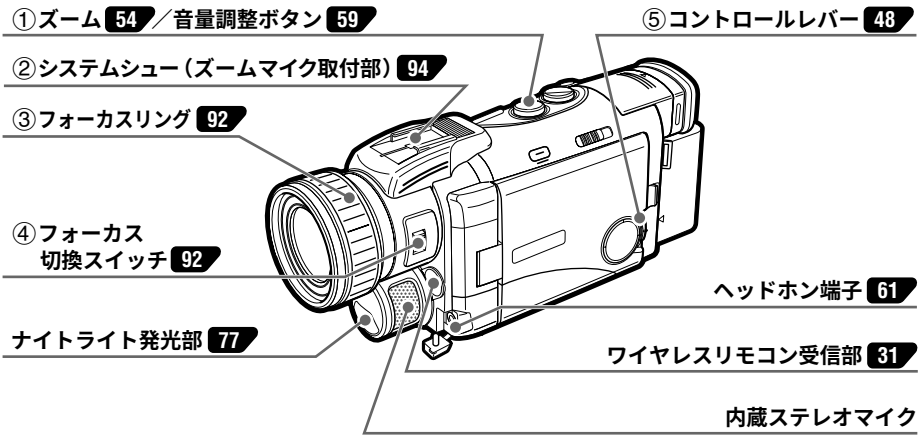
② **メディア切換スイッチ**
電源スイッチとの組み合わせでモードを切り換えます。

③ **スチルボタン**
スチルボタンは、モードによって働きが変わります。
デュアル（またはカード）撮影モード：
1回押すと静止画がカードに記録されます。（**56・138**ページ）
テープ撮影モード：
1回押すと静止画面になり、録画スタート／ストップボタンを押してテープに静止画を記録します。（**72**ページ）

④ **ナイトライト**
ナイトレーダー使用時、赤外線ライトを照射します。
ホワイトバランスボタン
被写体を自然な色で撮影するときに操作します。

⑤ **DV端子（i.LINK）**
DV端子付きのビデオ機器と接続します。
※ i.LINKは、IEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様です。
i は、i.LINKのマークです。

⑥ **S映像／映像／音声端子**
テレビと接続するときに使います。



① **ズーム／音量調整ボタン**
撮影時はズーム操作、再生時は音量を調整します。

② **システムシュー**
- 別売のビデオライトやフラッシュなどをお使いになると、本機から電源を供給できます。
- 本機の電源スイッチに連動して、システムシュー対応アクセサリーの電源の入/切ができます。（お使いになるアクセサリーの取扱説明書もあわせてご覧ください。）

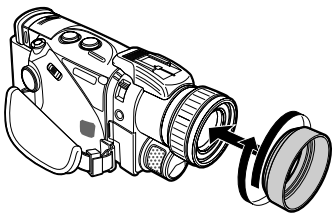
③ **フォーカスリング**
ピントを手動で合わせるときに使います。

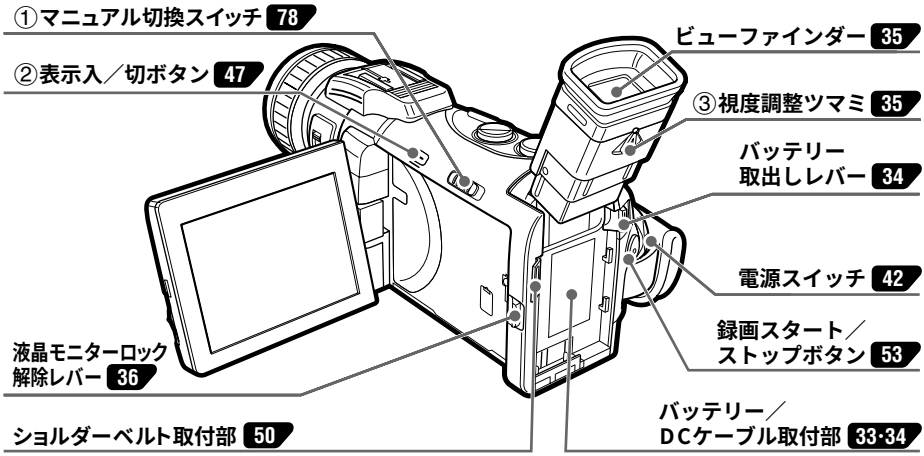
④ **フォーカス切換スイッチ**
ピントを自動で合わせるか、手動で合わせるかを切り換えます。

⑤ **コントロールレバー**
メニュー項目の選択や決定に使います。

レンズフードを取り付ける

晴れた日の屋外など、強い光源のあるところではレンズフードを取り付けることをおすすめします。
- レンズフードの上からでもレンズキャップを取り付けることができます。
- レンズフードの上からフィルターなどを取り付けることはできません。

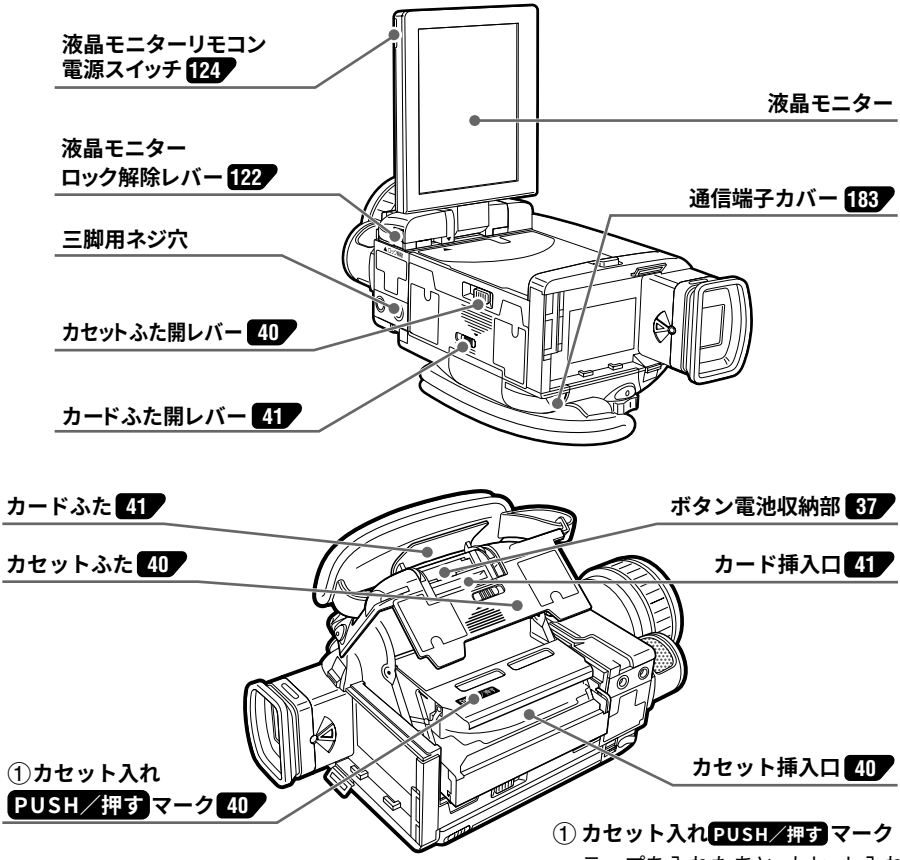




① **マニュアル切換スイッチ**
撮影の調整を手動で行うか、自動で行うかを切り換えます。

② **表示入／切ボタン**
液晶モニターの表示を入／切します。

③ **視度調整ツマミ**
視力にあわせてビューファインダーを調整できます。

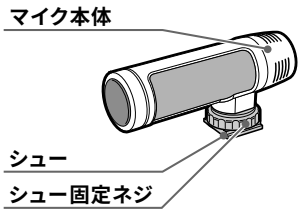


① **カセット入れ PUSH／押す マーク**
テープを入れたあと、カセット入れを閉じるときにここを押します。

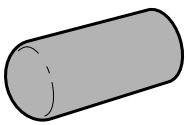
ズームマイクの保管について

ズームマイクをご使用にならないときは、ウインドスクリーンの変形を防ぐため、梱包されていたときのカバー（筒）に収納しておくことをおすすめします。

ズームマイク

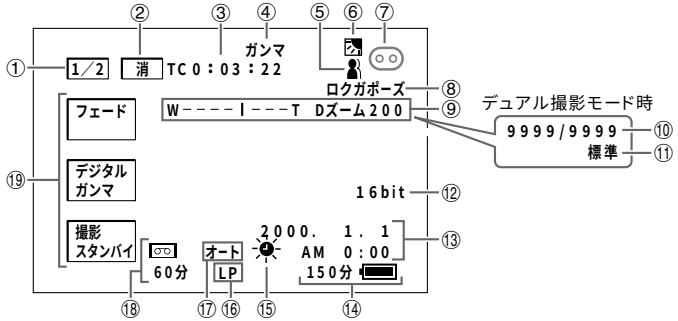


ウインドスクリーン



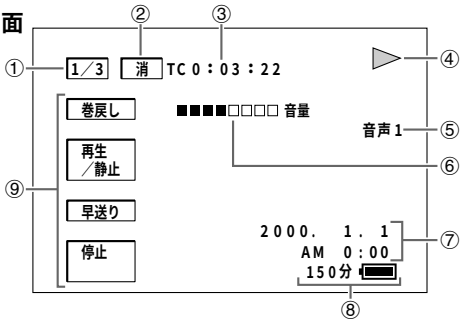
各部のなまえとおもな機能(つづき)

テープ撮影(デュアル撮影)モードの画面



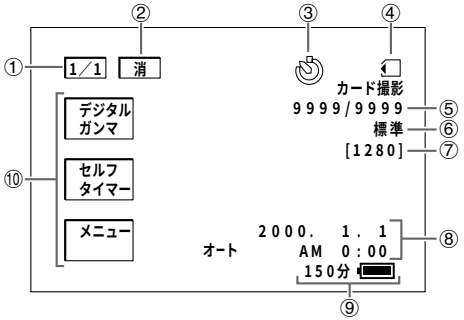
①ページ切り換え表示(45ページ)
操作表示の画面を切り換えます。
②消す表示(45ページ)
操作表示を消します。
③タイムコード表示(98ページ)
撮影の経過時間を表示します。
④ガンマ表示(75ページ)
ガンマが「入」のときに表示されます。
⑤ブレ補正表示(100ページ)
ブレ補正が「入」のときに表示されます。
⑥逆光補正表示(75ページ)
ガンマ+逆光補正に設定されているときに表示されます。
⑦タリー表示(53ページ)
撮影が始まると動きはじめ、撮影中であることを示します。
⑧録画状態表示(53ページ)
⑨ズーム表示(54ページ)
⑩撮影枚数/残り枚数表示(138ページ)
⑪画質表示(136ページ)
⑫音声記録モード表示(132ページ)
16bit:高音質で記録するときに設定します。
(16bit設定時に表示されます。)
⑬日付・時刻表示(61ページ)
設定した日付・時刻を表示します。
⑭バッテリー残量表示(162ページ)
⑮サマータイム表示(166ページ)
⑯録画モード表示(57ページ)
LP:長時間モード
(LPモード設定時に表示されます。)
⑰オート表示
フルオートになっていることを示します。
⑱テープ残量表示(162ページ)
テープの残り時間を示します。
⑲操作表示(45ページ)

テープ再生モードの画面



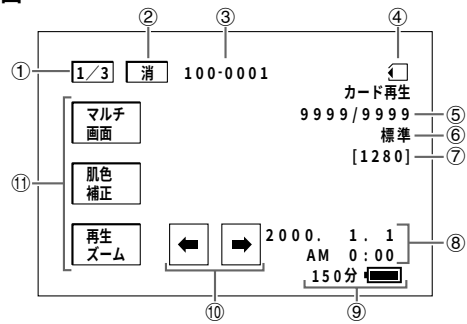
①ページ切り換え表示
②消す表示
③タイムコード表示(98ページ)
④再生状態表示(59ページ)
巻戻し、再生/静止、早送りなど、再生状態を記号で表示します。
⑤音声表示(133ページ)
再生している音声の種類を表示します。
⑥音量表示(59ページ)
⑦日付・時刻表示(61ページ)
撮影した日の日付・時刻を表示します。
⑧バッテリー残量表示(162ページ)
⑨操作表示

カード撮影モードの画面



①**ページ切り換え表示**
②**消す表示**
③**セルフタイマー表示（141ページ）**
④**カードモード表示**
　カード撮影モードであることを示します。
⑤**撮影枚数／残り枚数表示（138ページ）**
⑥**画質表示（136ページ）**
⑦**画像サイズ表示（137ページ）**
　設定した画像サイズを表示します。
⑧**日付・時刻表示（61ページ）**
　設定した日付・時刻を表示します。
⑨**バッテリー残量表示（162ページ）**
⑩**操作表示**

カード再生モードの画面

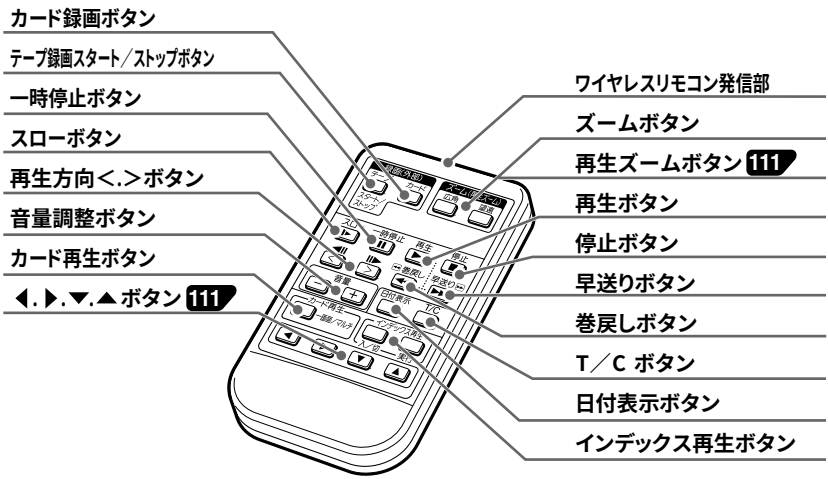


①**ページ切り換え表示**
②**消す表示**
③**静止画ファイル名表示**
④**カードモード表示**
　カード再生モードであることを示します。
⑤**再生画像表示番号／記録枚数**
⑥**画質表示（142ページ）**
⑦**画像サイズ表示**
　記録されている画像サイズを表示します。
⑧**日付・時刻表示（61ページ）**
　撮影した日の日付・時刻を表示します。
⑨**バッテリー残量表示（162ページ）**
⑩**画像送り/戻し操作表示（143ページ）**
　再生画像を1枚ずつ送り/戻しします。
　タッチし続けると、送り/戻しが速くなります。
⑪**操作表示**

つづく

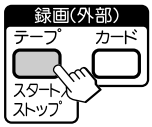
各部のなまえとおもな機能(つづき)

ワイヤレスリモコン



テープに動画を撮影 テープで撮る デジタルで撮る

テープ録画スタート/ストップボタンを押す
もう一度押すと停止し、撮影待機状態になります。

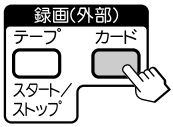


ズーム テープで撮る デジタルで撮る カードで撮る

広角ボタンまたは望遠ボタンを押す

カードに静止画を撮影 デジタルで撮る カードで撮る

カード録画ボタンを押す



テープの再生 テープを見る

1. 巻戻しボタンまたは早送りボタンを押す
見たい位置までテープを巻戻しまたは早送りします。

2. 再生ボタンを押す
再生が始まります。

3. 停止ボタンを押す
再生を停止します。

逆方向に再生(逆再生) テープを見る

再生中に、再生方向ボタンを押す

静止画再生 テープを見る

再生中に、一時停止ボタンを押す

静止画再生が約5分以上続くと、テープ保護のため自動的に再生状態になります。

コマ送り テープを見る

1. 再生中に一時停止ボタンを押す

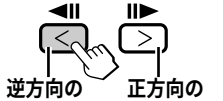
2. 再生方向ボタンを押す

スローモーション テープを見る

• 再生中にスローボタンを押す

スロー再生が約10分以上続くと、テープ保護のため自動的に再生状態になります。

• スロー再生中に再生方向ボタンを押す
再生方向が変わります。



日付表示の入／切 テープを撮る デコスルで撮る カードで撮る テープを見る カードを見る

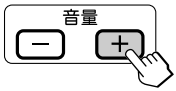
日付表示ボタンを押す
押すたびに「日」⇒「日・時」⇒「切」⇒「日」の順に切り換わります。

タイムコードの入／切 テープを撮る デコスルで撮る テープを見る

T/Cボタンを押す
押すたびに入／切します。

音量の調整 テープを見る

- ＋ボタンで音量が上がります。
- －ボタンで音量が下がります。



カードの再生 カードを見る

1. カード再生ボタンを押す
カード内の画像が出ます。
押すたびに「一画面」⇔「マルチ画面」になります。

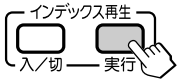
2. ◀ ボタン／▶ ボタンを押し、見たい画像を選ぶ

インデックス再生をする テープを見る

1. インデックス再生入／切ボタンを押す
インデックス画面が表示されます。

2. ◀ ボタン／▶ ボタンを押して、再生したいインデックスを指定する

3. インデックス再生実行ボタンを押す

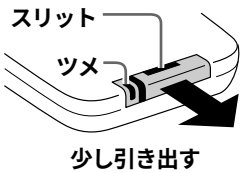


つづく

ワイヤレスリモコンへのボタン電池の入れかた

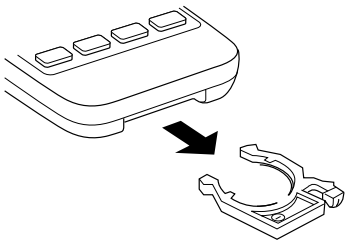
1 **ツメを右に押したままスリット部分に爪をかけてボタン電池入れを少し引き出す**

ワイヤレスリモコン裏面



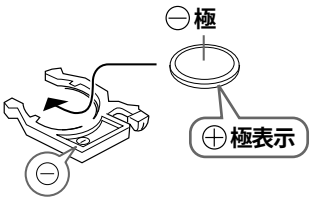
2 **リモコンを表に返し、ボタン電池入れを引き抜く**

ワイヤレスリモコン表面



3 **ボタン電池(アクセサリーキットに付属)を入れる**
ボタン電池の⊖極とボタン電池入れの⊖面を同じ側にする
逆に入れるとワイヤレスリモコンは動作しません。

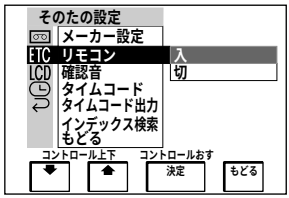
ボタン電池ホルダー



4 **ボタン電池入れをリモコンに戻す**

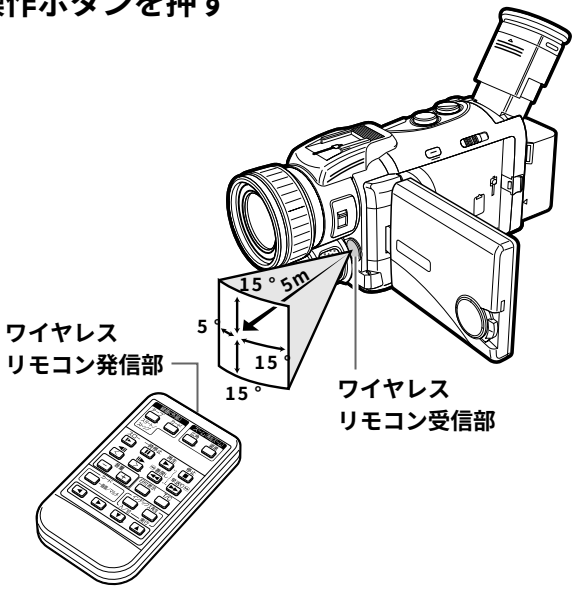
ワイヤレスリモコンの使いかた

ワイヤレスリモコンを使う前に
テープ再生モードのメニュー画面を出し、ETC（そのたの設定）項目の「リモコン」を選んで、「入」を選ぶ



（☞機能の選択・設定のしかた →44ページ）

ワイヤレスリモコン発信部を本体のワイヤレスリモコン受信部に向け、操作ボタンを押す



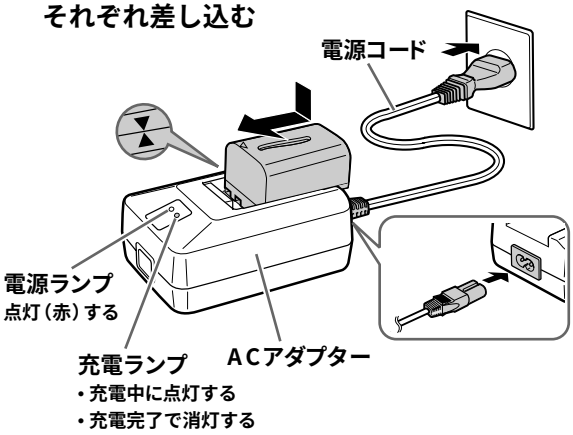
お知らせ

- ワイヤレスリモコンを使うときは、ワイヤレスリモコン受信部に直射日光や照明器具の強い光が当たらないようにご注意ください。リモコン操作のできる距離が短くなったり、操作できなくなることがあります。
- ワイヤレスリモコン受信部との間に障害物がないようにご注意ください。
- ワイヤレスリモコンの電池寿命は通常、約1年が目安です。

バッテリーパックを充電する

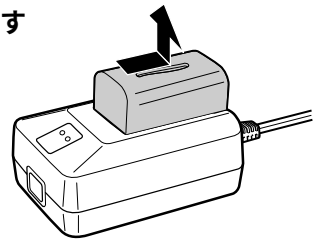
バッテリーパックは、充電してからお使いください。充電するときは、ACアダプターからDCケーブルを必ず取り外してください。（接続されていると、充電されません。）

1 ①電源コードをACアダプターとコンセントにそれぞれ差し込む



②ACアダプターの▲印とバッテリーパックの▼印を合わせ、押しつけながらすべらせる

2 充電終了後、バッテリーパックをACアダプターから取り外す



お知らせ

- **バッテリーパックについての大切な情報が記載されていますので、「バッテリーパックについて」をよくお読みください。（184ページ）**

充電時間と連続撮影時間について

VR-BLF41（アクセサリーキット同梱）

充電時間	約 165分
連続撮影時間	約 260分（約220分）
実使用時間	約 135分（約115分）

- （ ）内は、液晶モニターで撮影時の時間です。

- ●撮影・停止の頻度、寒冷地などでの使用で は、撮影時間が短くなります。
- ●システムシューに、電源を供給するオプション（ビデオ&IRライト：VR-VLR1など）を取り付けた場合、連続撮影時間が短かくなります。

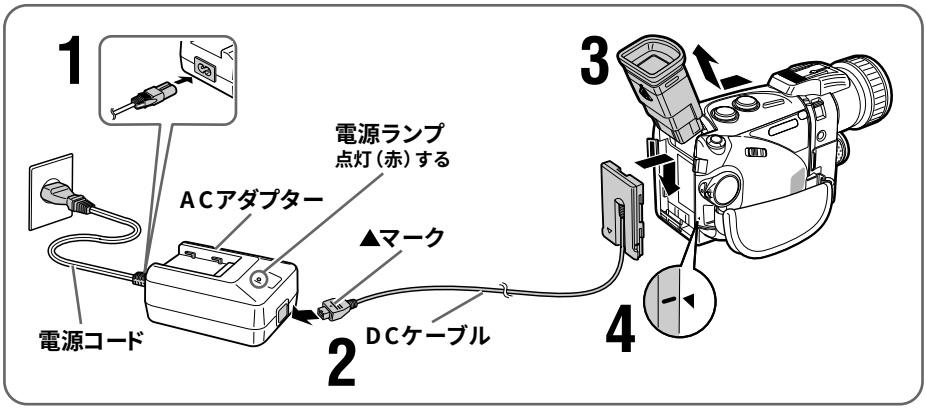
VR-BLF21（別売品）

充電時間	約 100分
連続撮影時間	約 130分（約110分）
実使用時間	約 65分（約57分）

- ●充電時間は、使い切ったバッテリーパックを充電するのに必要な時間です。
- ●周囲の温度やバッテリーの状態によって、充電時間が長くなることがあります。ご使用の前に充電ランプが消えているか確認してください。

ご家庭のコンセントで使う

コンセントから電源を取るには、アクセサリーキット（VR-KTX1）に同梱のACアダプター、電源コードとDCケーブルが必要です。



1 電源コードをACアダプターとコンセントにそれぞれ差し込む

2 DCケーブルの▲マークを上にしてACアダプターにつなぐ

3 ビューファインダーを最後まで引き出して、持ち上げる

4 本体の▲印とDCケーブルのユニット部の❙印を合わせ、押しつけながらすべらせる

DCケーブルのユニット部を取り外すとき

バッテリーパックと同じ方法で取り外してください。（34ページ）

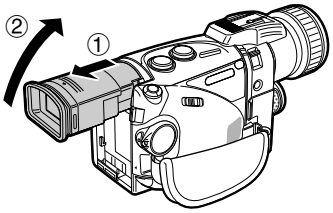
お知らせ

- DCケーブル部を取り付け／取り外すときは、誤作動を防ぐため、必ず電源スイッチを「切」にしてください。
- ビューファインダーを最後まで引き出さないまま無理に回転させると故障の原因になります。また、引き出したビューファインダーを持たないでください。
- ビューファインダーを使用しないときは、必ず元に戻してください。
- ACアダプターを安全にお使いいただくために、アクセサリーキット取扱説明書の「安全にお使いいただくために」もよくお読みください。

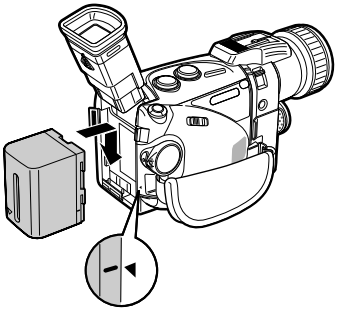
バッテリーパックを取り付ける

バッテリーパックは、充電してからお使いください。

1 ビューファインダーを最後まで引き出して、持ち上げる



2 本体の▲印とバッテリーパックの▌印を合わせ、押しつけながらすべらせる

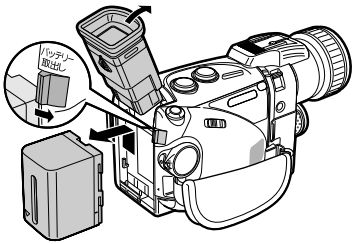


お知らせ

- バッテリーパックを取り付け／取り外すときは、誤作動を防ぐため、必ず電源スイッチを「切」にしてください。
- ビューファインダーを最後まで引き出さないまま無理に回転させると故障の原因になります。また、引き出したビューファインダーを持たないでください。
- ビューファインダーを使用しないときは、必ず元に戻してください。
- バッテリーパックの取り付け方向をまちがえないでください。故障の原因になります。

バッテリーパックを取り外すとき

ビューファインダーを持ち上げて、バッテリー取出しレバーを矢印の方向に押しながら、上へずらす



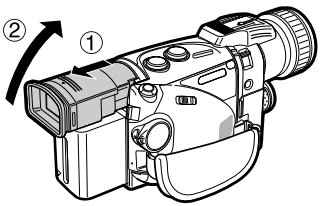
お知らせ

- 撮影・再生中にバッテリーパックを取り外さないでください。カードが読み書きできなくなったり、テープがヘッドに巻きついてテープを傷めることがあります。

ビューファインダーを使うときは

撮影するときや再生映像を確認するときは、ビューファインダーも使うことができます。

ビューファインダーを最後まで引き出し、持ち上げる(最大70度まで)



お知らせ

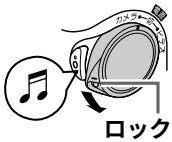
- ビューファインダーを最後まで引き出さないまま無理に回転させると故障の原因になります。また、引き出したビューファインダーを持たないでください。
- ビューファインダーを使用しないときは、必ず元に戻してください。

視力に合わせて視度調整をする

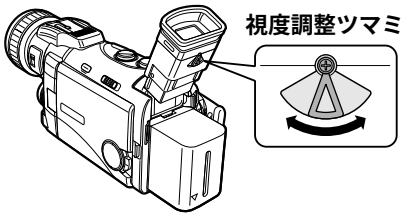
ビューファインダーの画像がはっきり見えないときに、自分の視力に合わせて視度調整をすることができます。

1 電源スイッチを「カメラ」にする

ロックボタンを押しながら動かします。



2 視度調整ツマミを動かし、ビューファインダー内の表示などがはっきり見えるように調整する



お知らせ

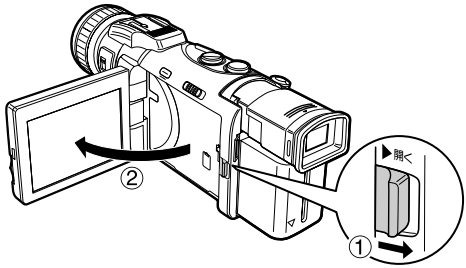
- 液晶モニターを開いていると、ビューファインダーに画像は出ません。ただし、対面撮影時(36ページ)は、液晶モニターとビューファインダーに同時に画像が出ます。

液晶モニターを使うときは

本体側面の液晶モニターを開いて使うことができます。対面撮影時に画像を確認しながら撮影したいときなどに便利です。

1 レバーを押しながら開く

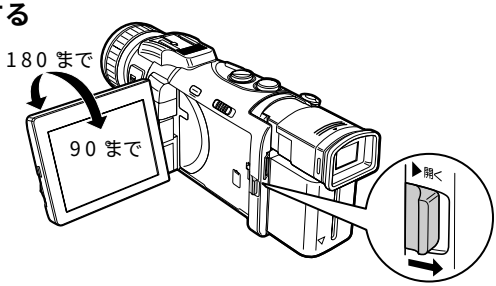
ビューファインダーは消灯します。



お知らせ

- **液晶モニターを閉じるときは、液晶モニターを垂直に戻して「カチッ」とロックするまで確実に押し込んでください。**

2 撮影する角度によって、液晶モニターの角度を調整する

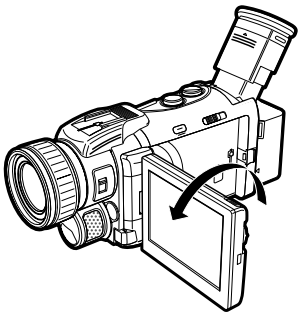


お知らせ

- **液晶モニターを開いた状態で無理な力を加えないでください。**
- **液晶モニターでの撮影では、バッテリーの使用時間はビューファインダーでの撮影にくらべ、短くなります。**

液晶モニターを180度回転させると、液晶モニターと向き合った状態で撮影できます。（対面撮影）

ビューファインダーにも映像が映ります。



お知らせ

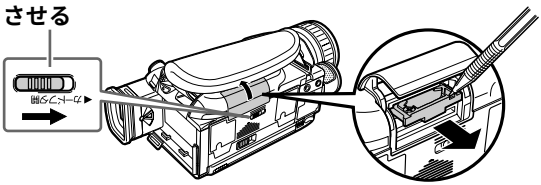
- **対面撮影では、液晶モニターに映る映像は鏡のように左右反転しますが、記録される映像は実際の被写体と同じになります。**
- **液晶モニターの映像が自動的に反転する角度は、約135度から約180度です。**

ボタン電池を入れる

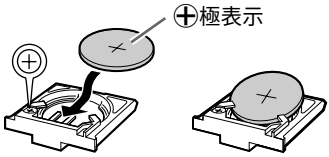
ボタン電池は、日付・時刻のメモリー用電源として使います。
ボタン電池挿入後は、日付と時刻を設定してください。(38ページ)

1 ①カードふたを開く　②ペン先など、先の細いものを使って、ホルダーを出す

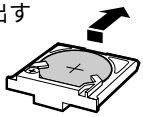
ここをスライドさせる



2 ボタン電池を入れる



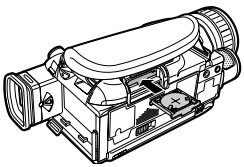
交換するときは
ペン先など先の細いものを使って、電池を取り出す



お知らせ

- **ボタン電池は⊕極と⊖極の向きを正しく入れてください。**

3 ホルダーを元に戻し、カードふたを閉める



お知らせ

- **ボタン電池を入れ終わったら、早めに日付・時刻の設定を行ってください。そのままにしておくと、ボタン電池の消耗が早くなります。**

ボタン電池について

ボタン電池の取り扱いにご注意ください。

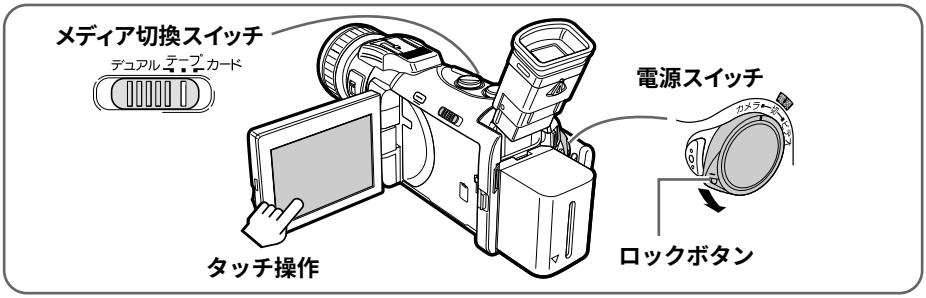
- **ボタン電池の取り扱いについて詳しくは、13、15ページをご覧ください。**
- ボタン電池が使えなくなったら、液がもれて故障の原因となるおそれがありますのですぐに取り出してください。また、もれた液に触れると肌が荒れることがありますので、布でふき取るなど十分に注意してください。
- 万一、液もれが起こったときは、よくふき取ってから新しい電池を入れてください。

電池の交換時期は

- 通常の使用で約1年間お使いいただけます。
- 日常設定されている時刻が極端に遅れてきた場合には新しいボタン電池CR2025と交換してください。
- 交換したボタン電池を廃棄する場合は、電気店などのボタン電池回収箱に入れてください。

日付・時刻を設定(修正)する

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る



本機をお使いになる前に、日付・時刻を設定しておいてください。ここでは、例として「2001年10月10日午前10時30分」の合わせかたで説明します。

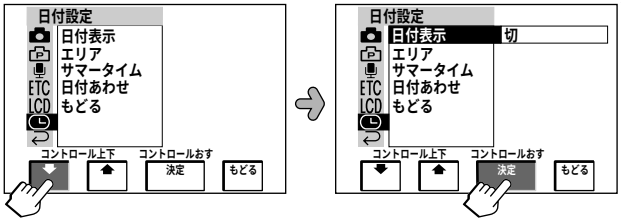
- 設定する前に、ボタン電池が正しく入っていることを確認してください(**37**ページ)。
- 一度、日付・時刻を設定すると、ボタン電池の容量が残っている間、動作します。

1 メディア切換スイッチを「テープ」、電源スイッチを「カメラ」にする

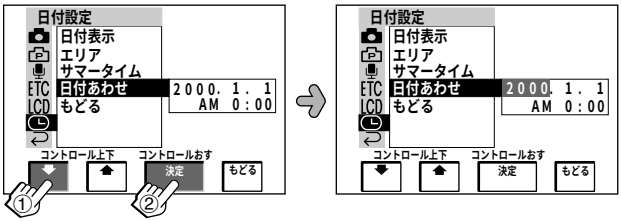
2 液晶モニターをタッチし、1/2 をタッチして2/2画面を出す

3 メニュー をタッチし、メニュー画面を出す

4 (日付設定)を選んでタッチする



5 ▼/▲をタッチして「日付あわせ」を選び、決定 をタッチする



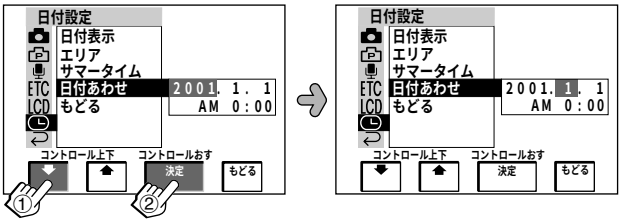
- 電源スイッチは、ロックボタンを押しながら動かします。
- 日付・時刻の設定は、デュアル撮影モード、カード撮影モードでも設定できます。

- はじめて日付・時刻を設定するときは、「日付あわせ」が選択された画面になります。
  手順**5**へ進んでください。

お知らせ

- **メニュー画面は、約5分間操作しないと自動的に消えます。**

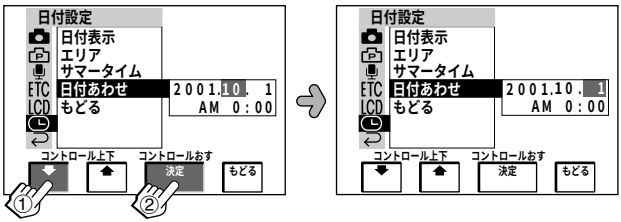
6 ▼／▲をタッチし、「年」を合わせ、決定 をタッチして「月」に送る



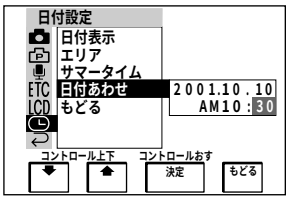
年表示は次のように変わります。

→2000←……→2030←

7 ▼／▲をタッチし、「月」を合わせ、決定 をタッチして「日」に送る



8 ▼／▲で選択、決定 で送りを繰り返し、「日」、「時」、「分」をあわせる



「分」を合わせて 決定 をタッチすると、内部の時計が動きはじめます。

9 もどる を繰り返しタッチし、メニュー画面を消す

お知らせ

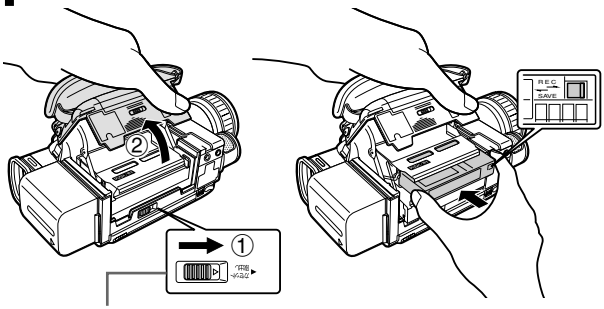
- 途中で間違えたときは、もどる をタッチして、間違えた箇所を修正してください。

- 正確に00秒まで合わせたいときは、「分」を合わせたあと、時報などと同時に 決定 をタッチしてください。

ビデオテープを入れる

本機を下に向けてビデオテープの出し入れをしないでください。テープを傷めることがあります。

1 ふたを開き、カセットを入れる



ここをスライドさせ、ふたを確実に開く
カセット入れが自動的に出てきて、開きます。

●テープ窓を外側に、誤消去防止ツマミを上にして入れます。

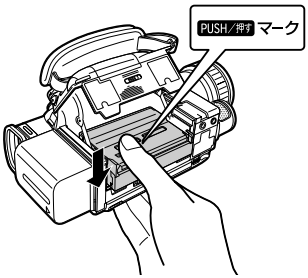
お知らせ

- **誤消去防止ツマミが閉じていることを確認してください。**

●ビデオテープの取り出しはこのとき行います。

2 PUSH/押す マーク部を「カチッ」と音がするまで押し、閉める

- カセット入れが自動的に収納されます。

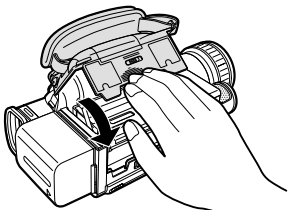


お知らせ

- **カセット入れを閉めるとき、電源スイッチを切り換えないでください。**
- **カセット入れに無理な力を加えないでください。**

3 カセット入れが完全に収納されたら、ふたを閉める

「カチッ」と音がするまでふたの中央を押して閉めてください。

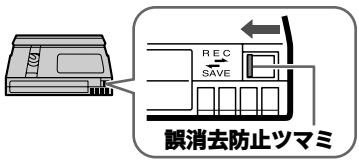


お知らせ

- **カセット入れが出てくる途中で、ふたを閉めないでください。**
- **バッテリー容量がなくなり電源が切れると、テープが取り出せません。充電したバッテリーパックと交換してください。**

大切な録画済みテープを誤って消さないために

誤消去防止ツマミをスライドさせて、「SAVE」(開く)にしておくと、録画ができなくなります。「REC」に戻すと、録画可能になります。



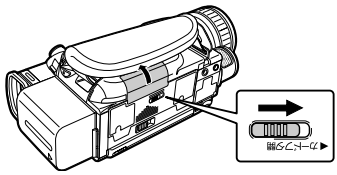
カードを取り付ける／取り外す

必ず、本機の電源が切れていることを確認してから行ってください。

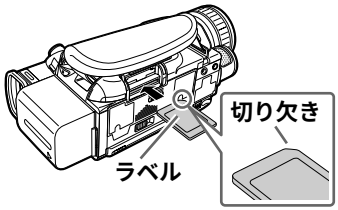
取り付けかた

1 電源を「切」にする

2 レバーをスライドさせ、カードふたを開く



3 カードを入れる



4 カードふたを閉める

お知らせ

- 開き切ったカードふたを無理に開かないでください。

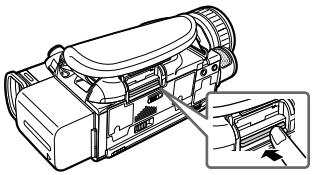
お知らせ

- カードの切り欠きをレンズ側に、ラベルを上にして奥までしっかり差し込んでください。
- カードの表・裏を間違えて差し込まないよう、ご注意ください。

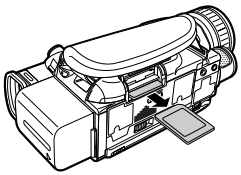
取り外しかた

1 電源を「切」にしてから、カードふたを開く

2 カードの側面の中央を押す



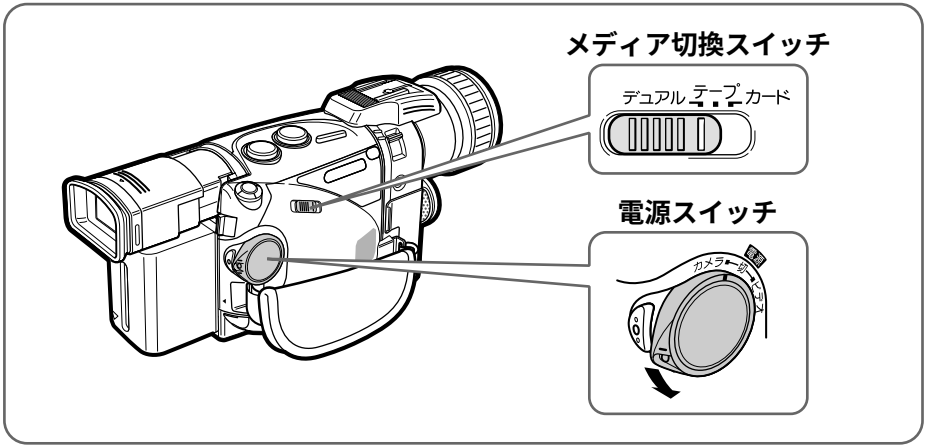
3 カードを曲げないように、まっすぐ引き抜く



お知らせ

- カードに記録中、本機の電源を切ったりカードを抜いたりしないでください。カードの記録データが消失したり、壊れて使えなくなることがあります。
- SDカードもご使用いただけます。

電源の入れかた・切りかた(モードの切り換え)



本機は、メディア切換スイッチの位置と電源スイッチの位置の組み合わせで、各モードを切り換えることができます。

1 メディア切換スイッチを使いたいモードにします。

デュアル

撮影時にテープ／カードを同時に撮るモードです。
(再生時はテープ再生モードと同じ働きをします。)

テープ

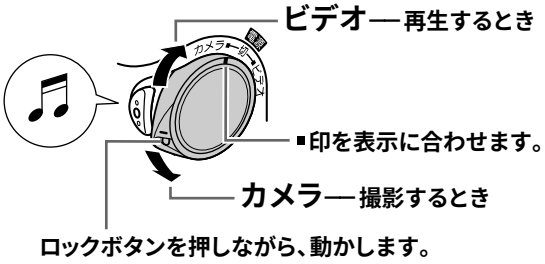
テープに撮影、テープを再生するモードです。

カード

カードに撮影、カードを再生するモードです。

●撮影中や再生中に、メディア切換スイッチを操作しないでください。テープに傷が付いて再生できなくなったり、カードに記録されている画像データが壊れたりする原因となります。

2 電源を入れます。



切

電源が切れます。
（ロックボタンは押さずに動かします。）

各組み合わせを以下のアイコン（絵文字）で表記します。

デュアルで撮る **デュアル撮影モード**
→テープに動画撮影中、カードに静止画が撮れる
メディア切換スイッチ：デュアル
電源スイッチ　　：カメラ

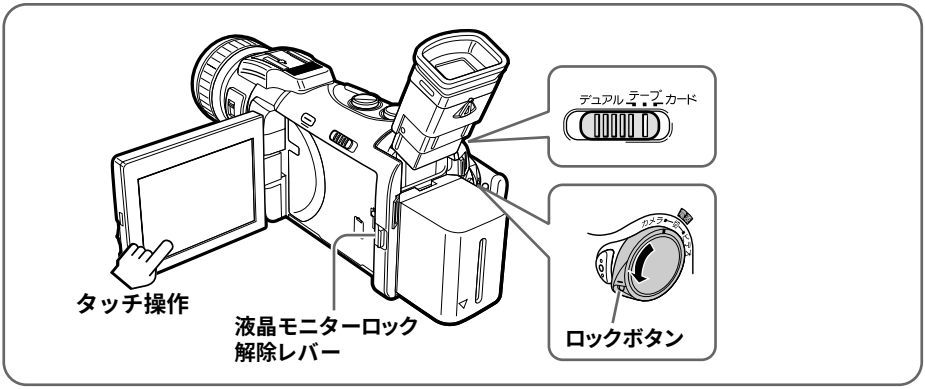
テープで撮る **テープ撮影モード**
→テープに動画も静止画も撮れる
メディア切換スイッチ：テープ
電源スイッチ　　：カメラ

テープを見る ***テープ再生モード***
→テープに撮った動画、静止画を見る
メディア切換スイッチ：テープ
電源スイッチ　　：ビデオ

カードで撮る **カード撮影モード**
→カードに静止画を撮る
メディア切換スイッチ：カード
電源スイッチ　　：カメラ

カードを見る **カード再生モード**
→カードに撮った静止画を見る
メディア切換スイッチ：カード
電源スイッチ　　：ビデオ

機能の選択・設定のしかた

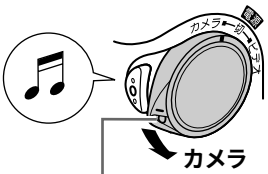


本機の操作は、液晶モニターに表示されるボタンをタッチして、操作します。
ここでは、テープ撮影モードで操作のしかたを例に説明します。

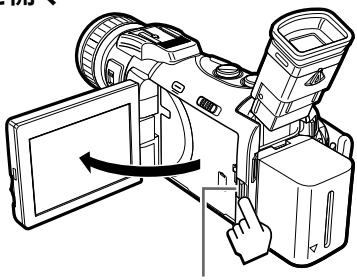
1 電源を入れて、液晶モニターを開きます。

①メディア切換スイッチを「テープ」にする

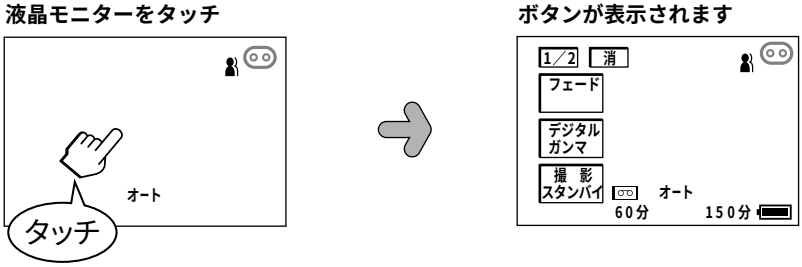
②電源を入れる

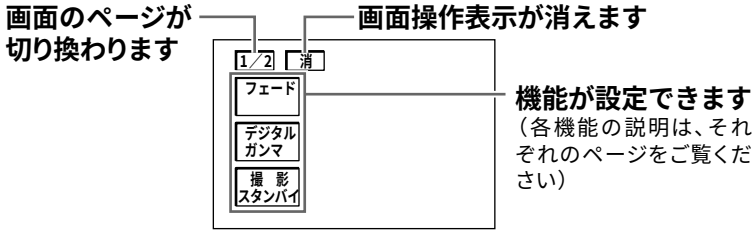


③液晶モニターを開く



2 液晶モニターをタッチしながら操作します。

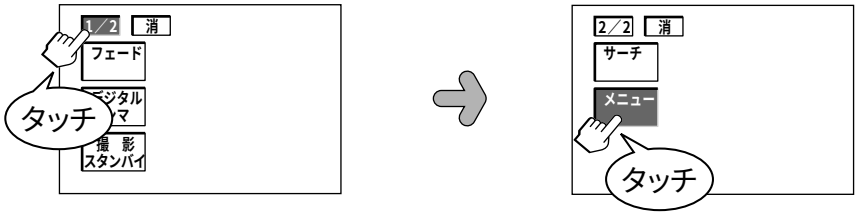




- ボタン表示がグレーで表示されている場合、その時点ではそのボタンが操作できない（働かない）ことを示しています。

メニュー画面の出しかた

上記の操作表示以外に、メニュー画面でも機能を設定します。



メニューのあるページに切り換え**メニュー**をタッチすると、メニュー画面が出ます。
メニュー画面の操作については、次のページをご覧ください。

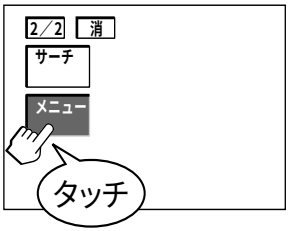
●操作音を消したり、違う音に変えたりすることができます。（**163**ページ）
●メニュー項目について詳しくは、**170**ページをご覧ください。
●画面イラストは説明用に簡略化しておりますので、ご了承ください。

つづく

ここでは、メニュー画面の基本的な操作方法を「日付あわせ」設定後の操作方法で説明しています。「日付あわせ」をしていないときは、38ページの手順で日付・時刻を設定してください。

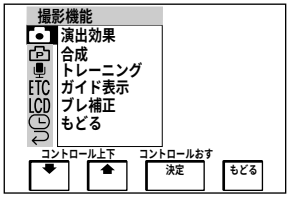
3 メニュー画面で設定を変えます。

①[メニュー] のあるページを出し、[メニュー]をタッチする



メニュー画面が表示されます。

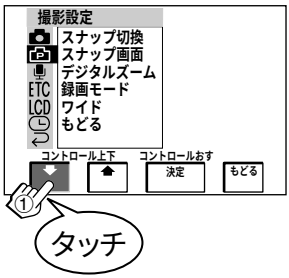
※日付合わせをしていないときは、「日付あわせ」が選択されます。



---

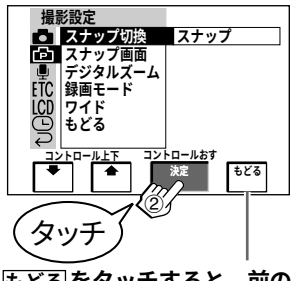
②[▼]/[▲]をタッチする

希望の項目を選びます。



[決定]をタッチする

設定内容が表示されます。

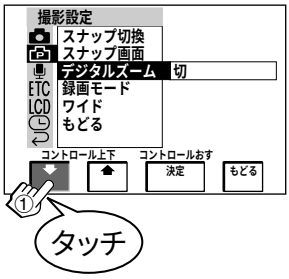


[もどる]をタッチすると、前の画面に戻ります。

---

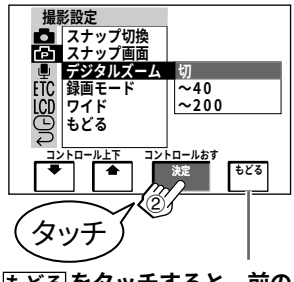
③[▼]/[▲]をタッチする

希望の項目を選びます。



[決定]をタッチする

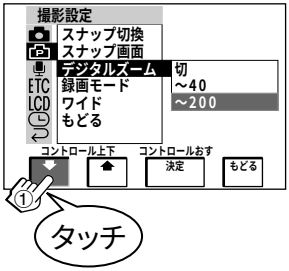
設定内容が表示されます。



[もどる]をタッチすると、前の画面に戻ります。

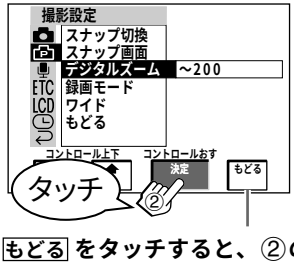
④ ▼／▲をタッチする

希望の項目を選びます。



決定 をタッチする

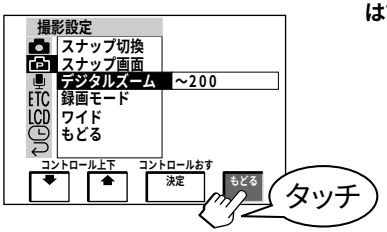
設定内容が変更されます。



もどる をタッチすると、②の画面に戻ります。

⑤ もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。



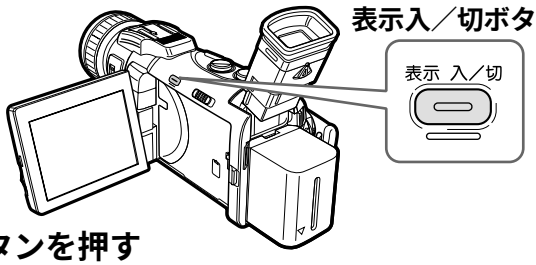
お知らせ

- **項目がグレーで表示されている場合、その時点では設定することができないことを示しています。**

メニュー項目は、以下のアイコン(絵文字)で区分されます。

撮影機能　撮影設定　録音設定　ETC そのたの設定　LCD 液晶設定
日付設定　もどる　再生設定(テープ)　再生設定(カード)

画面表示は、出したり消したりできます。



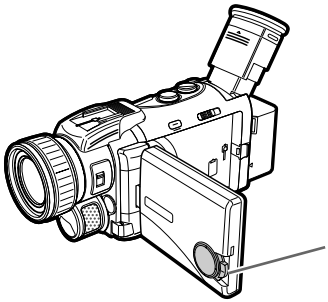
表示入／切ボタンを押す

押すたびに、画面表示が入／切されます。

このボタンは画面表示内の 消 の他に、画面内のタリー表示(撮影状態を示すマーク)と警告表示以外の全ての表示を消すことができるボタンです。

つづく

コントロールレバーでメニュー設定を変える

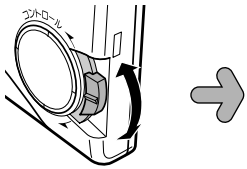


本機はタッチ操作の他に、コントロールレバーでメニュー設定を変えることもできます。

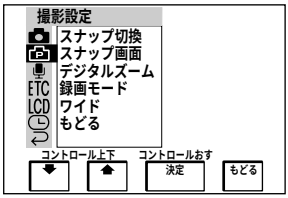
1 **45ページと同じように、「メニュー画面」を出します。**
メニュー にタッチすると、設定項目が表示されます。

2 **▼／▲をタッチするかわりに、【コントロールレバーを上下に動かす】**

動かす

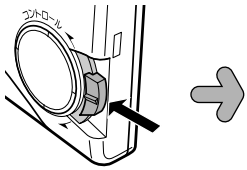


選択される

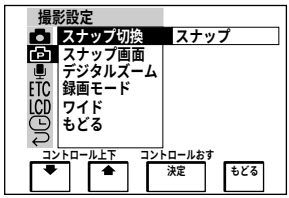


3 **決定 をタッチするかわりに、【コントロールレバーを押す】**

押す



決定される



4 **あとは、タッチ操作と同じように操作していきます。**

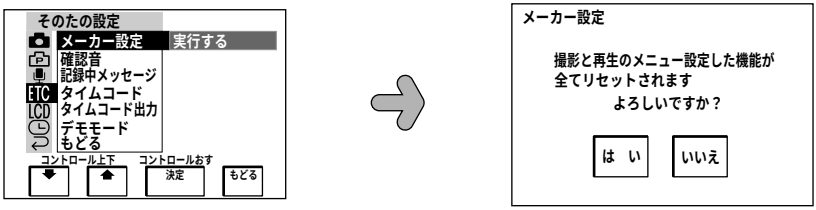
すべての設定を初期状態に戻す

メニュー設定した機能を、ご購入時の状態に戻すことができます。

1 45ページと同じように、「メニュー画面」を出します。

メニュー にタッチすると、設定項目が表示されます。

2 ETC(そのたの設定)項目の「メーカー設定」を選んで「実行する」にします。



3 はい をタッチします。

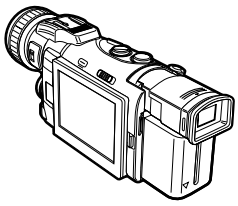
日付設定以外のメニュー設定した機能がご購入時の状態に戻ります。

ビューファインダーを見ながら液晶モニターを操作する

撮影時、液晶モニターを表向きに閉じておくと、ビューファインダーを見ながら液晶モニターのタッチ操作をすることができます。

1 ビューファインダーを引き出し液晶モニターを開きます。

2 液晶モニターを表向きに閉じます。

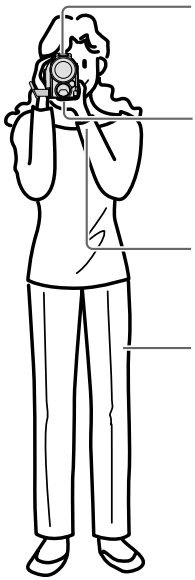


3 ビューファインダーを見ながら液晶モニターをタッチします。

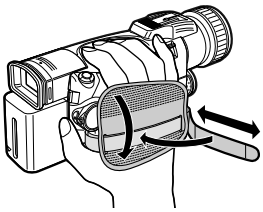
液晶モニターを見ながら操作するときと同じように操作します。

持ちかた・かまえかた

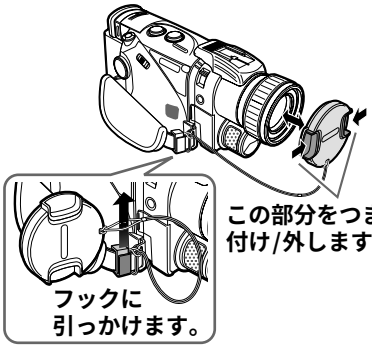
見やすい映像を撮るには、カメラを動かしすぎないようにすることです。ふらつかないように、安定した姿勢で撮影します。



しっかりと手に固定する

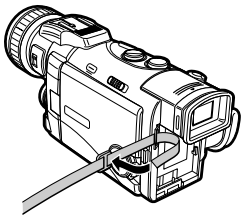


レンズキャップを取り外す/取り付ける

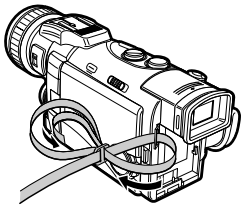


ショルダーベルトを取り付ける

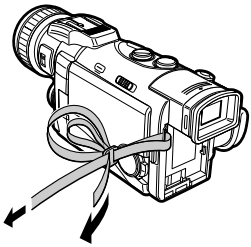
1 **ベルトの先の部分を持って、ショルダーベルト取付部にベルトを通す**



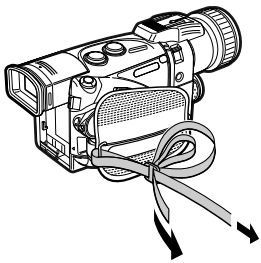
2 **ベルトをたるませ、ベルトの先端をバックルに通す**



3 **バックルにベルトを通して引き絞り、固定する**



4 **反対側のショルダーベルト取付部にも、同様にショルダーベルトを取り付ける**



撮る・見る

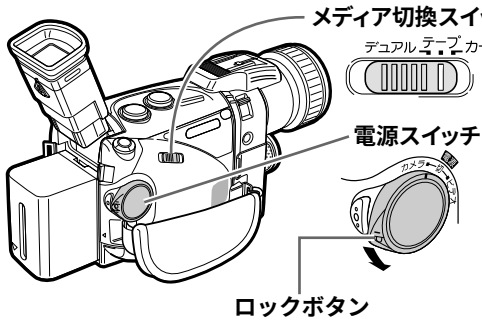
● ここでは、撮影と再生といった本機の最も基本的な操作について説明しています。

ページ

撮影する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
大きくまたは広く撮る（ズーム）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
カードに静止画を記録する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
録画モードを切り換える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
再生する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
再生中に、見たい場面をすばやく探す（ビデオサーチ）・・・・・・・・ 60
画面を止めて見る（静止画再生）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
撮影日時を確認する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
ヘッドホンを使う ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
テレビに接続して見る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
テレビと接続する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
テレビに再生して見る ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
撮影した映像をその場で確認する（録画サーチ）・・ 64
録画の終わった部分をさがす（撮影スタンバイ）・・ 66

撮影する

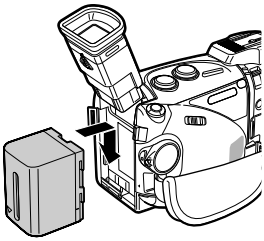
テープで撮る　デュアルで撮る　も使えます 28ページ



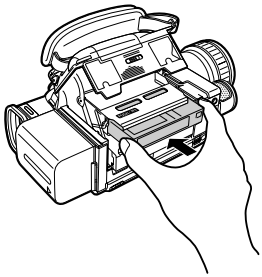
テープの最初から撮影するときは15秒ほど撮影してから、本番の撮影をする事をおすすめします。再生時に始めが欠けるのを防げます。

1 撮影の準備をします。

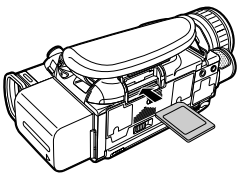
①充電したバッテリーパックまたはDCケーブルを取り付ける（33,34ページ）



②ビデオテープを入れる（40ページ）



③カードを入れる（41ページ）



④レンズキャップを外す（50ページ）

お知らせ

- ビューファインダーや液晶モニター、レンズを太陽に向けたままにすると、故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

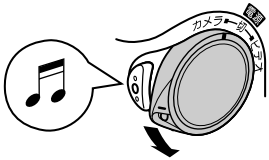
- ヘッドホンを使って、撮影時の音声をモニターすることもできます。（61ページ）
- 長時間録画したいときは、メニューの「録画モード」を「LP」にします。（57ページ）
  録画時間が、SP（標準）の1.5倍になります。

2 スイッチを切り換えます。

①メディア切換スイッチを「テープ」または「デュアル」にする

●テープに撮影したいときは、「テープ」にする。
●テープに動画、カードに静止画を撮影したいときは、「デュアル」にする。

②電源スイッチを「カメラ」にする



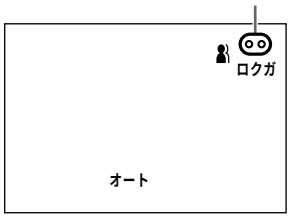
●電源スイッチは、ロックボタンを押しながら動かします。

この段階は撮影待機状態です。まだ録画は始まっていません。

3 撮影をはじめます。

①録画スタート／ストップボタンを押す

撮影が始まります。



お知らせ

●タリー表示や「ロクガ」などの文字、またその他の表示はテープには記録されません。
撮影が始まると、タリー表示が動き始めます。
●「ロクガ」または「ロクガポーズ」の文字は約3秒間のみ表示されます。
●タリー表示は、テープが入っていないと表示されません。

②撮影を止めるとき

もう一度録画スタート／ストップボタンを押す

●録画が止まり、撮影待機状態になります。
●ビデオテープを取り出さない限り、電源を切っても撮影した場面はきれいにつながります。

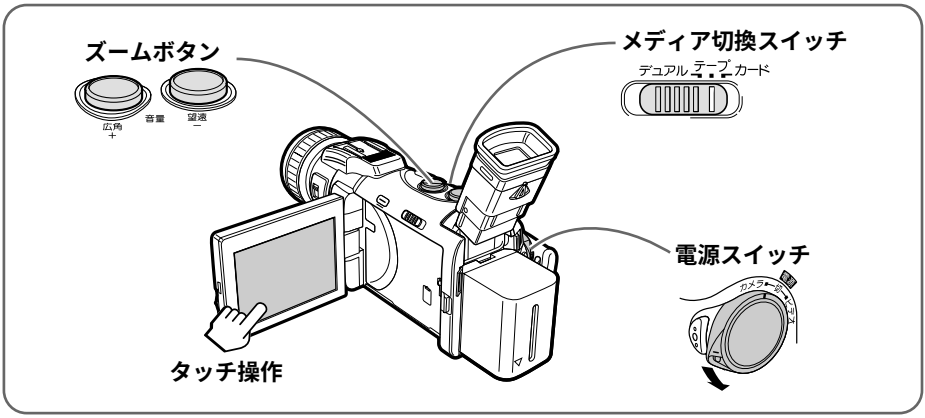
撮影待機状態が4分以上続くと、警告音が鳴り、1分後に自動的に電源が切れます。

- バッテリーを節電し、テープを保護するためです。
  撮影を続けるときは、電源スイッチを一度「切」にし、再び「カメラ」の位置にします。
  液晶モニターリモコンを使用しているときは、液晶モニターリモコンの電源スイッチで、電源を入れてください。（**124**ページ）
- 次の撮影までに間があるときは節電のためこまめに電源を切りましょう。

つづく

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る

も使えます 28ページ



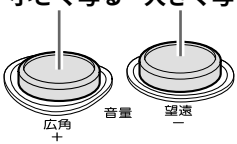
ズームには、次の2種類があります。

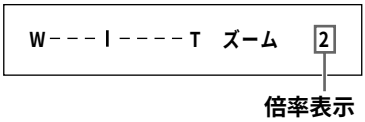
光学ズーム　：被写体を10倍まで拡大できます。
（カード撮影モードでは、7倍までになります。）

デジタルズーム：被写体を11～200倍まで拡大できます。

大きくまたは広く撮る(ズーム)

被写体が小さく写る　**被写体が大きく写る**





（ズームアウト）（ズームイン）

●軽く押すとゆっくりズームし、強く押すと速くズームします。

ズームイン（被写体を大きく撮りたいとき）

ズームアウト（周囲の状況を撮りたいとき）

お知らせ

- **近くの被写体（約1.5m以内）を極端な望遠で撮ると、ピントが合わないことがあります。（このとき、ピントが合うところまで自動的に広角になります。）**
- **カード撮影モードでは、テープ/デュアル撮影モードにくらべて画角が少し広くなります。**

テープで撮る　デュアルで撮る

デジタルズームの倍率を決める

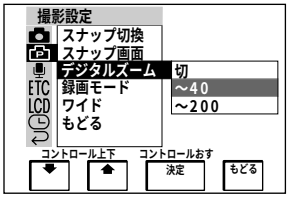
1 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた →45ページ

2 (撮影設定)の「デジタルズーム」を選ぶ

●メニューの選びかた→46ページ

3 「40」または「200」を選ぶ

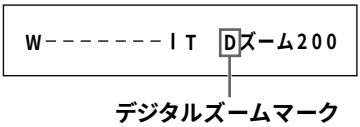


●デジタルズームを使う必要がないときは、デジタルズームを「切」にします。気づかないうちにデジタルズームになるのを防げます。

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

10倍を超えるズームは、デジタルズームになります。



デジタルズームマーク

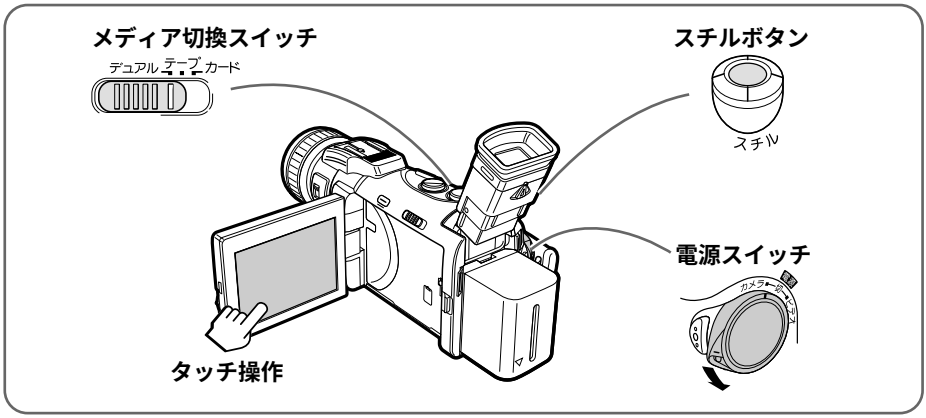
お知らせ

- **デジタルズームのときは、画質が落ちます。(最大ズームアップのとき、水平解像度が約95%劣化します。)**
- **カード撮影モードで使用の場合、デジタルズーム機能は働きません。**

手ブレが気になるときは

- 三脚を付けるか、少し広角に撮ってください。
- 三脚がないときは、ブレ補正機能を「入」にします。

デュアルで撮る



カードに静止画を記録する

デュアル撮影モード時は、メディア切換スイッチをテープとカードに切り換えることなく、テープとカードそれぞれに記録することができます。

デュアル撮影モードで使用中

スチルボタンを押す

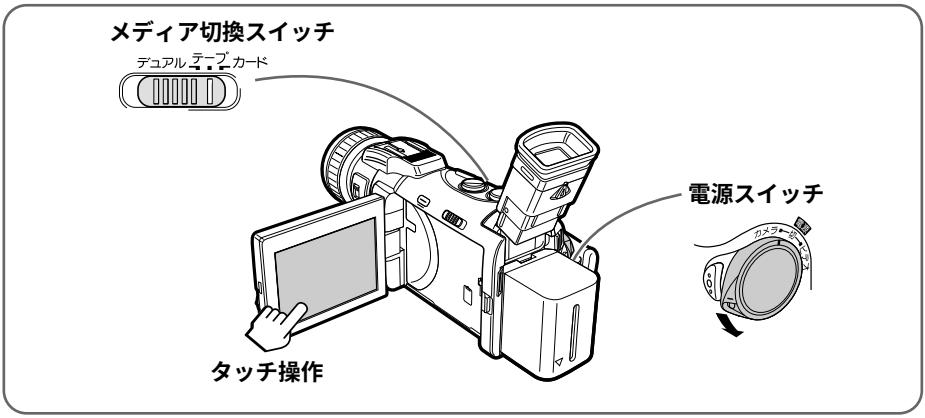
スチルボタンを押した瞬間の静止画が、カードに記録されます。

- テープ撮影中でも、スチルボタンでカードに静止画を記録することができます。このとき、テープに約1.5秒間の静止画が入ります。（📷マークが出て、テープに記録されます。また、シャッター映像は出ません。）
- 画質は、メニュー画面で変更することができます。（→**136**ページ）
- カードに記録した画像を再生するときは**142**ページをご覧ください。

お知らせ

- **画像サイズは、メニュー設定に関係なく「640×480」に固定されます。（→137ページ）**

テープで撮る　デュアルで撮る



録画モードを切り換える

本機の録画モードには、SP（標準）とLP（長時間）モードがあります。LPモードにすると、通常（SP）にくらべ約1.5倍の時間撮影できます。（画質の劣化はありません。）
LPモードを使うときは、「LP」表示のあるカセットテープでご使用ください。表示のないテープでは、モザイク状のノイズが出る場合があります。

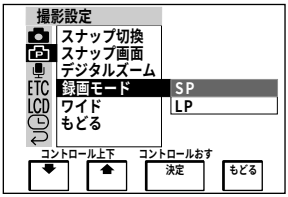
1 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた →45ページ

2 (撮影設定)の「録画モード」を選ぶ

●メニューの選びかた→46ページ

3 「SP」または「LP」を選ぶ



4 もどる を繰り返しタッチする

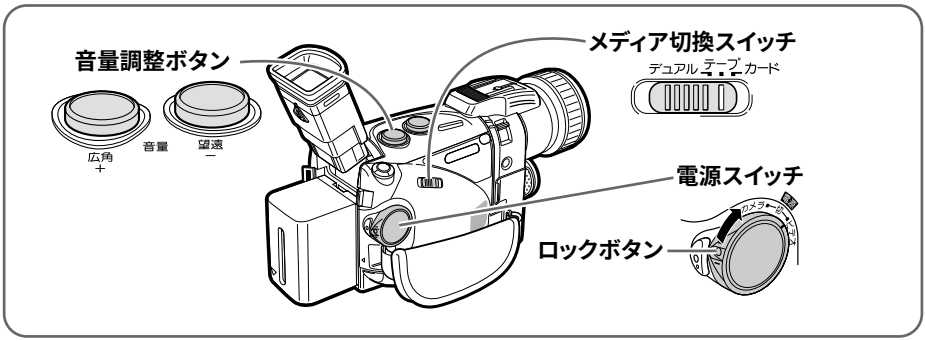
- メニュー画面を消します。
- LPモード選択時は、画面に「ＬＰ」表示が出ます。

お知らせ

- **LPでは、高温な場所での使用など環境によって、モザイク状のノイズが出る場合があります。**
- **本機で撮影したLPモードのテープを他のデジタルビデオ機器で再生すると、モザイク状のノイズが出る場合があります。**
- **LPモードで録画した部分は、アフレコができません。**
- **LPモードで撮影したテープは、LPモードを搭載していないデジタルビデオ機器では正常に再生できません。**

再生する

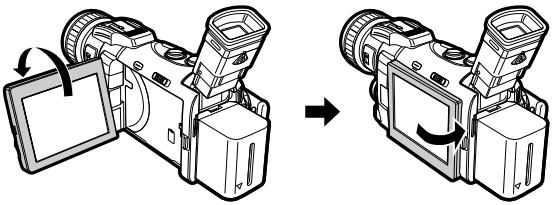
テープを見る　も使えます 28ページ



1 再生の準備をします。

①充電したバッテリーパックまたはDC
ケーブルを取り付ける(33,34ページ)
②ビデオテープを入れる(40ページ)

2 液晶モニターを開きます。



●液晶モニターを外側にむけてたたむこともできます。
●液晶モニターを閉じたままでも、ビューファインダーで再生することができます。(このときは音声が出ません。)

3 スイッチを切り換えます。

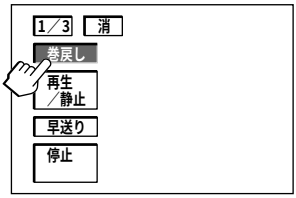
①メディア切換スイッチを「テープ」または「デュアル」にする

②電源スイッチを「ビデオ」にする

●電源スイッチは、ロックボタンを押しながら動かします。

4 テープを巻き戻します。

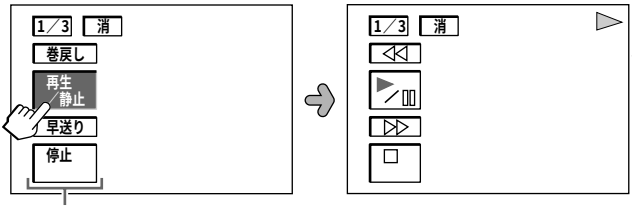
巻戻し をタッチして、テープを巻き戻す



- 早送りするときは、早送り をタッチします。
- ビューファインダーで再生操作をすることもできます。操作するときは、コントロールレバー上／下でテープ走行モードを選択し、押して決定します。
- ビューファインダーで操作中、消 で表示を消した後、再表示したいときは、コントロールレバーを押してください。

5 再生します。

再生／静止 をタッチして、再生する

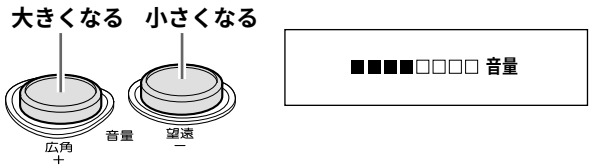


再生が始まると記号表示に変わります。

- テープの最後まで再生を行うと、テープは自動的に巻き戻ります。
——オートリワインド

音量を調整する

内蔵スピーカーで音声が楽しめます。
再生中は、ズームボタンが音量調整ボタンになります。



お知らせ

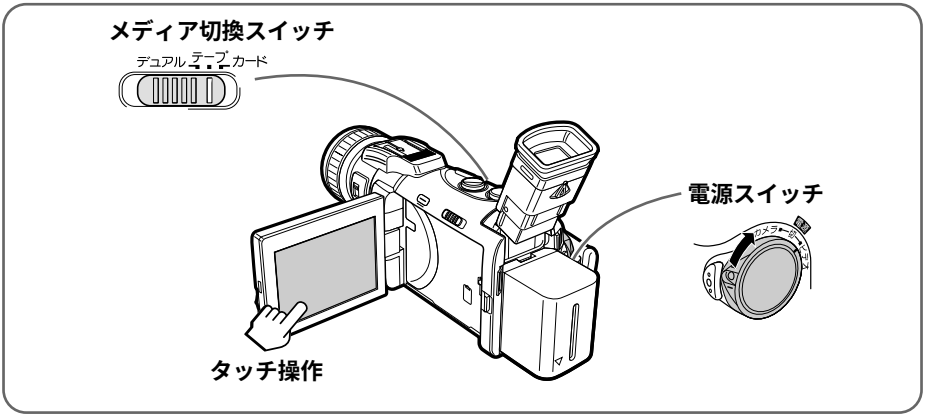
- **ビューファインダーで再生するときは、内蔵スピーカーから音声は出ません。**
- **再生ズーム（109ページ）を行っているときはリモコンで音量を調整してください。**

再生を止めるときは

■（停止）をタッチする

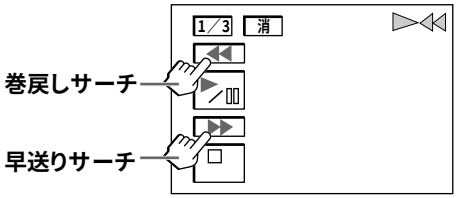
つづく

テープを見る　も使えます 28ページ



再生中に、見たい場面をすばやく探す（ビデオサーチ）

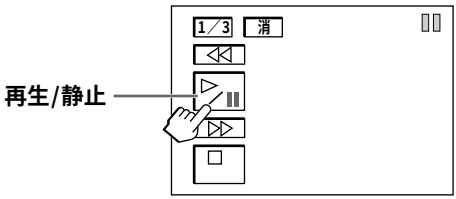
再生中に ◀◀ / ▶▶ をタッチする



▶/II をタッチし、再生に戻す

画面を止めて見る（静止画再生）

再生中に ▶/II をタッチする



再生に戻すときは、▶/II をタッチする

お知らせ

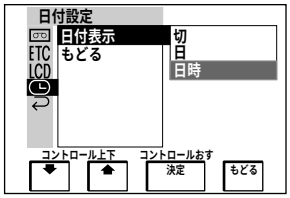
- 静止画再生が約5分、スロー再生が約10分以上続くと、テープ保護のため自動的に再生状態になります。

撮影日時を確認する

1 メニュー画面を出す

2 ㊡(日付設定)の「日付表示」を選ぶ

3 「日」または「日時」を選ぶ



4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

●全てのモードで操作できます。
●メニュー画面の出しかた→45ページ

●メニューの選びかた→46ページ

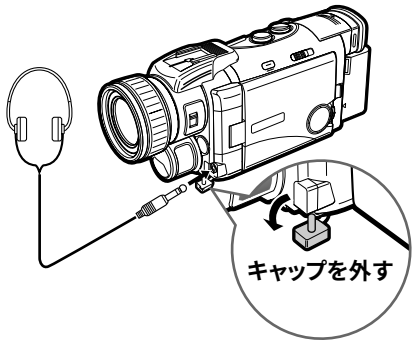
お知らせ

●撮影のとき日付・時刻が正しく設定されていることを確認してください。(38ページ)
●日付・時刻が設定されていない状態で撮影したテープを再生したとき日時表示は「----:--」になります。
●また、何も記録されていない部分や、テープの傷などで日時を読みとれないときも「----:--」が表示されます。

ヘッドホンを使う

本機にヘッドホンをつないで、再生音声や録音中の音を聞くことができます。

ヘッドホン端子に、ヘッドホン(市販品)を接続する



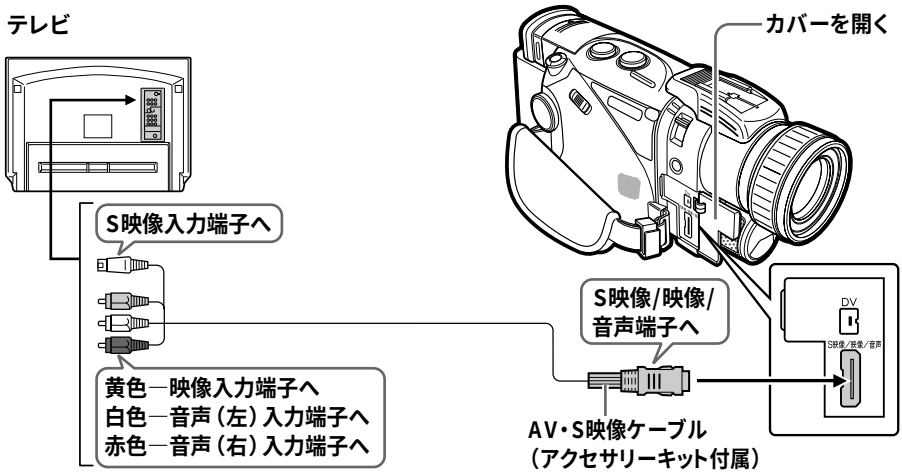
●本機のヘッドホン端子はステレオミニジャック(φ3.5)です。
●ヘッドホンを接続するときは、音量を最小にしてください。
●撮影しているときは、本体で音量調整ができません。リモコンで調整してください。

テレビに接続して見る

テープを見る　カードを見る

撮影した映像をテレビで見るときは、アクセサリーキットに付属のAV・S映像ケーブルでテレビと本機を接続します。
電源は、ACアダプターとDCケーブルを使ってコンセントからとることをおすすめします。

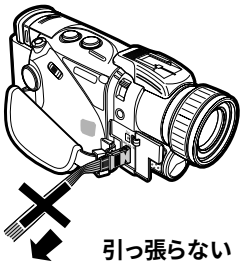
テレビと接続する



AV・S映像ケーブル使用時のご注意

AV・S映像ケーブルを接続した状態で､強い力で引っ張るなど無理な力を加えないでください。ケーブルが抜けなくなったり、抜けやすくなるなど、故障の原因となります。

撮影時など、ケーブルが引っ張られた状態にならないようにご注意ください。



テレビに再生して見る

1 テレビの電源を入れ、外部入力チャンネルにする

2 本機をテープ再生モードにする

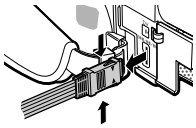
3 再生／静止 をタッチし、再生する

4 止めるときは ■ (停止)をタッチする

- バッテリーで使用するときは、液晶モニターを閉じて再生することをおすすめします。液晶モニターを開いた状態で再生するのに比べ、バッテリーを節約することができます。
- カード再生モードでも操作できます。
- モードの切り換えかた →42ページ

AV・S映像ケーブルを外すとき

プラグのツメを押しながら、外す

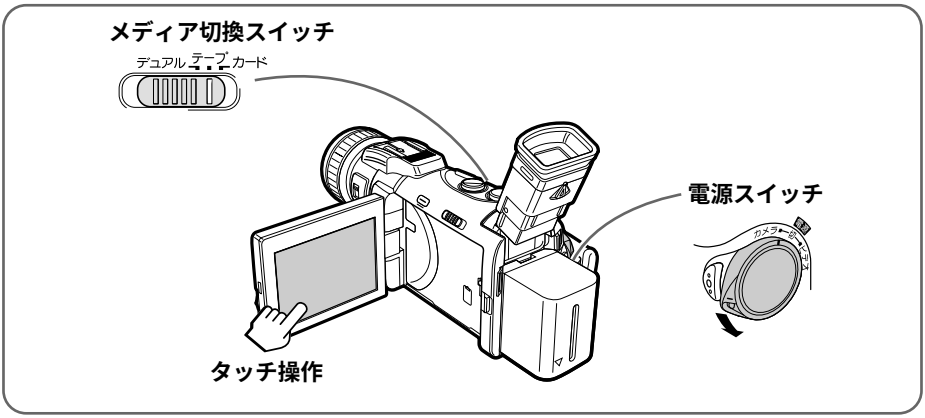


お知らせ

- 音声入力端子が1つ(モノラル)のテレビやビデオの場合は、白いプラグをテレビやビデオの音声入力端子に接続します。このとき赤いプラグは接続しないでください。
- 接続する機器にS映像端子がある場合は、AV・S映像ケーブルのS映像プラグを使います。
  S映像プラグは映像用のみです。音声用にAV・S映像ケーブルの白/赤プラグを接続する必要があります。
- S2端子付ワイドテレビと本機をAV・S映像ケーブルのS映像プラグで接続したとき、本機のワイド機能で記録したテープを再生すると、テレビが自動的にワイド画面になり、画面いっぱいの映像が楽しめます。
- S1端子のみ対応のワイドテレビでご覧になるときに、画面の上下に黒帯が出るなど違和感のある画面となる場合は、黄色のプラグで接続し、テレビの画面サイズをシネマモードに切り換えてお楽しみください。くわしくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

撮影した映像をその場で確認する(録画サーチ)

テープで撮る　デュアルで撮る

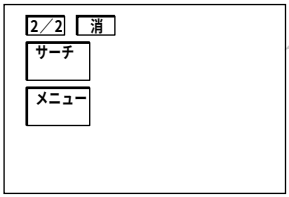


撮影を終えた後、電源スイッチを切り換えずに撮影内容の確認ができます。
撮影をやり直したいときや、失敗シーンをカットするときに便利な機能です。

1 テープ撮影モードにする

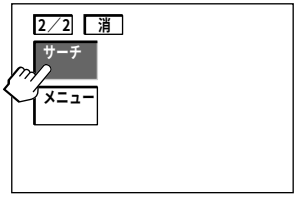
●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 2/2 画面を出す



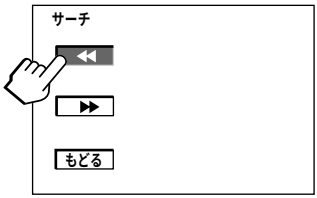
●機能の選択のしかた→**45**ページ

3 サーチ をタッチする



4 ◀◀ を1秒以上タッチし続ける

- 見たいシーンを探します。
- タッチしている間だけ逆方向に約5倍速で再生されます。離すと撮影待機状態に戻ります。



▶▶ を1秒以上タッチし続ける

- 映像を確認します。
- タッチしている間だけ通常再生されます。
  離すと撮影待機状態に戻ります。
  ボタンから指を離した時点が、つぎの撮影開始点になります。

お知らせ

●録画サーチ中の音声は出ません。

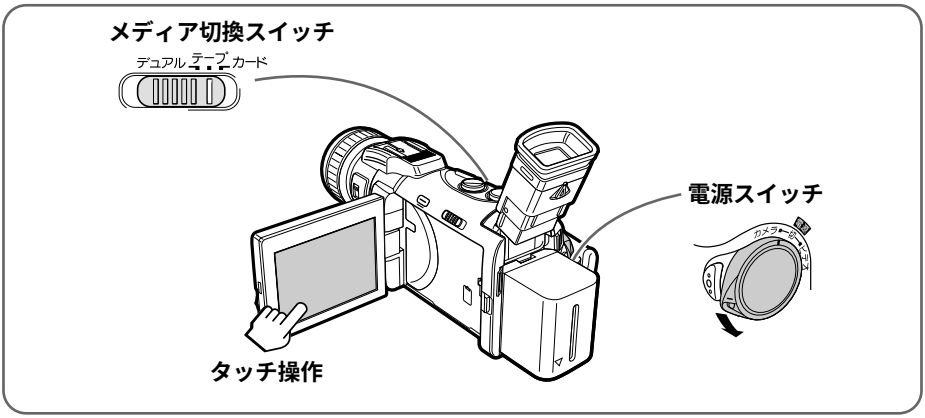
終わるときは

5 もどる をタッチする

2/2 画面に戻ります。

録画の終わった部分をさがす(撮影スタンバイ)

テープで撮る　デュアルで撮る



テープ撮影を始めるとき、前回の撮影終了場面(次にスタートしたい位置)が簡単に頭出しできます。

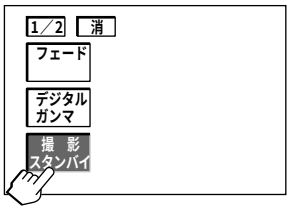
1 テープ撮影モードにする

●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 1/2 画面を出す

●機能の選択のしかた→**45**ページ

3 撮影スタンバイ をタッチする



●途中で解除したいときは、もう一度タッチします。

頭出しが完了すると、「スタンバイ終了」が表示され、しばらくすると自動的に撮影待機状態になります。

お知らせ

次の場合には撮影スタンバイはできません。(表示ができません。)
●一度テープを取り出したとき。
●未録画のテープのとき。

使いこなす

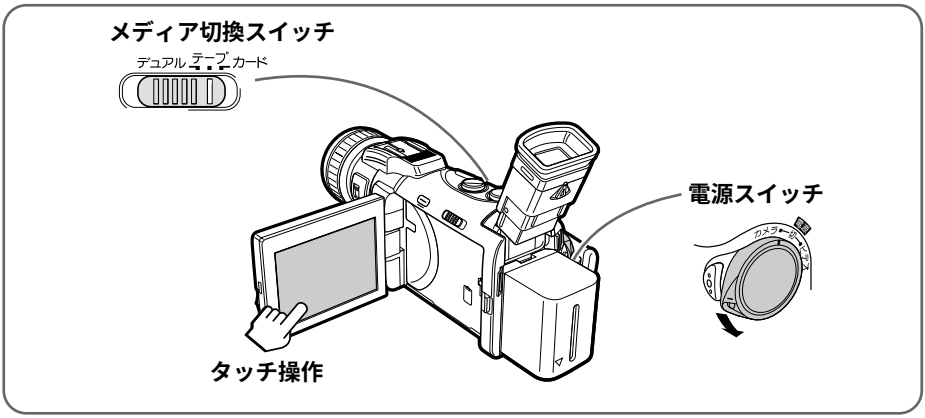
● ここでは、よりきれいな映像を撮るためのいろいろな機能について説明しています。

ページ

撮影の練習をする（トレーニング機能） …… 68
トレーニング機能で撮影の練習をする …… 69
ガイド表示に従って撮影してみる …… 70
静止画面で撮る（スナップ撮影） …… 72
スナップ撮影の種類を選択する …… 72
スナップ撮影をする …… 73
逆光の中や暗いときに撮る（デジタルガンマ明るさ補正） …… 75
暗闇で撮る（ナイトレーダー） …… 76
自然な色合いで撮る（ホワイトバランス） …… 78
明るさを補正する（アイリス補正） …… 82
暗い場面を撮る（ゲインコントロール） …… 84
シャッタースピードを調整する …… 86
シーンに合わせた設定にする（プログラム設定） …… 88
手動でピントを合わせる …… 92
音声をよりよく撮る …… 94
ズームマイクの取り付けかた …… 94
ズームマイクを設定する …… 95
「音声シーン切換」設定のしかた …… 96
「風音低減」設定のしかた …… 97
録画・再生の経過時間を知りたいとき（タイムコード表示） …… 98
タイムコード表示の出しかた（テープ再生モードの例） …… 98
テレビ画面にタイムコードを出したいとき …… 99
手ブレ補正を解除する（ブレ補正） …… 100

撮影の練習をする(トレーニング機能)

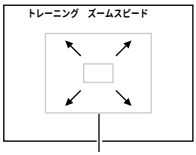
テープで撮る　デュアルで撮る



トレーニング機能を使うとズームスピードや被写体のサイズなど撮影の基本テクニックを練習することができます。

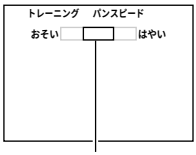
[このような練習ができます]

ズームスピードの練習
拡大⇔縮小するガイド枠に合わせてズームをします。



ガイド枠

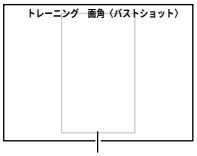
ズームを望遠や広角にしたときのパンニング(カメラを左右に動かす)スピードの練習
中央の緑部分から白いバーが遅い方向や速い方向へ増減しないようにカメラを動かします。



ガイド表示

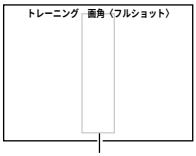
被写体サイズ(人物を撮影するとき)の練習

バストショット
ガイド枠内に上半身が入るようにサイズを合わせます。



ガイド枠

フルショット
ガイド枠内に全身が入るようにサイズを合わせます。



ガイド枠

クローズアップ
ガイド枠内に顔がアップで入るようにサイズを合わせます。

ガイド枠

トレーニング機能で撮影の練習をする

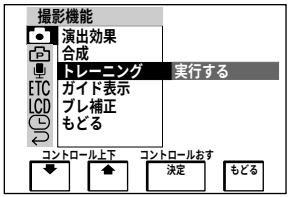
1 テープ撮影モードにする

●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

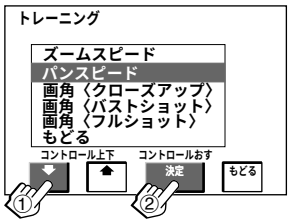
3 選んで決定する
① (撮影機能)
② トレーニング
③ 実行する



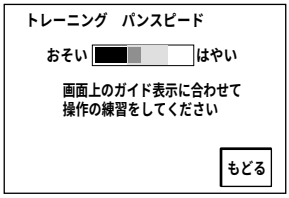
●メニューの選びかた→**46**ページ

4 ▼／▲をタッチし、練習したい項目を選ぶ

5 決定をタッチする



6 画面の表示に合わせてカメラ操作をする
ガイド枠に合うように操作してください。

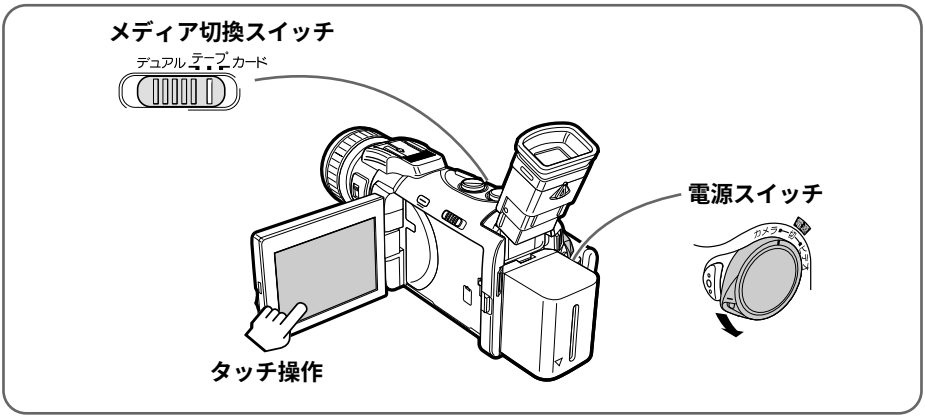


●**他の項目を選び直すときは**
もどるをタッチします。
トレーニング選択画面(手順**4**の画面)に戻ります。練習したい項目を選び直します。

終了するときは

7 もどるを繰り返しタッチする
メニュー画面に戻り、トレーニングが終了します。

テープで撮る　デュアルで撮る



ガイド表示に従って撮影してみる

撮影したときにガイド表示が出て撮影結果や撮影のためのポイントが液晶モニターに表示されます。

[このようなガイド表示が出せます]

撮影結果　：撮影終了時に撮影時間、ズーム回数、パンニング回数を約5秒間表示します。(再表示することはできません。)

パンスピード：パンニングスピードのガイド表示が出ます。パンニング終了時にメッセージが出ます。

録画時間　：撮影を開始して撮影時間が長すぎる(3分以上撮影した)場合に録画マーク(表示)が点滅し、長すぎることをお知らせします。

ズーム　：ズーム操作を行ったとき、望遠にしすぎてちょっと広角に戻したときなどメッセージが表示されます。

1 テープ撮影モードにする

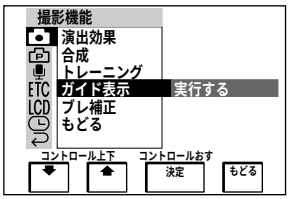
●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影機能)
② ガイド表示
③ 実行する

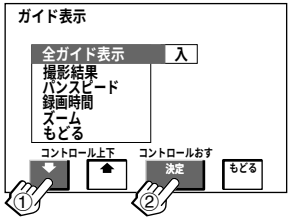


●メニューの選びかた→46ページ

4 ▼／▲をタッチし、「全ガイド表示」を選ぶ

5 決定 をタッチする

タッチするたびに全ガイド表示が「入」⇔「切」します。



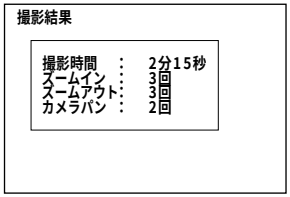
「入」にすると、すべての項目が「入」状態になります。
「切」にすると、それぞれ個別に「入/切」を設定できます。

6 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

7 録画スタート／ストップボタンを押し、撮影する

もう一度押すと撮影が止まり、撮影結果が表示されます。



ガイド表示を消すときは

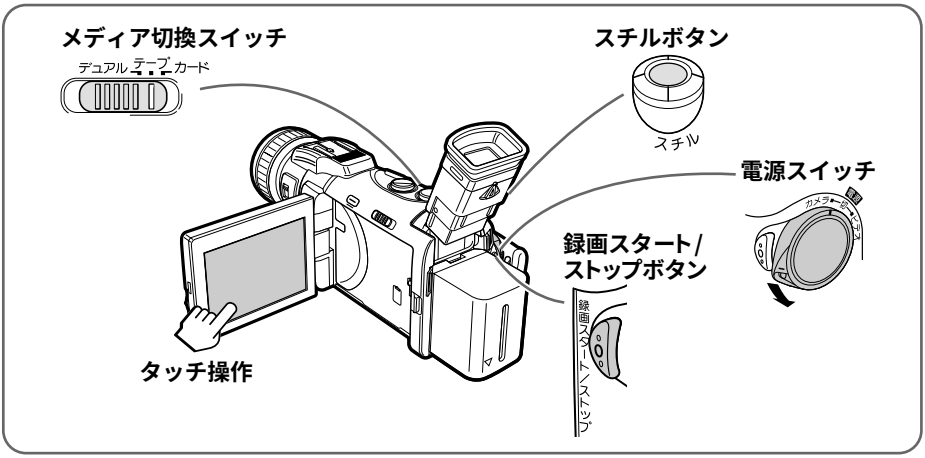
「全ガイド表示」を「切」にする

お知らせ

- **トレーニング機能・ガイド表示機能はテープ撮影およびデュアル撮影で働く機能です。カード撮影では働きません。**
- **トレーニング機能でテープ撮影したときは、ガイド枠も記録されます。**
- **次のときは、トレーニング機能・ガイド表示機能が働きません。**
  - **・マニュアル機能のシャッタースピード設定を1/30にしたとき**
  - **・ナイトレーダーを「入」にしたとき**

静止画面で撮る(スナップ撮影)

テープで撮る



[次の2種類が選択できます。]
「スナップ撮影」：普通のカメラ感覚で約6秒間の静止画面を記録します。
「スチル撮影」　：静止画面を連続で記録します。

スナップ撮影の種類を選択する

1 テープ撮影モードにする

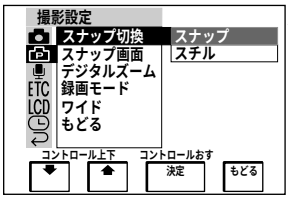
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影設定)
② スナップ切換
③ スナップ、または スチル



●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

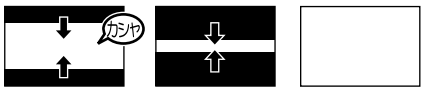
撮影待機中に操作します

5 押す

静止画面になります。

押すたびに、「通常」⇔「静止画面」に切り換わります（この時点では、まだ記録は始まっていません）。

- **「スナップ」に設定している場合**
  シャッター映像とシャッター音が出て、静止画面になります。



- **「スチル」に設定している場合**
  静止画面になります。

6 押す

記録が始まります。

スナップ撮影のときは、約6秒間記録された後、自動的に撮影待機状態に戻ります。

●テープ撮影モード時、スナップ画面が「9」、「16」になっていると、スナップ撮影したときにマルチストロボ画面になります。（**106**ページ）
●シャッター音を消したいときは、メニュー画面で確認音を「切」にしてください。（**163**ページ）

「スナップ」に設定しているとき

●撮影中にスチルボタンを押すと、静止画を約6秒間録画したあと撮影待機状態になります。

お知らせ

●スチル状態を長時間続けることは避けてください。長時間スチルで撮った場合、液晶モニター／ビューファインダーに残像が現れることがあります。電源を切って放置しておくと自然に消えます。

スチル撮影で録画を止めるとき

7 押す

スチル撮影で静止画を解除するとき

8 押す

デュアル撮影モードでご使用の場合

デュアル撮影モードでは、メディア切換スイッチを切り換えることなくテープに動画、カードに静止画を記録できます。

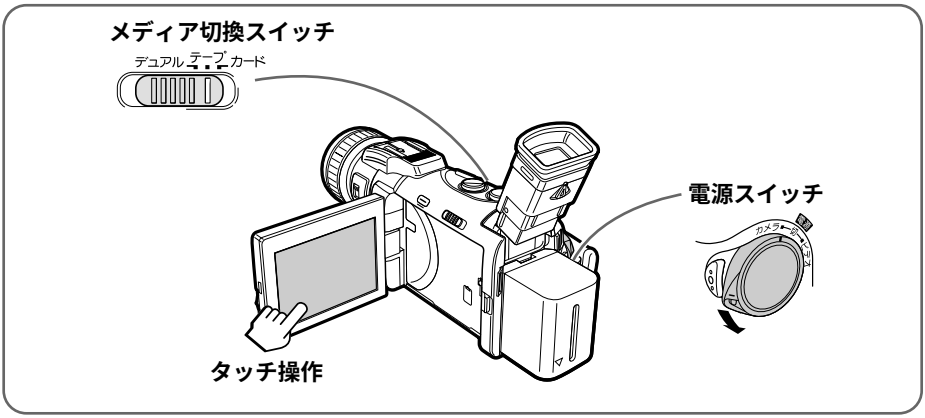
● **スチルボタン（手順5）を押すと、そのままカードに静止画が記録できます。**
テープ撮影中にスチルボタンを押した場合は、カードに静止画が記録されると同時に、テープにも約1.5秒間の静止画が記録されます。（このときは📷マークが出て、テープに記録されます。また、シャッター映像は出ません。）

● **録画スタート/ストップボタン（手順6）を押すと、テープに動画が記録できます。（通常のテープ撮影と同じ）**

● **メニューに「スナップ切換」の項目はありません。**

逆光の中や暗いときに撮る(デジタルガンマ明るさ補正)

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る



ガンマ機能とは、逆光時(撮影時に被写体の後方が 明るすぎて被写体が暗く映るようなとき)や、照明の暗いところで撮影するときに被写体を明るく映るように補正する機能です。

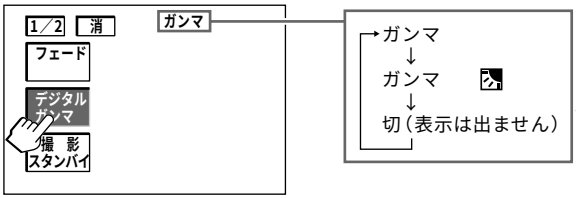
逆光の中で撮る

1 テープ撮影モードにする

2 1/2 画面を出す

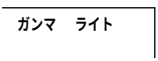
3 デジタルガンマ をタッチする

タッチするたびに、ガンマ機能が切り換わります。



暗い場所で撮る

光量が不足していると、画面に「ライト」表示が出ます。



デジタルガンマ をタッチする

タッチするたびに**「ガンマ」⇔「切」**に切り換わります。

- デュアル撮影モード/カード撮影モードでも操作できます。
- モードの切り換えかた→**42**ページ

- 機能の選択のしかた→**45**ページ

- 撮影中でも撮影待機中でも働きます。

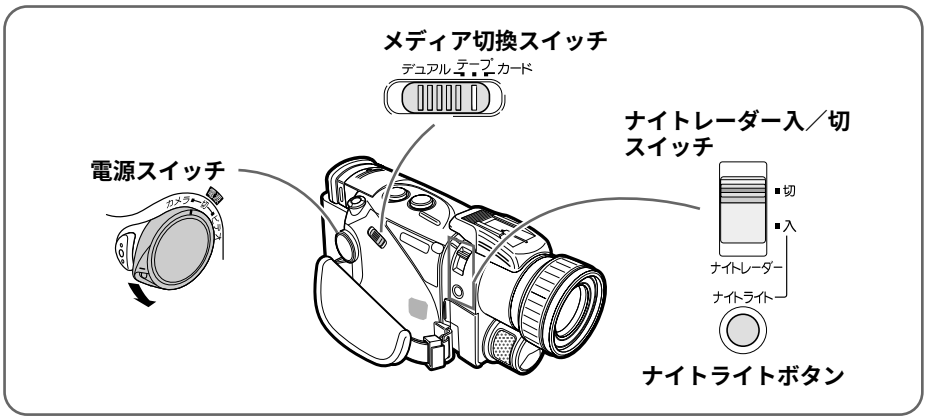
- **ガンマ:**画面全体の雰囲気を変えずに、暗い部分を明るく補正します。
- **ガンマ+(逆光補正):**「ガンマ」だけでは暗く感じるときに、この設定にします。
  明るい空や反射光などで白トビする場合があります。

お知らせ

- **画面に「ライト」表示がでたときは、「逆光補正」は解除されます。**

暗闇で撮る(ナイトレーダー)

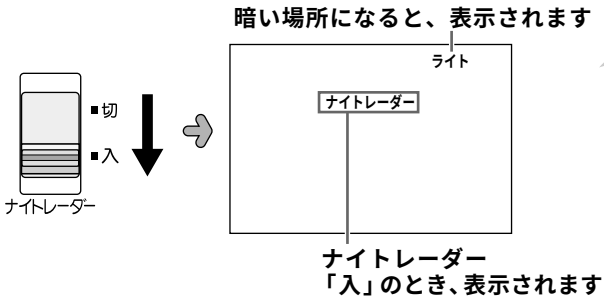
テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る



明かりがほとんどない場所でも撮影することができます。

1 テープ撮影モードにする

2 ライト表示が出ているときに「入」にする



撮影中に「入」にしても働きます。

●デュアル撮影モード/カード撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

●ナイトレーダーで撮影しているとき、オートフォーカスでピントが合いにくい場合があります。そのようなときは、マニュアルフォーカスを使いピントを合わせてください。
→**92**ページ

お知らせ

- **昼間の屋外など明るいところでは使用しないでください。画面が白トビします。**
- **ナイトレーダーを「入」にしたとき、マニュアル機能(78〜91ページ)はすべてオートになります。**

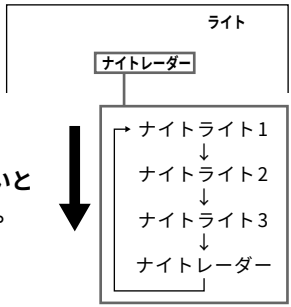
ナイトライトを使う

ナイトライトは、赤外線の照射とシャッタースピードを調整しナイトレーダーだけでは捕らえきれない所も撮影できるようにする機能です。
ナイトライトは、3段階に切り換えられます。

1 ナイトレーダーを「入」にする

2 押す

数字を上げると、より暗いところが見やすくなります。



ボタンを押すごとに各モードで下記のように切り換わります。

▶**テープ撮影モード／デュアル撮影モード時**
→「ナイトレーダー」→「ナイトライト1」→「ナイトライト2」→「ナイトライト3」
の順に切り換わります。

▶**カード撮影モード時**
→「ナイトレーダー」→「ナイトライト1」
の順に切り換わります。

お知らせ

- **ナイトライトは赤外線のため、目には見えません。ライトの届く範囲はナイトライト3で約3mです。**
- **ナイトライトを「入」にすると白黒の映像になります。**

お知らせ

- **ナイトライト2または3を選択すると、シャッタースピードを自動的に遅くするため、手ブレを起こしやすくなります。また、画面がザラついた感じになります。動いている被写体を撮影すると尾を引いたような映像になります。**

【別売のIRライト（VR-VLR1またはVR-VIF3）を装着しIRライトを点灯させている時】
（本体のナイトライトも点灯します。）

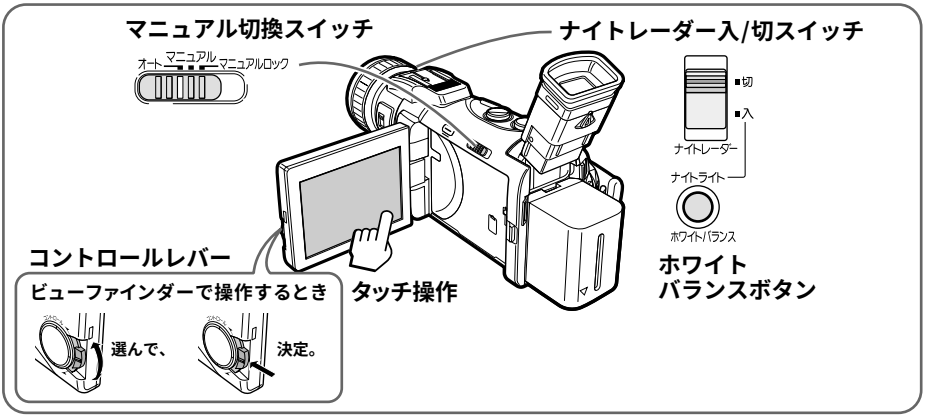
▶**テープ撮影モード／デュアル撮影モード時**
→「ナイトライト1」→「ナイトライト2」→「ナイトライト3」 の順に切り換わります。

▶**カード撮影モード時**
「ナイトライト1」のみとなります。

IRライトを切っているときは、内蔵のナイトライト切り換えと同じ動作になります。

自然な色合いで撮る(ホワイトバランス)

テープで撮る　メモリーで撮る　カードで撮る



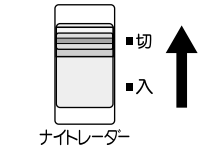
撮る場所の明るさや光源に合わせて、自然な色合いで撮ることができます。通常は、自動的に色合いの調整が行われます。

[設定項目]

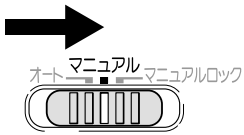
オート　：　自動的に色合いを調整します。
オクガイ　：　晴れた日の屋外撮影に適しています。
オクナイ　：　屋内のハロゲンランプや電球などの光源に適しています。
ロック　：　基準とする色合いを固定します。(ホワイトバランスロック)
調整　：　意図的に色合いを変えることができます。

撮影待機中に操作します

1 「切」にする

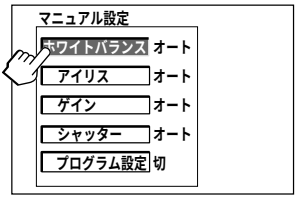


2 「マニュアル」にする



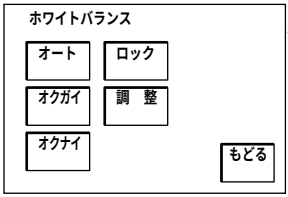
●「オート」にすると、次の設定が自動で行われます。
- ホワイトバランス
- アイリス(**82**ページ)
- ゲイン(**84**ページ)
- シャッタースピード(**86**ページ)
- プログラム設定(**88**ページ)

3 ホワイトバランス をタッチする



●ビューファインダーでも、コントロールレバーを使って操作できます。

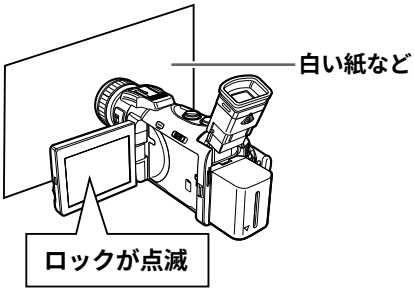
4 選んでタッチする



●設定を途中で止めるときは、もどる をタッチします。

●ホワイトバランスボタンで「ロック」する事もできます。(80ページ)

・ロック を選ぶときは
白い紙など画面いっぱいに写しながら、ロック をタッチする。



点灯に変われば完了です。

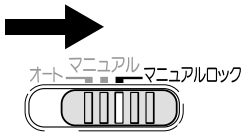
・調整 を選ぶときは➡81ページ

お知らせ

- **「ロック」の点滅が点灯に変わる前にカメラを動かすと「ロック」が点滅し続けることがあります。ホワイトバランスを「オート」に戻し、設定し直してください。**
- **ホワイトバランスロックで撮影中、以下の場合ホワイトバランスがずれることがあります。このようなときは、ホワイトバランスロックを設定し直してください。**
  - **・光源が変わったとき。**
  - **・屋内と屋外を出入りしたとき。**

5 「マニュアルロック」にする

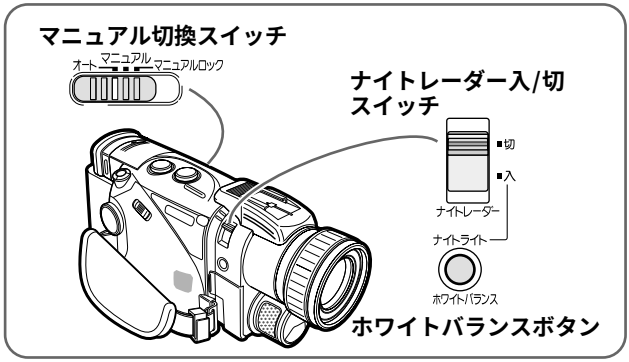
撮影画面に戻り、設定が保持されます。



●設定状態を確認したいときは、再度「マニュアル」にします。

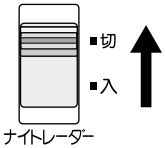
●オート状態に戻すときは →81ページ

ホワイトバランスボタンで「ロック」する

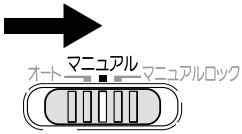


白い紙など、白い被写体を画面いっぱいに写しながら、設定します。

1 「切」にする

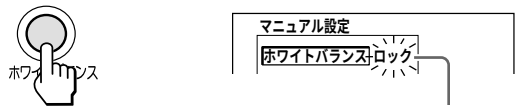


2 「マニュアル」にする



3 押す

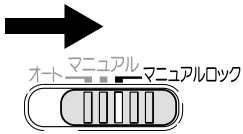
押すたびに、「オート」⇔「ロック」になります。



点滅→点灯に変われば、設定終了です。

4 「マニュアルロック」にする

撮影画面に戻り、設定が保持されます。



お知らせ

ホワイトバランスロックで撮影中、以下の場合ホワイトバランスがずれることがあります。このようなときは、ホワイトバランスロックを設定し直してください。

- **光源が変わったとき。**
- **屋内と屋外を出入りしたとき。**

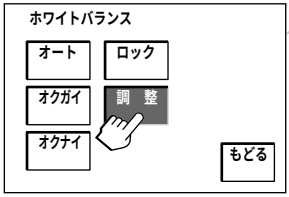
お知らせ

- **「ロック」の点滅が点灯に変わる前にカメラを動かすと「ロック」が点滅し続けることがあります。ホワイトバランスを「オート」に戻し、設定し直してください。**

- 設定状態を確認したいときは、再度「マニュアル」にします。

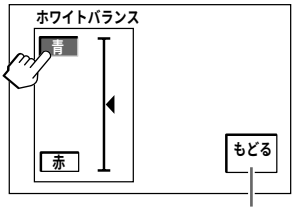
調整 を選ぶときは(79ページ手順4からのつづき)

4 調整 をタッチする



●設定を途中で止めるときは、もどる をタッチします。

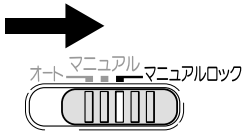
5 赤 ／ 青 をタッチして、色合いを調整する



手順4の画面に戻ります。

6 「マニュアルロック」にする

撮影画面に戻り、設定が保持されます。



●設定状態を確認したいときは、再度「マニュアル」にします。

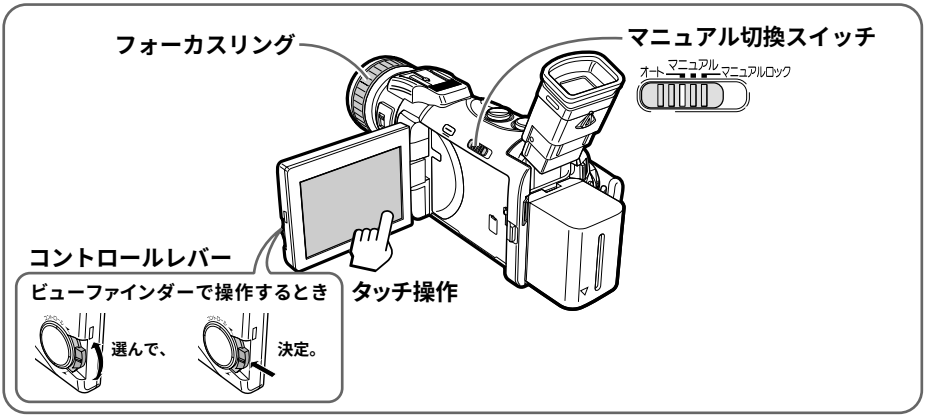
オートホワイトバランスに戻すときは
79ページの手順4で オート をタッチする。

すべてのマニュアル設定項目をオートに戻したいときは
「オート」にする。

マニュアル切換スイッチを「オート」に戻した後、5分以内に再度「マニュアル」に切り換えたときは、前の設定値が記憶されています。

明るさを補正する(アイリス補正)

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る



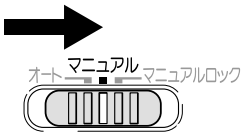
被写体と背景で明暗の差がありすぎるとき(逆光で撮影するときなど)に明るさを補正して、より自然な映像が撮影できます。

こんなときに使うと効果的です(F1.6～F19の15段階の範囲で調整できます。)

背景が明るすぎて被写体が黒くつぶれるとき。	➔	F値を小さくします。
背景に比べて被写体が明るすぎるとき。	➔	F値を大きくします。

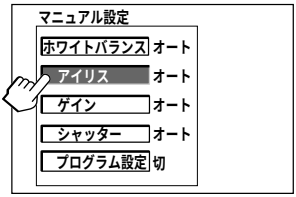
撮影待機中に操作します

1 「マニュアル」にする



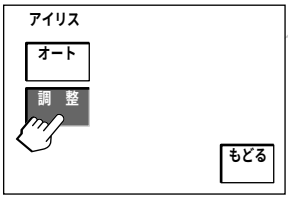
●「オート」にすると、次の設定が自動で行われます。
- ホワイトバランス(78ページ)
- アイリス
- ゲイン(84ページ)
- シャッタースピード(86ページ)
- プログラム設定(88ページ)

2 アイリス をタッチする



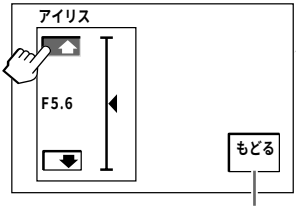
●ビューファインダーでも、コントロールレバーを使って操作できます。

3 調整 をタッチする



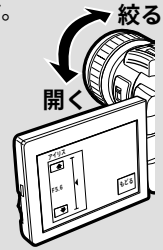
●設定を途中で止めるときは、もどる をタッチします。

4 ▼／▲をタッチして、設定値を調整する



手順2の画面に戻ります。

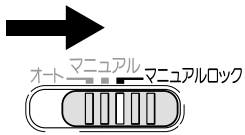
●フォーカスリングを回して調整することもできます。



アイリス調整画面でのみ操作できます。

5 「マニュアルロック」にする

撮影画面に戻り、設定が保持されます。



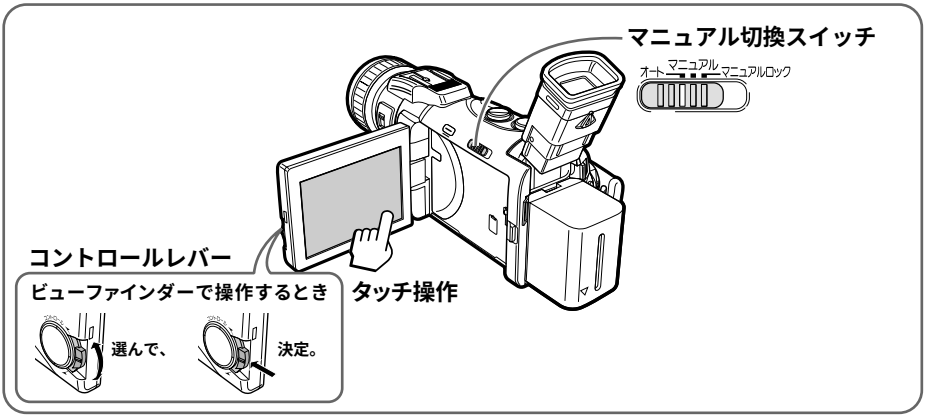
●設定状態を確認したいときは、再度「マニュアル」にします。

オートアイリスに戻すときは
手順3で オート をタッチする。

すべてのマニュアル設定項目をオートに戻したいときは➡81ページ

暗い場面を撮る(ゲインコントロール)

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る



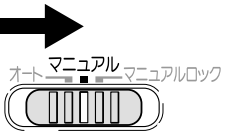
暗い場所などでオート撮影しているとき、ゲインが自動的に調整され実際の場面より明るく映ることがあります。このような場合、ゲインコントロールをすることにより、暗い場面を撮影することができます。

こんなときに使うと効果的です(0dB～＋18dBの7段階の範囲で調整できます。)

暗い場面を忠実に撮影したいとき。	→ゲイン値を小さくします。(感度を下げる)
背景が明るすぎて、被写体が黒くつぶれるとき。	→ゲイン値を大きくします。(感度を上げる)

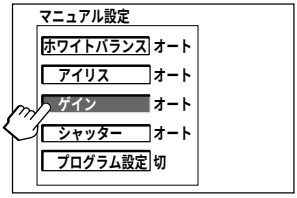
撮影待機中に操作します

1 「マニュアル」にする



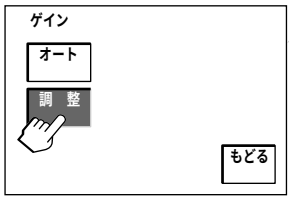
●「オート」にすると、次の設定が自動で行われます。
- ホワイトバランス(78ページ)
- アイリス(82ページ)
- ゲイン
- シャッタースピード(86ページ)
- プログラム設定(88ページ)

2 ゲイン をタッチする



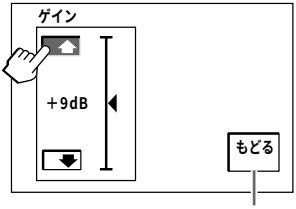
●ビューファインダーでも、コントロールレバーを使って操作できます。

3 調整 をタッチする



●設定を途中で止めるときは、もどる をタッチします。

4 ▼／▲をタッチして、設定値を調整する

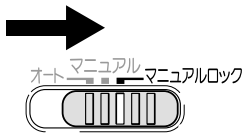


手順2の画面に戻ります。

●設定値を上げすぎると、画面がザラつくことがあります。

5 「マニュアルロック」にする

撮影画面に戻り、設定が保持されます。



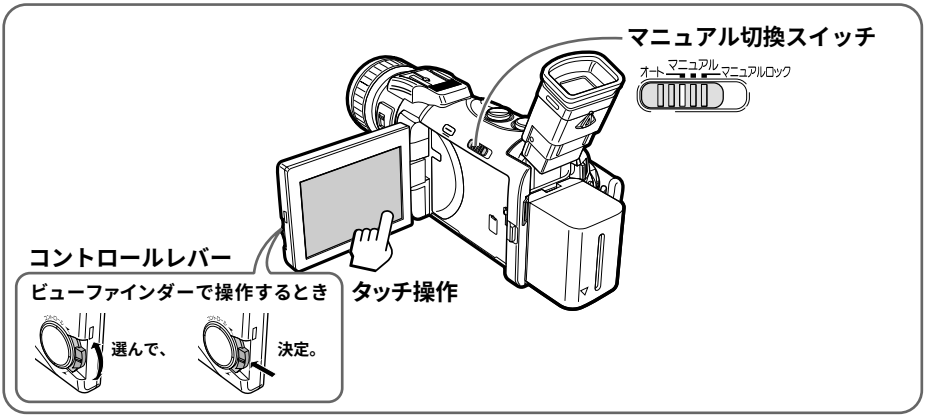
●設定状態を確認したいときは、再度「マニュアル」にします。

オートゲインに戻すときは
手順3で オート をタッチする。

すべてのマニュアル設定項目をオートに戻したいときは➡81ページ

シャッタースピードを調整する

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る



動きの速い被写体を高速電子シャッターで撮影すると、ブレの少ない静止画やスロー再生が楽しめます。

テープ/デュアル撮影モード時 ：1/30～1/10000の17段階の範囲で設定できます。

カード撮影モード時 ：1/30～1/500の9段階の範囲で設定できます。

シャッタースピード調整例

• 晴天下でスポーツのフォーム撮影 • 晴天下でスキー場での撮影	→	1/10000秒～1/1000秒
• 薄曇天候下での屋外スポーツ撮影など • 自動車などから屋外を撮影するとき （振動による画像のブレを防ぎたいとき）	→	1/1000秒～1/250秒
• ND2フィルターの代わりに使用 （光量を1/2に抑えることができます）	→	1/100秒

撮影時のヒント

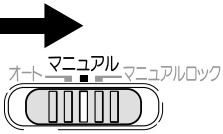
●シャッタースピードを速くすると画面が暗くなることがあります。
太陽光の下またはビデオライトなどの補助照明を使い、影を少なくして明るい場所で撮影してください。

●蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明の下では、画面が明るくなったり暗くなったりするフリッカー現象が起こることがあります。

●蛍光灯の下で撮影するときは
関東地方など50Hzの地域では、1／60秒の シャッタースピードで撮影すると、ちらつきが出ることがあります。
このようなときは、シャッタースピードを1／100秒にすると、きれいな映像になります。

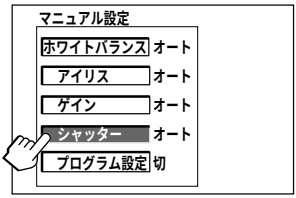
撮影待機中に操作します

1 「マニュアル」にする



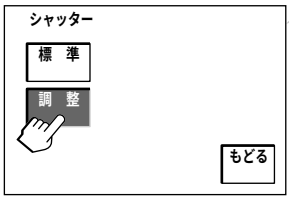
●「オート」にすると、次の設定が自動で行われます。
- ホワイトバランス（78ページ）
- アイリス（82ページ）
- ゲイン（84ページ）
- シャッタースピード
- プログラム設定（88ページ）

2 シャッター をタッチする



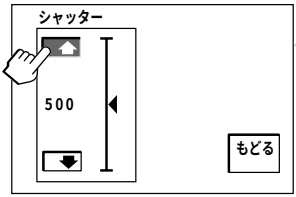
●ビューファインダーでも、コントロールレバーを使って操作できます。

3 調整 をタッチする



●設定を途中で止めるときは、もどる をタッチします。

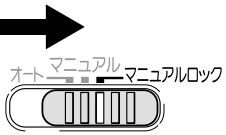
4 ▼／▲をタッチして、シャッタースピードを調整する



●シャッタースピードを設定した後、プログラム設定（88ページ）を設定→解除すると、シャッタースピードはオートに戻ります。

5 「マニュアルロック」にする

撮影画面に戻り、設定が保持されます。



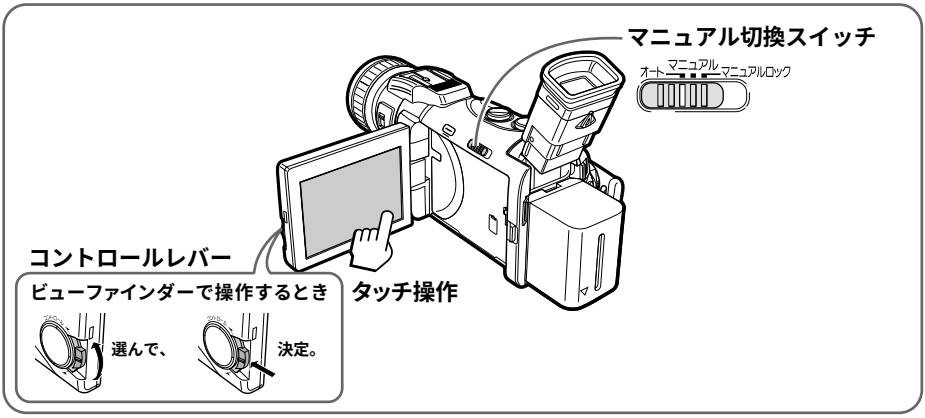
●設定状態を確認したいときは、再度「マニュアル」にします。

オートシャッタースピードに戻すときは
手順3で 標準 をタッチする。

すべてのマニュアル設定項目をオートに戻したいときは➡81ページ

シーンに合わせた設定にする(プログラム設定)

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る



撮影シーンに合ったモードを選ぶだけで、被写体や撮影状況に適した調整を自動的に行います。

[設定項目]

シャッター優先：シャッタースピードを手動で調整できます。アイリス値は自動的に調整されます。

アイリス優先：アイリス値を手動で調整できます。シャッタースピードは自動的に調整されます。

スポーツ：動きの速い被写体でもブレを少なく撮影できます(シャッタースピード1/500秒)。テニスやゴルフのスイング、陸上競技などの撮影に効果的です。

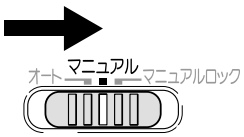
スキー：背景が明るくても被写体が黒くならないように撮影できます。スキー場や海水浴の撮影に効果的です。

パーティー：明暗の差が大きい被写体の明るさを調整し、白トビを抑えて撮影できます。スポットライトの当たっている被写体を撮影するのに効果的です。

トワイライト：黄昏のほの暗さと夕焼けの色をきれいに再現できます。夕暮れどきの撮影に効果的です。

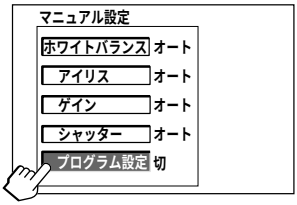
撮影待機中に操作します

1 「マニュアル」にする



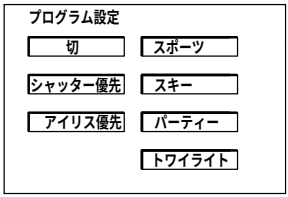
●「オート」にすると、次の設定が自動で行われます。
- ホワイトバランス(78ページ)
- アイリス(82ページ)
- ゲイン(84ページ)
- シャッタースピード(86ページ)
- プログラム設定

2 プログラム設定 をタッチする



●ビューファインダーでも、コントロールレバーを使って操作できます。

3 お好みの設定をタッチする

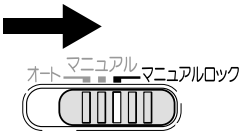


●切 をタッチすると解除され、手順2の画面に戻ります。
●設定を途中で止めるときは、もどる をタッチします。

- シャッター優先 を選ぶときは➡90ページ
- アイリス優先 を選ぶときは➡91ページ

4 「マニュアルロック」にする

撮影画面に戻り、設定が保持されます。



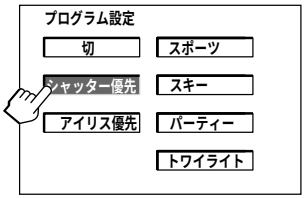
●設定状態を確認したいときは、再度「マニュアル」にします。

シャッター優先 を選ぶときは（89ページ手順3からのつづき）

テープ/デュアル撮影モード時 ：1/30～1/10000の17段階の範囲で設定できます。

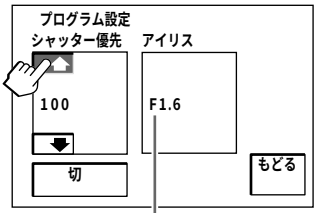
カード撮影モード時 ：1/30～1/500の9段階の範囲で設定できます。

3 シャッター優先 をタッチする



●切 をタッチすると解除され、89ページ手順2の画面に戻ります。

4 ▼／▲ をタッチして、シャッタースピードを調整する

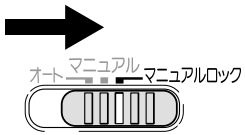


アイリスは自動調整されます。

●設定を途中で止めるときは、もどる をタッチします。

5 「マニュアルロック」にする

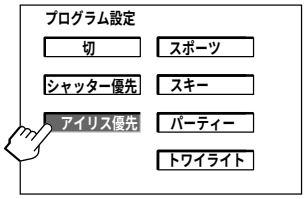
撮影画面に戻り、設定が保持されます。



アイリス優先 を選ぶときは(89ページ手順3からのつづき)

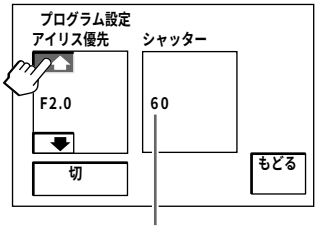
F1.6〜F19の15段階の範囲で設定できます。

3 アイリス優先 をタッチする



●切 をタッチすると解除され、89ページ手順2の画面に戻ります。

4 ▼／▲をタッチして、アイリスを調整する

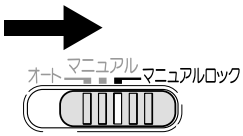


シャッタースピードは自動調整されます。

●設定を途中で止めるときは、もどる をタッチします。

5 「マニュアルロック」にする

撮影画面に戻り、設定が保持されます。

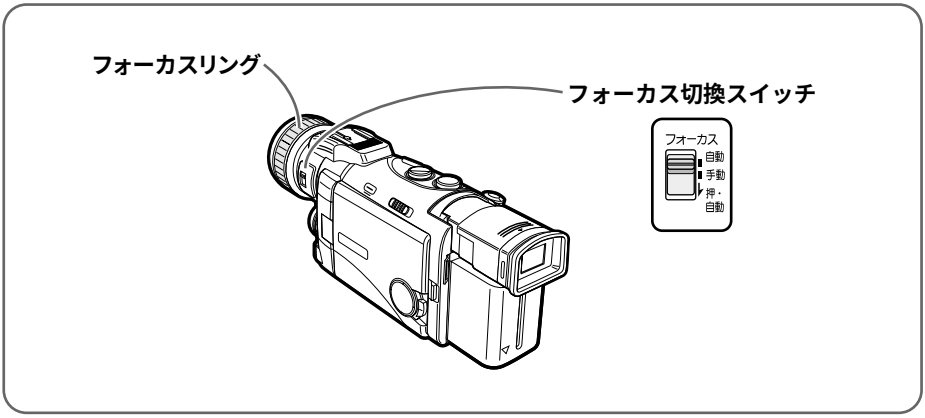


プログラム設定を解除するときは
89ページの手順3で 切 をタッチする。

すべてのマニュアル設定項目をオートに戻したいときは➡81ページ

手動でピントを合わせる

テープで撮る　テクニカルで撮る　カードで撮る



オートでピントが合いにくい場合は、手動でピントを合わせることができます。

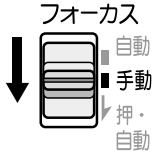
[こんなときに使うと効果的です]

- ■背景が明るすぎてピントが合いにくいとき。
- ■遠くの被写体が金網などと重なってピントが合わないとき。
- ■中央に近くの被写体と遠くの被写体がありピントが合わないとき。
- ■平坦でコントラストのない被写体、壁や空などでピントが合わないとき。
- ■輝いたり、強い光を反射して光っている被写体でピントが合わないとき。
- ■その他
  - 横じまの被写体や斜めの被写体などでピントが合わないとき。
  - 被写体が暗いとき
  - 広角から望遠に急にズーミングするとき。

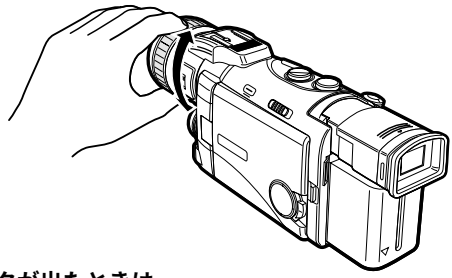
撮影待機中に操作します

1 「手動」にする

画面に「MF」表示が出ます。



2 フォーカスリングを回し、ピントを合わせる



次のマークが出たときは

▲マーク：ピントが無限遠にあるとき

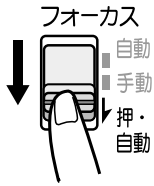
マーク：それ以上近くにピント合わせをすることができないとき

オートフォーカスに戻すときは

「自動」にする

一時的にオートフォーカスで撮影するときは

「押・自動」にする



「押・自動」にしている間、オートフォーカスが働きます。指を離すと「手動」に戻ります。

お知らせ

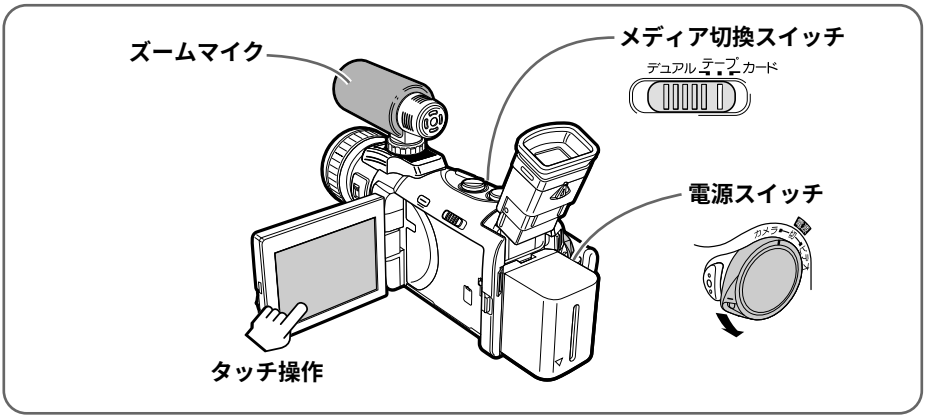
- **マイク部に手が当たらないようにご注意ください。雑音が入る原因になります。**

- ズームを望遠にして合わせると、広角にしてもピントがずれません。（広角側でピントを合わせた後、望遠にすると被写体がボケる場合があります。）
- 被写体がレンズから1.5m以内にあるとピントが合わない場合があります。このようなときは、ズームを広角にしてからピントを合わせてください。

- 手動でピントを合わせた後、ある被写体から別の被写体へピントを移すようなときに使うと、自然にピントが合うようななめらかな映像になります。

音声をよりよく撮る

テープで撮る　デュアルで撮る

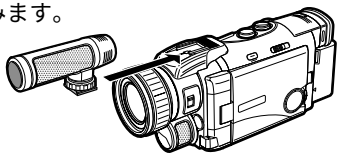


アクセサリーキット付属のズームマイクを使うと、撮影している方向の音を録音したり、遠くの音を狙って録音することができます。

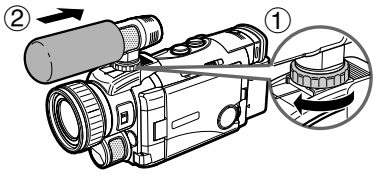
ズームマイクの取り付けかた

1 ズームマイクを「カチッ」と音がするまで差し込む

奥まで確実に差し込みます。



2 ① ズームマイク固定ネジを矢印の方向に回して固定する
② ウインドスクリーンをかぶせる



お知らせ

次のような使いかたをすると、故障の原因となることがあります。

- **ズームマイクを持ったまま持ち運びしないでください。**
- **ズームマイクを強くねじったりしないでください。**
- **ウインドスクリーンを外した状態で使うと、風音などが強くなりますので、ウインドスクリーンは付けた状態でご使用ください。**

ズームマイクを取り外すときは

固定ネジをゆるめ、取り付けと逆の方向にズームマイクを引き抜く

ズームマイクを設定する

ズームマイクの設定には、次の項目があります。

［設定項目］

「レンドウ」：（ズームマイクを取り付けると、自動的に「レンドウ」が設定されています。）
ズームレンズに連動して、自動的に最適な音声が録音されます。レンズのズーム倍率をあげていくと、連動して内蔵マイクとズームマイクの音声が混合され、自然な音声が録音されます。

「望遠」　：遠方の音をよく拾うように固定します。

「切」　：内蔵マイクに切り換えます。ズームマイク使用時より、広範囲の音声を録音します。

1 テープ撮影モードにする

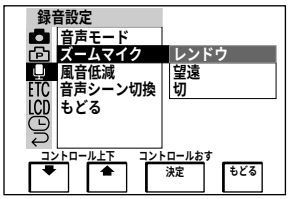
●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (録音設定)
② ズームマイク
③ レンドウ、望遠、または切



●メニューの選びかた→**46**ページ
●広角で撮影するときは、内蔵マイクで録音されます。

お知らせ

●アクセサリーキットに付属のズームマイクを取り付けないと、選べません。

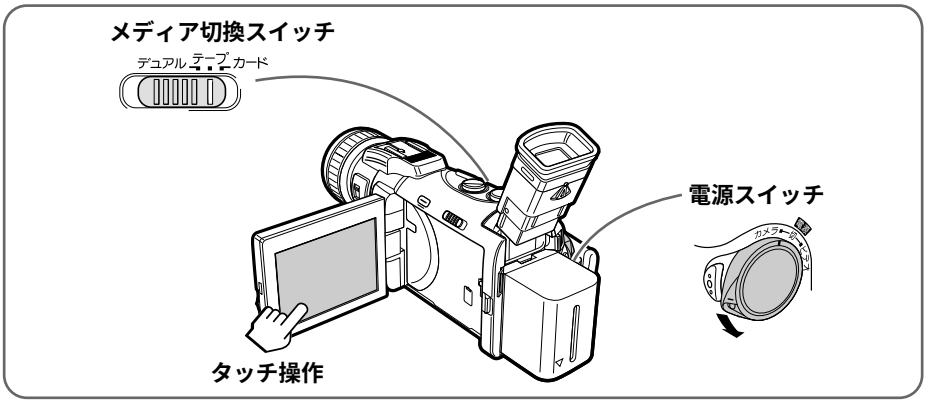
4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

●撮影中にヘッドホンを使って、録音される音声を聞くことができます。撮影しているときは、本体でヘッドホンの音量が調整できません。リモコンで調整してください。

音声をよりよく撮る(つづき)

テープで撮る　デュアルで撮る



「音声シーン切換」設定のしかた

講習会や発表会など離れた位置からの撮影時、説明者の音声と周囲の音が混ざってしまうときなど、説明者の音声を捕らえたい場合に「会話」に設定します。

1 テープ撮影モードにする

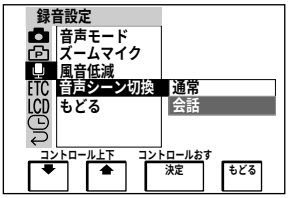
●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (録音設定)
② 音声シーン切換
③ 通常、または会話



●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

「風音低減」設定のしかた

風の強い日の遊園地などの、周囲が騒がしい所で撮影したいときなどに設定します。
事前にテストを行い、音声の記録状態を確認してください。

[設定項目]

「通常」 ：撮影中にある程度風が強くなると、自動的に風音による雑音を低減します。（普段はこの設定にしておきます。）

「キョウフウ」：風が強く風音が気になるときなどに設定します。風音による雑音を大幅に低減します。

「切」 ：たとえ風音が気になっても、風の強弱によって目的の音の音色を変化させたくないときはこの設定にしておきます。

1 テープ撮影モードにする

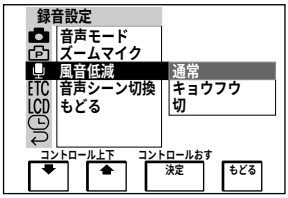
●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (録音設定)
② 風音低減
③ 通常、キョウフウ、または切



●メニューの選びかた→**46**ページ

お知らせ

●**「通常」または「キョウフウ」になっていると、録音された音声が、再生のときに多少変わって聞こえる場合があります。**

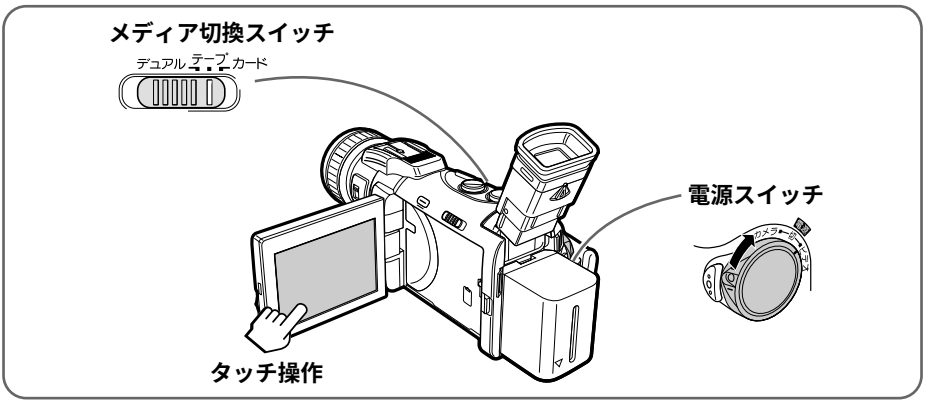
4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

●**ズームマイク使用時の「風音低減」について**
ズームマイクを使用する場合は、使用する状況に合わせ「通常」または「キョウフウ」に設定しておくことをおすすめします。

録画・再生の経過時間を知りたいとき(タイムコード表示)

テープで撮る　テープを見る　デュアルで撮る　も使えます 28ページ



画面にタイムコードを表示させて、撮影／再生の経過時間を確認することができます。
タイムコードとは、動画撮影時、テープに自動的に記録される時間(秒単位)のことです。

タイムコード表示の読みかた

TC 0 : 00 : 10 : 20

- フレーム表示（静止画、コマ送り再生時）
- 秒
- 分
- 時

タイムコード表示の出しかた(テープ再生モードの例)

1 テープ再生モードにする

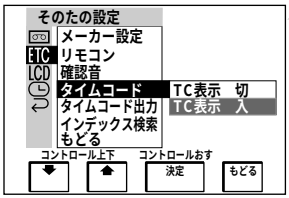
●テープ撮影モード/デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① ETC(そのたの設定)
② タイムコード
③ TC表示　入



●メニューの選びかた→**46**ページ
●タイムコードを消したいときは、「TC表示切」にします。

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。
タイムコードが表示されます。

お知らせ

- **タイムコードは、テープの途中に無記録部分があると「TC 0:00:00」から始まります。あとから、このタイムコードだけを書き直すことはできません。**
- **タイムコードは、自由にリセットすることはできません。**

フレーム表示を出したいとき

タイムコードを表示しているときに、静止画再生やコマ送り再生をする

TC0：05：35：15 ― フレーム表示

コマ送りすると、映像の変化に合わせ１フレームずつ変わります。

- 静止画/コマ送り再生で、１コマ（フレーム）ごとの時間（フレーム数単位）のことです。
- コマ送り、静止画再生時に表示されます。
- コマ送り再生は、ワイヤレスリモコンでのみ操作できます。

テレビ画面にタイムコードを出したいとき

1 テープ再生モードにする

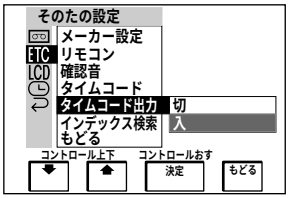
- テープ撮影モード/デュアル撮影モードでも操作できます。
- モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

- メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① ETC（そのたの設定）
② タイムコード出力
③ 入



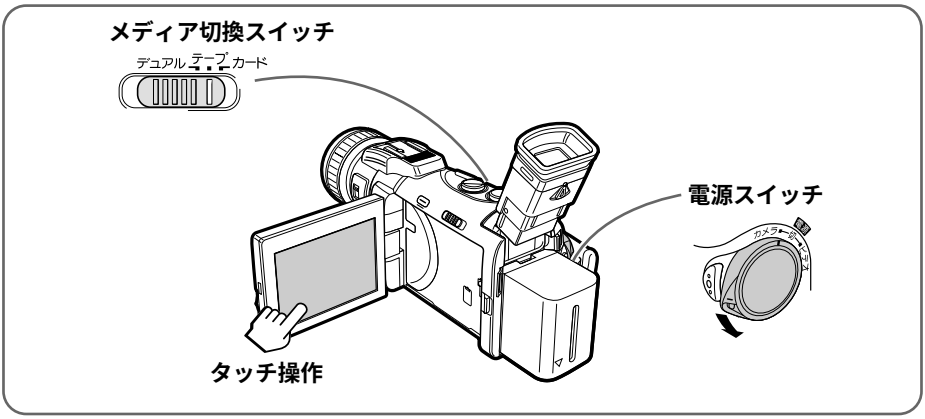
- メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

手ブレ補正を解除する(ブレ補正)

テープで撮る　デュアルで撮る



三脚などに取り付けるなど、手ブレの心配がないときに「ブレ補正」を「切」にします。
ブレ補正を「切」にしていると、より自然な画像になります。

1 テープ撮影モードにする

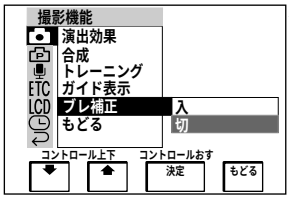
- デュアル撮影モードでも操作できます。
- モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

- メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影機能)
② ブレ補正
③ 切



- メニューの選びかた→**46**ページ

お知らせ

- **ブレ補正が「入」になっていても、ブレが大きすぎると、補正されないことがあります。**
- **カード撮影モードで使用の場合、ブレ補正は働きません。**

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

より楽しく使う

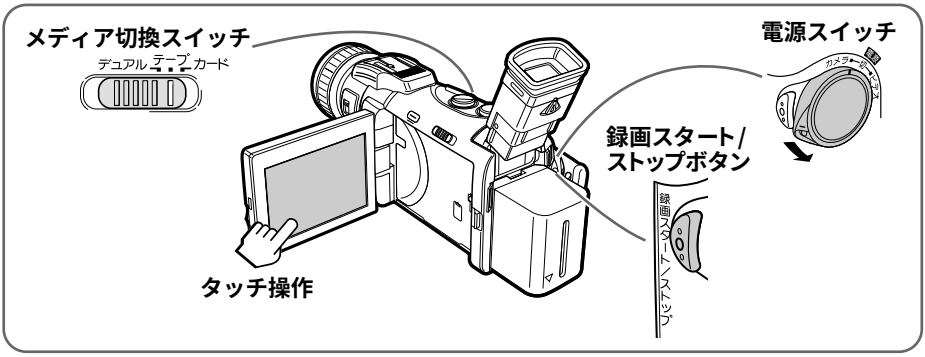
●ここでは、映像にいろいろな効果を付けたり、他の映像と合成したりする機能について説明しています。

ページ

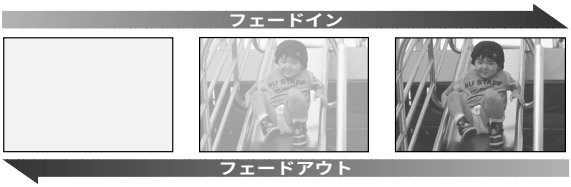
シーンの切り換わりを効果的に撮る（フェード）……102
ワイド画面で撮る ……103
特殊効果を付ける（演出効果）……104
暗いシーンを明るくして見やすくする……105
分割画面にする（マルチストロボ）……106
撮影時に連写で撮る ……106
再生時に分割する ……107
撮影した映像を拡大して見る（再生ズーム）……109
倍率を設定する ……109
再生ズームをする ……110
リモコンで再生ズームをする……111
デザインや他の画像を合成する……112
撮影時に合成する（タイトル／ハイケイの例）……113
再生時に合成する（タイトル／ハイケイの例）……115
インデックスを作って頭出しをする（インデックスサーチ）…116
インデックスを作る ……116
頭出しをする ……118
インデックスを消去する ……119
インデックスを追加する ……120
カードに入っているインデックスを調べる……121
液晶モニターをリモコンとして使う……122
準備 ……122
使う（テープ撮影モードの例）……124
本機→他の機器へダビングする……126
ビデオと接続するときは ……126
DV端子付きビデオ機器と接続するときは……126
ダビングをする ……127
他の機器→本機へダビングする（外部録画）……128
AV・S映像ケーブルで接続するとき ……128
DV端子付きAV機器と接続するとき ……128
外部録画をする ……129
アフレコをする ……130
アフレコした音声を聞く ……133
「記録中メッセージ」を設定する……134

シーンの切り換わりを効果的に撮る(フェード)

テープで撮る　デュアルで撮る



作品のスタートを効果的に始めたいとき、場面の変化を自然に切り換えたいとき、余韻の残るラストにしたいときに使います。



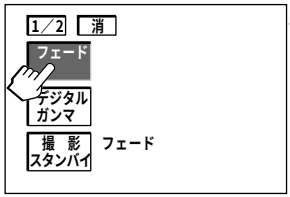
1 テープ撮影モードにする

●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 1/2 画面を出す

●機能の選択のしかた→**45**ページ

3 撮影待機中や撮影中にフェードをタッチする



●もう一度タッチすると解除されます。
- 撮影待機中に、フェードインからフェードアウトまでを自動的に行います。
- 撮影中にタッチしてから録画ストップすると、フェードアウトになります。

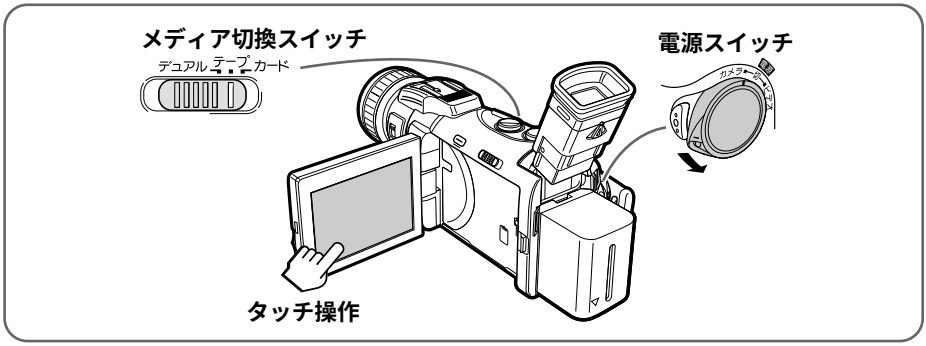
4 録画スタート／ストップボタンを押す

- **録画スタート時：** 画面が白くなり、徐々に映像が現れます。(フェードイン)
- **録画ストップ時：** 画面が徐々に白くなり、約4秒後に撮影待機状態になります。(フェードアウト)

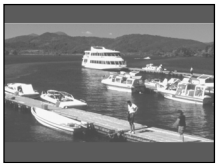
●フェードは撮影終了後に自動的に解除されます。

ワイド画面で撮る

テープで撮る　デュアルで撮る



画面の上下に黒い帯が入り、映画のような画面(横と縦の比率は16：9)になります。
ハイビジョンやワイドテレビと組み合わせれば、迫力いっぱいの映像が楽しめます。
接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。



1 テープ撮影モードにする

●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

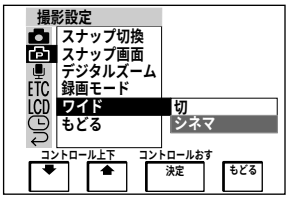
2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影設定)
② ワイド
③ シネマ

●メニューの選びかた→**46**ページ



4 もどる を繰り返しタッチする

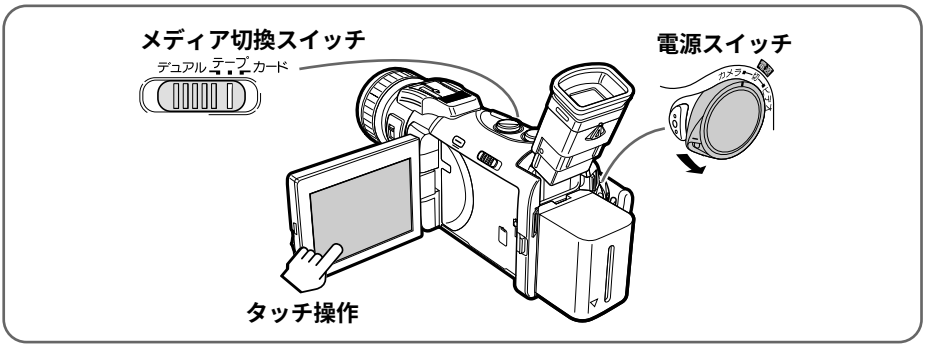
メニュー画面を消します。

お知らせ

- **カットされた部分は黒で記録されます。**
- **「シネマ」で撮影中にフェードをかけたときは、映っている部分だけがフェードされます。**
- **マルチストロボ画面は、ワイド画面になりません。**

特殊効果を付ける（演出効果）

テープで撮る　デュアルで撮る　テープを見る　カードを見る



撮影や再生する映像にデジタル処理をして、特殊効果を加えることができます。

［演出効果の種類］

モノクロ
白黒になります

セピア
古い写真風になります

ソラリ(ソラリゼーション)
明暗をはっきりさせたイラストのようになります

ネガポジ
写真のネガフィルムのようになります

ブルー
青いフィルターをかけたような映像になります。

お知らせ

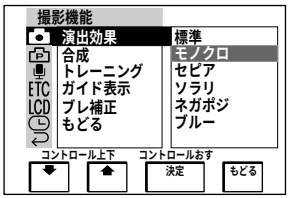
- **スナップ撮影中は、演出効果の切り換えはできません。**
- **カード撮影モードでは操作できません。**

1 テープ撮影モードにする

2 メニュー画面を出す

3 選んで決定する

① （撮影機能）
② 演出効果
③ モノクロ／セピア／ソラリ／ネガポジ／ブルー



4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

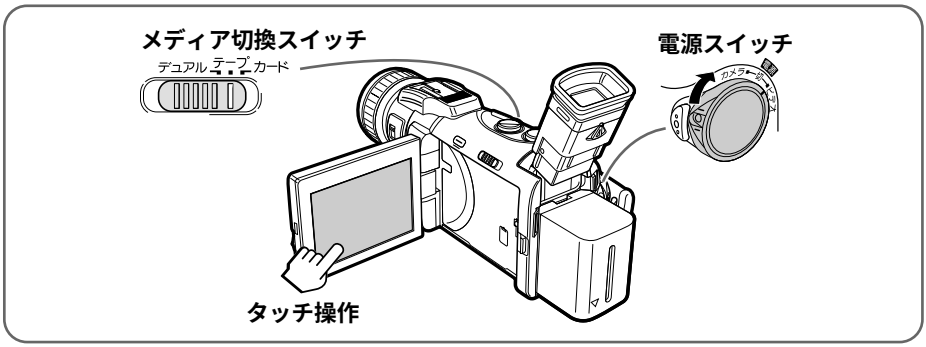
- デュアル撮影モード/テープ再生モード/カード再生モードでも操作できます。
- モードの切り換えかた→**42**ページ

- メニュー画面の出しかた→**45**ページ

- メニューの選びかた→**46**ページ
- テープまたはカード再生モードのときは、/（再生設定）項目で「演出効果」を選んでください。
- 演出効果を使用しないときは、「標準」を選びます。

暗いシーンを明るくして見やすくする

テープを見る



映像の中の暗い部分を、再生時に自動的に明るく見やすい映像に補正することができます。

1 テープ再生モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

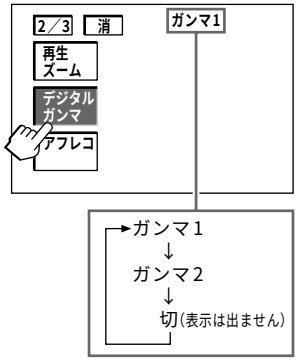
2 テープを再生する

3 2/3 画面を出す

●機能の選択のしかた→**45**ページ

4 デジタルガンマ をタッチする

押すたびに、下のように切り換わります。

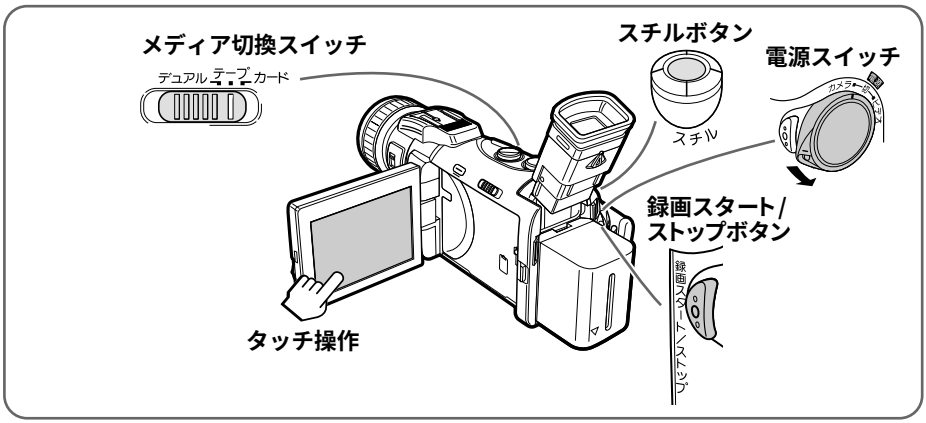


お知らせ

- **静止画にしているときは、ガンマ補正は働きません。**

分割画面にする(マルチストロボ)

テープで撮る　テープを見る



テニスのスイングなどフォームを見たいとき、0.1秒間隔で連続したシーンが撮影できます。他の人に撮影してもらうと、上手に撮ることができます。

[画面数について]
- **1** ：通常画面
- **9** ：9分割のマルチストロボ
- **16**：16分割のマルチストロボ

お知らせ

次の場合は操作できません。
- **●撮影**
  - **・合成時**
- **●再生**
  - **・合成時、静止画再生時、スロー再生時、ビデオサーチ時**
  - **・液晶モニターリモコン上での操作**

撮影時に連写で撮る

1 テープ撮影モードにする

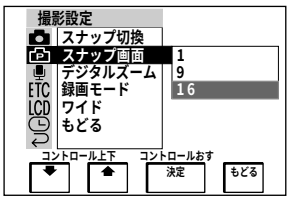
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影設定)
② スナップ画面
③ 9、または16

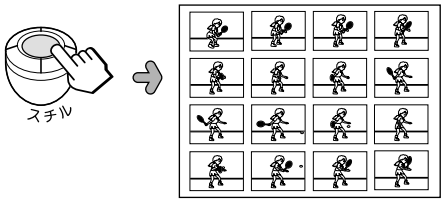


●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

5 撮影待機状態で押す



この時点では、まだテープに録画されていません。
押すたびに、「通常」⇔「マルチストロボ」と切り換わります。

●テープ撮影中に押しても、マルチストロボが楽しめます。

6 押す

- テープに録画されます。
- 録画を止めるときは、もう一度押します。

●メニューの「スナップ切換」が「スナップ」に設定されているときは、録画スタートしてから約6秒間記録された後、自動的に録画がストップし、撮影待機状態に戻ります。

解除するときは

7 押す

マルチストロボ画面が解除されます。

再生時に分割する

1 テープ再生モードにする

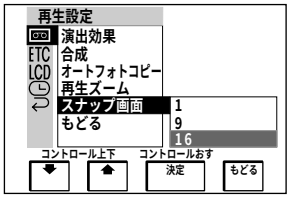
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (再生設定)
② スナップ画面
③ 9、または16

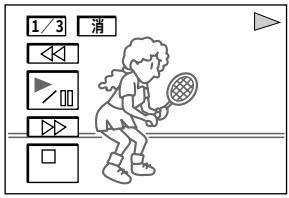


●メニューの選びかた→46ページ

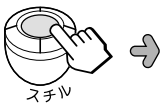
4 もどる を繰り返しタッチする

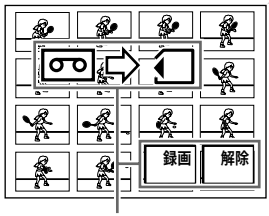
メニュー画面を消します。

5 マルチストロボにしたいシーンの手前から再生する



6 押す





カードがセットされているときに表示されます。

●操作ボタン等の表示を消したいときは、表示入/切ボタンを押します。

●テープからカードへのフォトコピー→148ページ

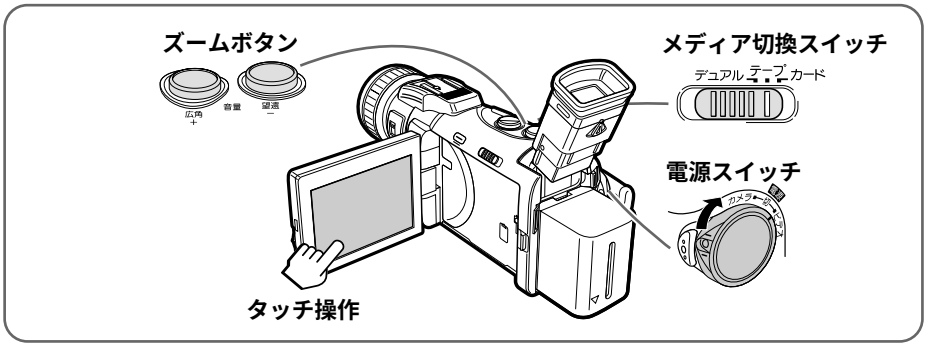
解除するときは

7 押す

マルチストロボが解除されます。

撮影した映像を拡大して見る(再生ズーム)

テープを見る　カードを見る



再生のとき、見たい部分を約10倍まで拡大することができます。

倍率を設定する

1 テープ再生モードにする

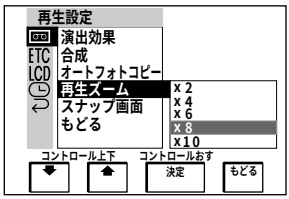
●カード再生モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (再生設定)
② 再生ズーム
③ ×2、×4、×6、×8、または×10



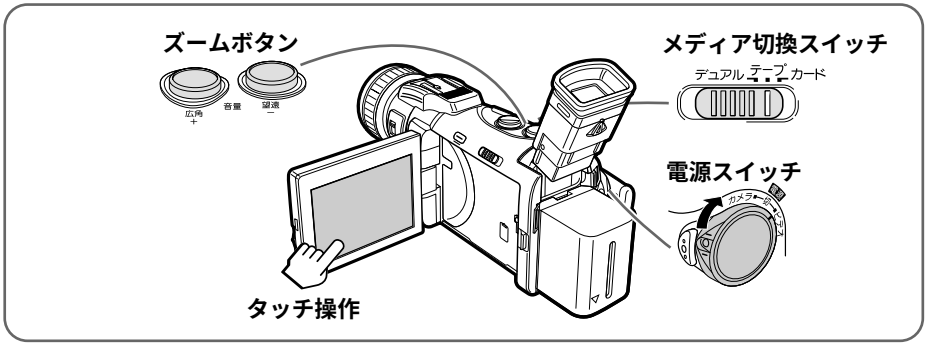
●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

撮影した映像を拡大して見る(再生ズーム)(つづき)

テープを見る　カードを見る



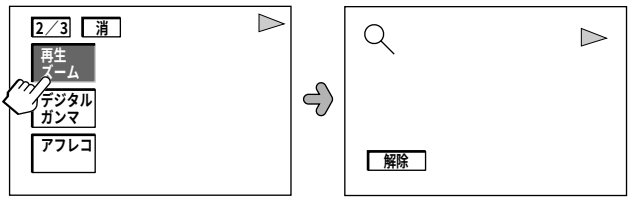
再生ズームをする

1 再生(または静止画再生)する

2 2/3 画面を出す

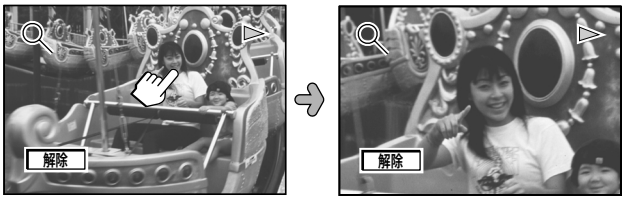
●カード再生モードのときは、1/3 画面を出します。
●機能の選択のしかた→45ページ

3 再生ズーム をタッチする



4 拡大したい部分をタッチする

タッチした部分を中心に拡大されます。



タッチするごとに「拡大」⇔「もとのサイズ」と切り換わります。

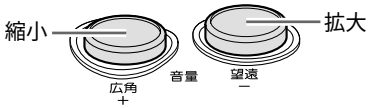
●解除 をタッチすると、再生ズームが解除されて 2/3 画面に戻ります。

お知らせ

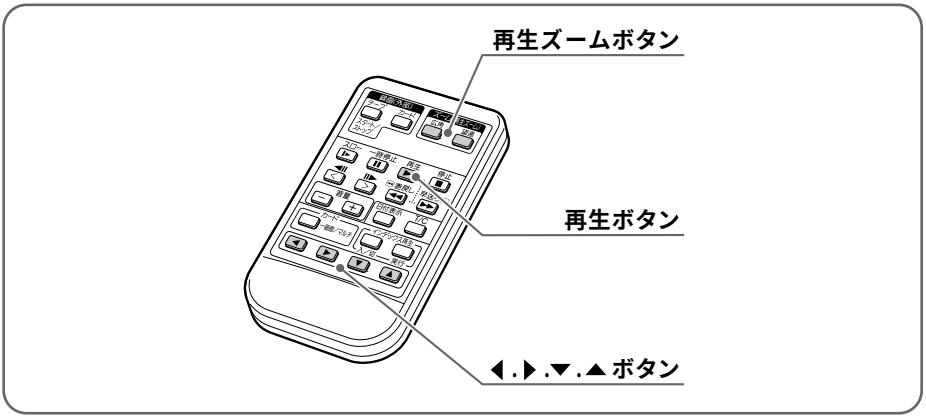
● 操作表示部にある映像は拡大できません。

再生ズーム中に拡大/縮小したいときは

5 押す



●液晶モニターリモコンで拡大・縮小の操作をするときは、コントロールレバーを上下に動かします。
●再生ズーム中は、本体で音量の調整ができません。リモコンで行ってください。

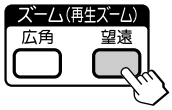


リモコンで再生ズームをする

1 再生（または静止画再生）する

2 「望遠」を押す

拡大します。



3 「◀」「▶」「▼」「▲」を押し、見たい部分を探す

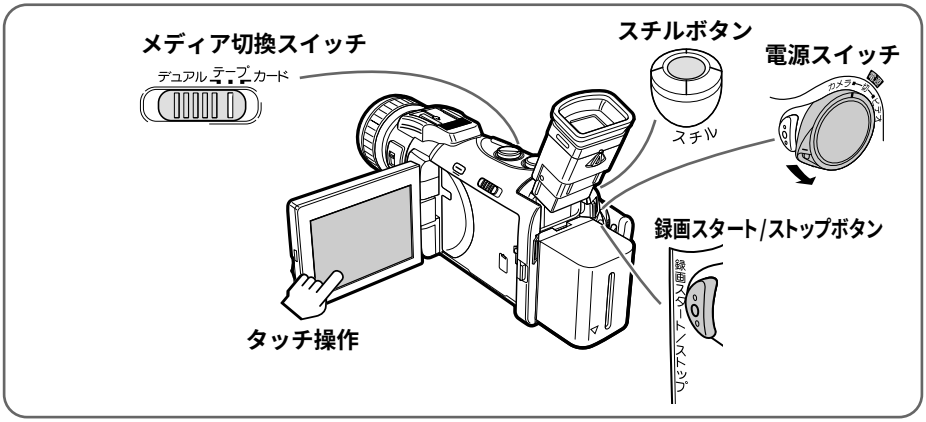
もとのサイズに戻す

4 「広角」を押す

最広角にすると、もとのサイズに戻ります。

デザインや他の画像を合成する

テープで撮る　デュアルで撮る　テープを見る



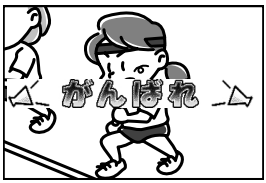
合成の種類

タイトル／ハイケイ

撮影中／再生中の映像に、タイトルや背景デザインを合成することができます。
タイトルと背景デザインは、アクセサリーキットに付属のカードに記録されています。

• タイトル／背景デザインについては、**208**ページの「付録」をご覧ください。

タイトル合成例

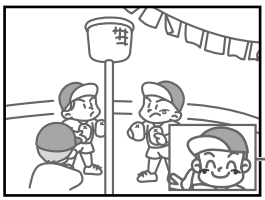


ハイケイ合成例

P in P（Picture in Picture）

撮影中/再生中の映像の中に、カードに記録されている静止画を子画面に表示させて、合成することができます。

子画面合成例（P in P）



お知らせ

- **テープ/デュアル撮影モード、テープ再生モードで合成するときは、必ずテープとカードの両方をセットしてください。**
- **合成では、マルチストロボは働きません。**

テープで撮る　デュアルで撮る

撮影時に合成する（タイトル/ハイケイの例）

1 テープ撮影モードにする

●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

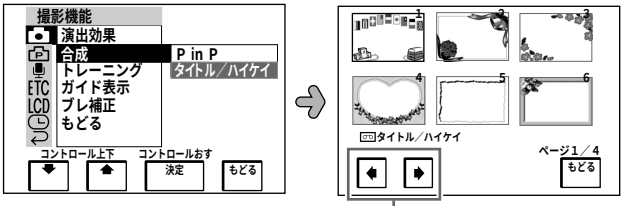
2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① （撮影機能）
② 合成
③ タイトル/ハイケイ、またはP in P

●メニューの選びかた→**46**ページ



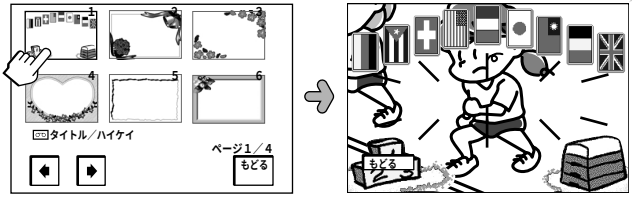
4 合成したいデザインをタッチ（選択）する

●すでに選択されているときは、一度タッチしただけで決定されます。

5 もう一度タッチ（決定）する

選んだデザインまたは画像が表示されます。

●もどるをタッチすると、メニュー画面に戻ります。



この時点では、デザインはテープに記録されていません。

6 記録する

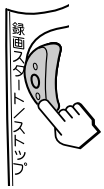
▶ **テープ撮影モードで使用時**

押す

合成され、テープに記録されます。

▶ **デュアル撮影モードで使用時**

① 押す



合成され、テープに記録されます。

② 押す

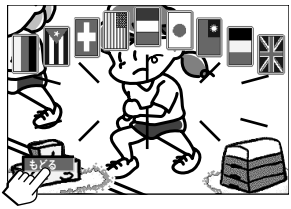
- 合成され、カードに記録されます。
- 合成は解除されます。

●静止画をテープに記録するときは、スチルボタンを押してから、録画スタート/ストップボタンを押します。

テープに記録しているときに合成を解除するときは

もどる をタッチする

メニュー画面に戻ります。



テープを見る

再生時に合成する(タイトル/ハイケイの例)

1 テープ再生モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 テープを再生(または静止画再生)する

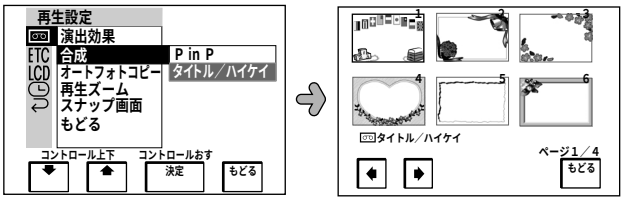
3 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

4 選んで決定する

① (再生設定)
② 合成
③ タイトル/ハイケイ、またはP in P

●メニューの選びかた→**46**ページ

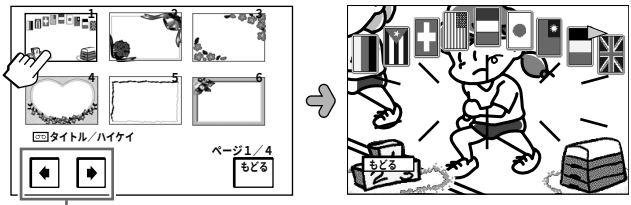


5 合成したいデザインまたは画像をタッチ(選択)する

●すでに選択されているときは、一度タッチしただけで決定されます。

6 もう一度タッチ(決定)する

選んだデザインまたは画像が表示されます。



選択枠が送り/戻しされます。

●スチルボタンを押すと、合成された画像をカードに記録することができます。(このとき、合成は解除されます。)
●もどるをタッチすると、メニュー画面に戻ります。
●合成中のテープ走行操作はリモコンで行うことができます。

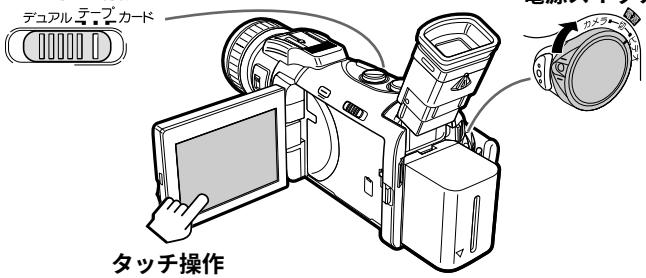
終わるときは

7 もどるをタッチする

メニュー画面に戻ります。

インデックスを作って頭出しをする(インデックスサーチ)

テープを見る



本にしおりを挟んでおくように、ポイントとなる場面(インデックス)をカードに記録しておくことができます。インデックス記録は、録画済みテープの撮影(つなぎ撮り)開始部分や、好きなところをカードに記録します。
記録されたインデックスは一覧表示でき、目的の場面を簡単に頭出しすることもできます。

- 1本のテープに対し最大60枚まで作成されます。
- 1枚のカードに複数のテープのインデックスを作成することができます。

インデックスを作る

1 カードとテープを本機に入れる

お知らせ
- 撮影済みのテープを入れてください。
- 追加・再生・消去をするときは、そのテープのインデックスを作成したカードを入れてください。

2 テープ再生モードにする

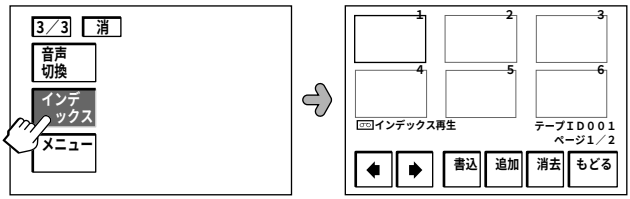
●モードの切り換えかた→42ページ

3 テープを巻き戻す

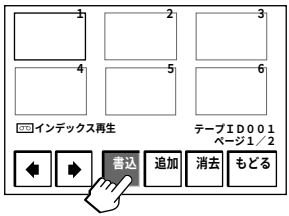
4 3/3 画面を出す

●機能の選択のしかた→45ページ

5 インデックス をタッチする



6 書込をタッチする



テープが早送りされインデックスの作成が始まります。撮影(つなぎ撮り)開始部分で静止画再生になり、カードに書き込まれていきます。

インデックスの作成が終了する(テープが無記録部分になる)と、インデックス書込画面からテープ再生モード画面に戻ります。-

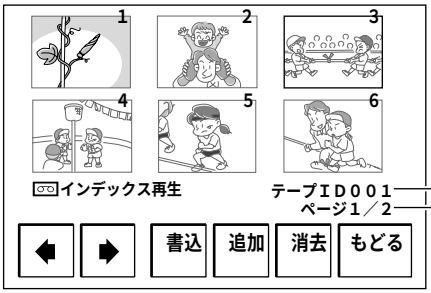
●解除するときは、もどるをタッチします。

お知らせ

- **カードの空き容量によっては、インデックスを作成できないことがあります。**
- **撮影時間が短いシーン(30秒程度)では、インデックスが作成されないことがあります。**
- **インデックス作成中に、カードを抜いたり電源を切ったりしないでください。カードの記録データが消失したり使えなくなったりすることがあります。**

インデックスを作って頭出しをする(インデックスサーチ)(つづき)

テープを見る　も使えます　28ページ



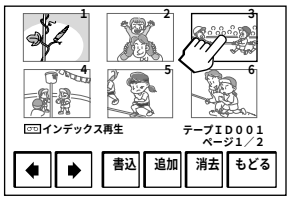
テープＩＤ
各テープに付けられる整理番号です。

ページ
現在表示されているページです。

頭出しをする

1 「インデックスを作る」の手順1〜5を行う

2 見たいシーンのインデックスをタッチ(選択)する



●すでに選択されているときは、一度タッチしただけで決定されます。

3 もう一度タッチ(決定)する

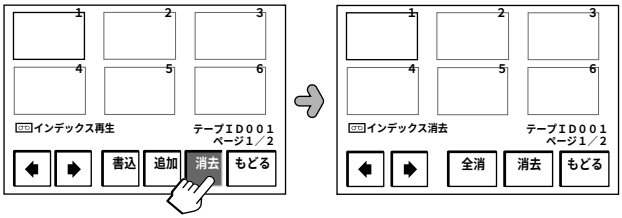
選んだインデックスを頭出しし、自動的に再生が始まります。

選択枠を送り/戻しできます。

インデックスを消去する

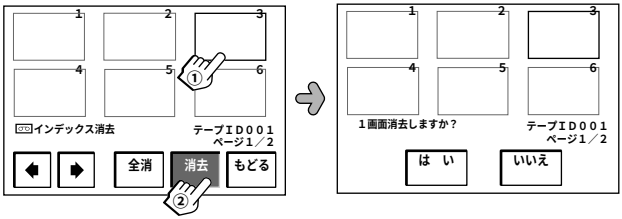
1 「インデックスを作る」の手順1〜5を行う

2 消去 をタッチする



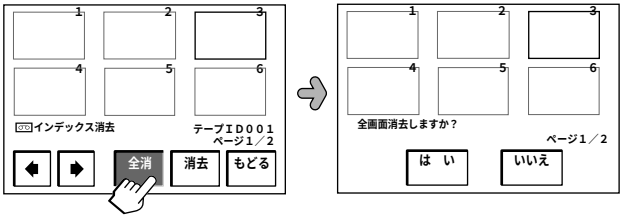
3 1つだけ消去したいとき

消去したい画像を選び、消去 をタッチする



すべて消去したいとき

全消 をタッチする



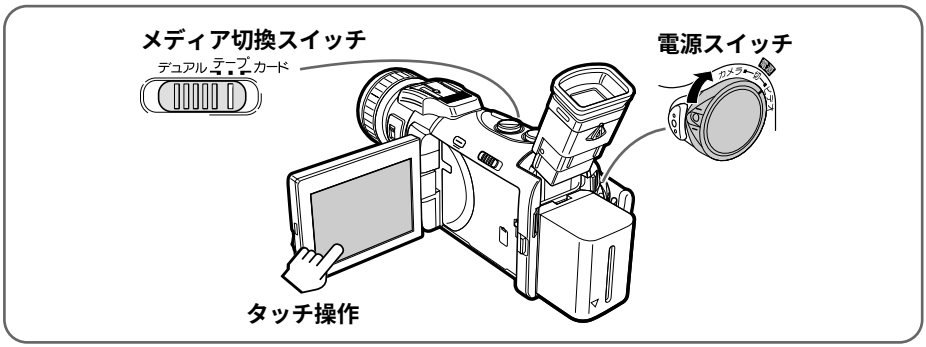
4 はい をタッチする

1画面消去をすると、後ろのインデックスが前につまります。

- 消去しないときは、いいえ をタッチします。
- 他のインデックスを消去するときも手順3〜4を繰り返します。

つづく

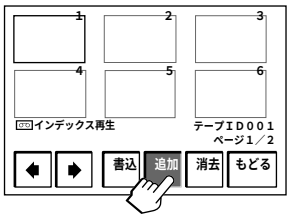
テープを見る



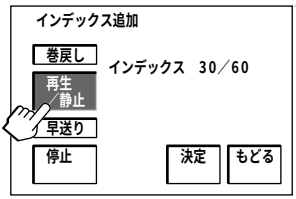
インデックスを追加する

1 「インデックスを作る」の手順1〜5を行う

2 追加 をタッチする



3 再生／静止 をタッチして再生する



●早送り・巻戻しなどを行い、追加したいシーンを探して、少し手前から再生してください。

4 追加したいシーンで 決定 をタッチする

インデックスに追加されます。

●スチルボタンを押しても、「決定」することができます。

終わるときは

5 もどる をタッチする

カードに入っているインデックスを調べる

インデックス検索を使うと、見たいシーンが撮影されているテープのインデックスがカードに記録されているかどうかを調べることができます。

1 テープ再生モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

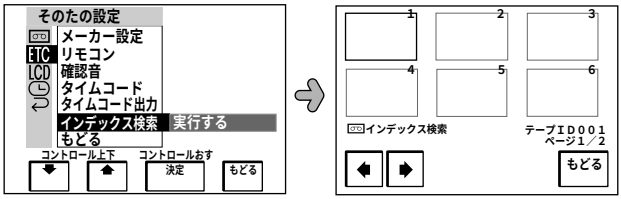
2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① ETC(そのたの設定)
② インデックス検索
③ 実行する

●メニューの選びかた→**46**ページ

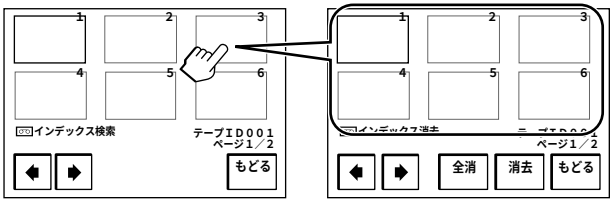


各テープのインデックスデータが一覧表示されます。

4 インデックスデータの中身を確認する

カードに記録されている インデックスの一覧

選んだインデックスの 内容一覧



選んだテープのインデックスが一覧表示されます。

●もどる をタッチすると前の画面に戻ります。
●全消 または 消去 をタッチすると、**119**ページの手順**3**以降の操作と同様にインデックスを消去することができます。

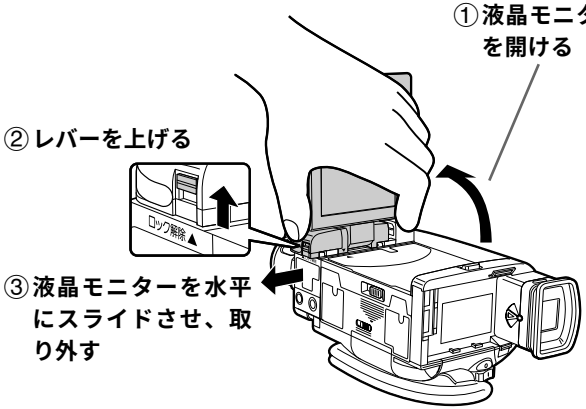
液晶モニターをリモコンとして使う

液晶モニターを本体から取り外して、リモコンとして使用することができます。
カメラを三脚などに取り付けたまま、手元で画面を確認しながら撮影やズームなど本体を操作することができます。
誤作動を防ぐため、必ずバッテリーパックを取り外してから準備を行ってください。

準備

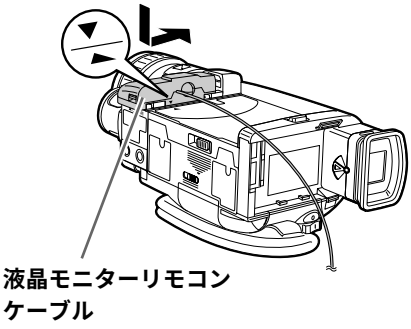
1 電源を切り、バッテリーパックを取り外す

2 液晶モニターを本体から取り外す



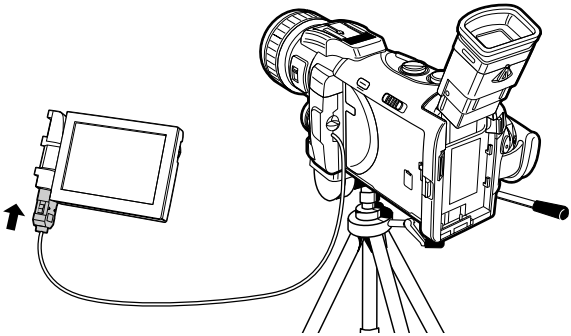
3 本体に液晶モニターリモコンケーブルを接続する

本体の▲と液晶モニターリモコンケーブルの▼を合わせ、矢印の方向にスライドさせます。



- 液晶モニターリモコンケーブルはアクセサリーキットに同梱されています。
- 取り外した液晶モニターをもとに戻すときも同じように取り付けてください。

4 液晶モニターと液晶モニターリモコンケーブルを接続する



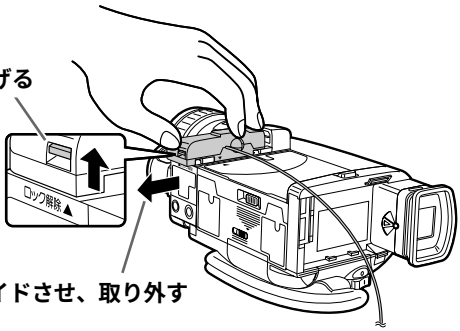
●液晶モニターリモコンケーブルを液晶モニターから取り外すとき
押しながら取り外す

5 バッテリーパックを取り付ける

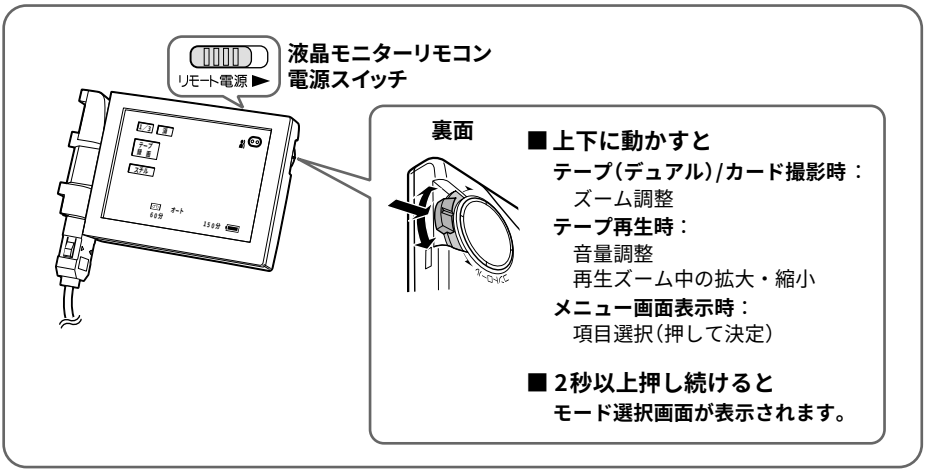
ケーブルを本体から取り外すときは

①バッテリーパックを取り外す

②レバーを上げる



③水平にスライドさせ、取り外す



使う（テープ撮影モードの例）

1 ① メディア切換スイッチを「テープ」にする
② 本体の電源スイッチを「カメラ」にする

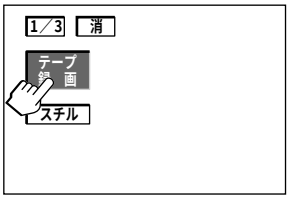
■ **接続後、最初に電源を入れたときのモードは、**
メディア切換スイッチと本体の電源スイッチの位置に合わせたモードで電源が入ります。

●この例の場合、テープ撮影モードで電源が入ります。

■ **この後は、液晶モニターリモコンの電源スイッチで、電源の入/切ができます。**

スイッチから指を離すと、もとの位置に戻ります。

2 操作するボタンをタッチする

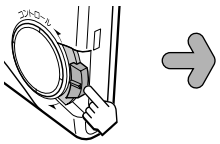


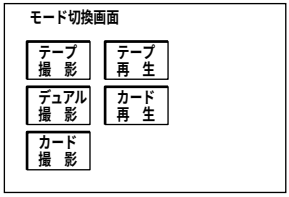
テープ録画：
本体の録画スタート/ストップボタンと同じ働きをします。
スチル：
本体のスチルボタンと同じ働きをします。

●各操作表示の画面ページは**125**ページの表のようになります。

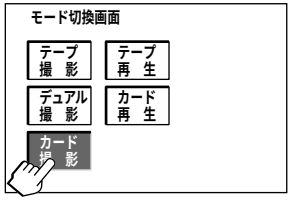
モードを切り換えるときは

1 2秒以上押す





2 切り換えたいモードをタッチする



各モードでの操作表示一覧

テープ撮影モード・デュアル撮影モード時

1/3	2/3	3/3
テープ録画	フェード	サーチ
スチル	デジタルガンマ	メニュー
消	撮影スタンバイ	消
	消	

カード撮影モード時

1/2	2/2
スチル	デジタルガンマ
消	セルフタイマー
	メニュー
	消

グレー表示のままで、働きません。

テープ再生モード時

1/3	2/3	3/3
巻戻し	再生ズーム	音声切換
再生/静止	デジタルガンマ	インデックス
早送り	アフレコ	メニュー
停止	消	消
消		

カード再生モード時

マルチ画面表示(画像をタッチ)	1/3	2/3	3/3
プロテクト	マルチ画面	メニュー	プロテクト
消去	肌色補正	消	消去
プリントマーク	再生ズーム		プリントマーク
⬅ ➡	消		消

- ボタン表示や、メニュー項目がグレーで表示されている場合は、そのボタンやメニュー項目が操作できない(働かない)ことを示しています。
- 各機能の説明は、それぞれのページを参照ください。

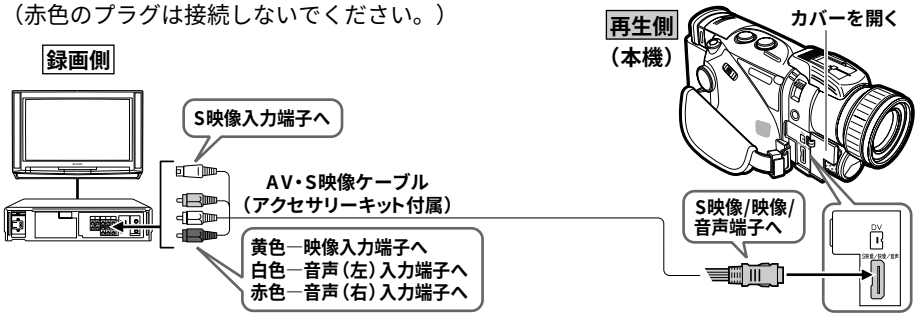
本機→他の機器へダビングする

テープを見る

本機で再生しながら、不要な部分をカットするなどダビング編集をすることができます。
（他の機器→本機へダビングするときは、128ページをご覧ください。）
本機側で入力・出力の切り換え操作は不要です。自動的に切り換わります。

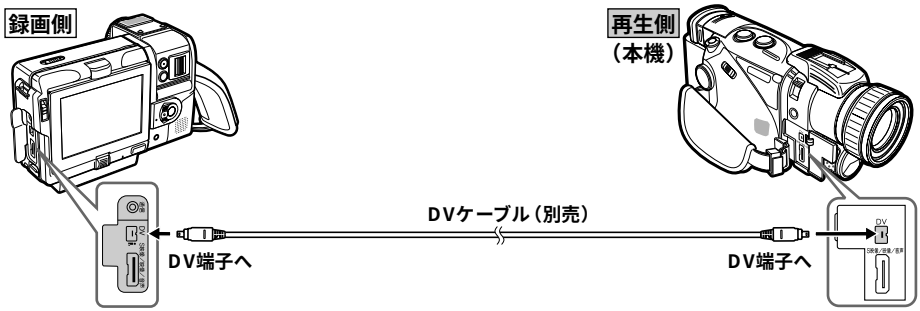
ビデオと接続するときは

別売のアクセサリーキットに同梱のAV・S映像ケーブルで本機と他のビデオを接続します。
- S映像端子付きビデオの場合は、S映像プラグをビデオに接続します。
- 音声入力端子が1つのビデオの場合、白色のプラグで本機と接続します。
（赤色のプラグは接続しないでください。）



DV端子付きビデオ機器と接続するときは

DV端子付きAV機器とDVケーブルでつなぐと、画質、音質の劣化がほとんどないデジタル信号によるダビングができます。
別売のDVケーブル（VR-DVC1）で本機と他のDV端子付AV機器を接続します。



お知らせ

- **接続するビデオの機種により、端子の位置が異なります。接続するビデオの取扱説明書をご覧の上、接続してください。**
- **DVケーブルで本機と接続できるのは1台だけです。**
- **DVケーブルでつなぐと、映像信号と音声信号、サブコードなどを伝送することができます。**

ダビングをする

準備

1 ① 本機をテープ再生モードにする
② 撮影済みのテープをセットする

2 ① 接続先のビデオ機器に録画用のテープをセットする
② ビデオ入力を、本機を接続した外部入力(L1・L2など)に切り換える

再生側(本機)

3 テープを再生する

録画側(他の機器)

4 ビデオの録画を開始する

お知らせ

- AV・S映像ケーブル接続でダビング編集時、日付表示、タイムコード表示がテレビ画面に表示されているときは、その表示も録画されます。
- 編集したテープでは、つなぎめの部分で多少内容が欠ける場合があります。

不要なシーンをカットする

準備

1 本機と接続先のビデオに、それぞれテープをセットする

2 ① 撮影したテープを再生する
② カットしたい部分を探す

●不要なシーンをカットするとき、タイムコード表示(98ページ)を使うと便利です。このとき、タイムコード出力は、「切」に設定することをおすすめします。「入」にすると、録画側のテープにタイムコードが記録されます。

●カットするところをメモし、編集する位置まで巻き戻しておきます。

再生側(本機)

3 テープを再生する

録画側(他の機器)

4 ビデオの録画を開始する

5 カットしたいところでビデオの一時停止／静止ボタンを押す

6 録画を再開したいところでもう一度、一時停止/静止ボタンを押す

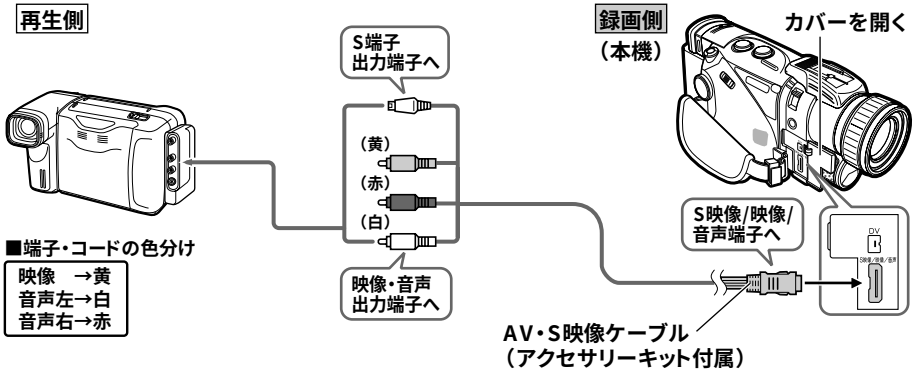
他の機器→本機へダビングする(外部録画)

テープを見る

他のビデオカメラなどから入力し、編集(ダビング)することができます。
本機側で入力・出力の切り換え操作は不要です。自動的に切り換わります。

AV・S映像ケーブルで接続するとき

別売のアクセサリーキットに同梱のAV・S映像ケーブルで、本機と他のビデオを接続します。



- 再生側のビデオカメラがS映像出力端子付きの場合は、S映像プラグを再生側のビデオカメラに接続します。
- 再生側のビデオカメラに音声出力端子が1つしかない場合は、白色のプラグを接続してください。(赤色のプラグは接続しないでください。)

DV端子付きAV機器と接続するとき

DV端子付きAV機器とDVケーブルで接続すると、デジタル信号による画質、音質の劣化がほとんどない録画・編集ができます。
別売のDVケーブル(VR-DVC1)で本機と他のDV端子付きAV機器を接続します。

お知らせ

- **S映像プラグを接続すると、映像プラグ(黄)の映像信号は入力されません。**
- **信号を入力する際、端子には優先順位があります。DV端子、S映像端子、映像/音声端子の順番で優先されます。**

外部録画をする

準備

1 ① 本機(録画側)をテープ再生モードにする
② 録画用のテープをセットする

2 他の機器(再生側)に撮影済みのテープをセットする

再生側(他の機器)

3 撮影済みのテープを再生する

録画側(本機)

4 録画スタート／ストップボタンを押す
録画ポーズ状態になります。

5 再生／静止 をタッチする
録画が始まります。

録画を止めるときは ■ (停止)をタッチする

お知らせ

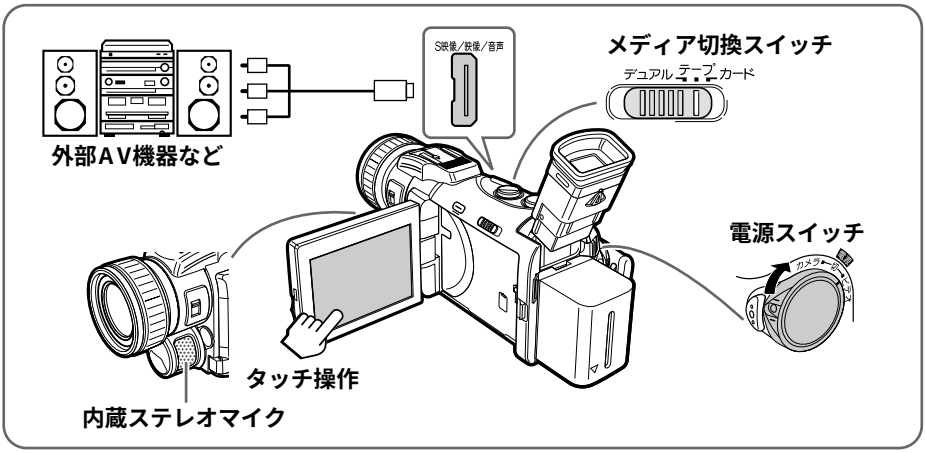
- 著作権保護のための信号が記録されているビデオテープは本機で録画することができません。このようなテープを録画しようとすると液晶モニターに「録画できません」と表示され、録画モードに入りません。なお、ビデオカメラで撮影した映像には、著作権保護のための信号は入りません。
- 編集したテープでは、つなぎ目の部分で多少内容が欠ける場合があります。
- 再生側のビデオ機器でビデオサーチ・スロー再生・静止画再生にしたときや、ノイズの多いテープを再生したときに本機で録画を行うと、映像が正常に記録されないことがあります。

不要なシーンをカットしてダビングするには

不要なシーンの所で、本機の ▶/II をタッチします。録画を再開するシーンになったら、もう一度本機の ▶/II をタッチします。

アフレコをする

テープを見る



内蔵マイク、外部AV機器などを使い、録画済みのテープへ、ナレーションやBGMを録音して楽しむことができます。
アフレコ編集をするときは、必ず「SP」モードで撮影されたテープをお使いください。
（SPモード→57ページ）

1 テープ再生モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 撮影したテープを再生する

3 アフレコしたい場面の頭出しをする

4 静止画再生にする

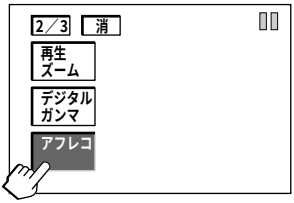
5 2/3 画面を出す

●機能の選択のしかた→**45**ページ

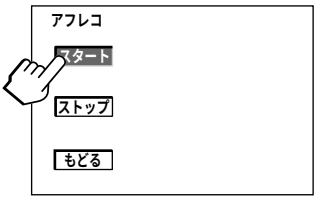
お知らせ

- **DV端子からのアフレコ編集はできません。**
- **LPモードで記録されたテープには、アフレコできません。**
- **アフレコ編集するときは、本機で撮影したテープにアフレコすることをおすすめします。他のデジタルビデオ機器で録画したテープにアフレコすると、音質が劣化することがあります。**

6 アフレコ をタッチする



7 スタート をタッチし、ナレーションなどを入れる



一時停止をしたいときは ストップ をタッチします。

●終了するときは もどる をタッチします。
●LPモードで記録された部分になると自動的に停止します。

お知らせ

- **次のとき、アフレコが一時停止します。**
  1. **１２ｂｉｔ記録から16bit記録に音声が切り換わる部分。**
  2. **１６ｂｉｔ記録から12bit記録に音声が切り換わる部分。**

  引き続きアフレコを行いたいときは、スタート をタッチします。

他にもアフレコしたい場面があるときや、アフレコに失敗したときは

1 他のアフレコしたい場面や、アフレコに失敗した場面の頭出しをする

2 再度、手順3から操作する

お知らせ

- **アフレコに使用するマイクは、外部AV機器に接続したマイク、および内蔵マイクが使えます。これらを同時に接続(使用)したときは、次の優先順位に従ってアフレコの音声が選ばれます。**
  1. **外部AV機器に接続したマイクの音声**
  2. **内蔵マイクの音声**

アフレコをする(つづき)

音声について

▶ 12bit 記録

ステレオで2チャンネル「音声1」と「音声2」があります。アフレコすると、アフレコ時の音声は「音声2」に記録されます。

			撮影時	アフレコ時
音声1	「左」チャンネル 「右」チャンネル	➡	撮影時の音声	撮影時の音声
音声2	「左」チャンネル 「右」チャンネル	➡	無音	アフレコ音声 (ナレーションなど)

撮影時の音声を、アフレコ後もステレオで残したい場合は、メニューの「音声記録」を「12bit」にして撮影することをおすすめします。

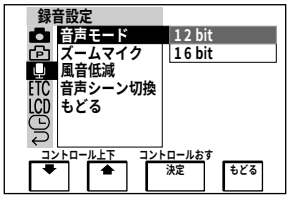
▶ 16bit 記録

高音質で1つのステレオ音声(左・右)が記録できます。
アフレコすると、アフレコ時の音声は「音声2」(右チャンネル)に記録され、もとの「音声2」は消去されます。

			撮影時	アフレコ時
音声1	「左」チャンネル	➡	撮影時の音声	撮影時の音声
音声2	「右」チャンネル	➡	撮影時の音声	アフレコ音声 (ナレーションなど)

▶ **12bit／16bitを切り換えるには**

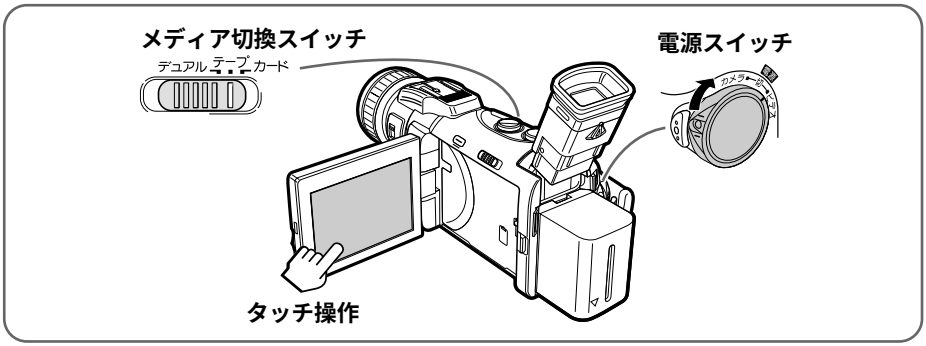
テープ撮影モード／デュアル撮影モードのメニュー画面で切り換えます。
(☞機能の選択／設定のしかた→44ページ)



16bit設定時は、画面に「16bit」表示が出ます。

アフレコした音声を聞く

テープを見る



本機は、12bit記録／16bit記録のテープのどちらでも再生できます。

①音声1＋2（通常の再生）
12bit記録：ステレオ（「音声1」と、「音声2」の混合）
16bit記録：ステレオ（「左」と「右」の2チャンネル）

②音声1
12bit記録：ステレオ（「音声1」のみ）
16bit記録：モノラル（「左」チャンネルのみ）

③音声2
12bit記録：ステレオ（「音声2」のみ）
16bit記録：モノラル（「右」チャンネルのみ）

1 テープ再生モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 アフレコ編集したテープを再生する

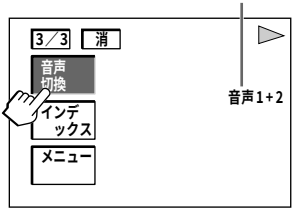
3 3/3 画面を出す

●機能の選択のしかた→**45**ページ

4 音声切換 をタッチする

タッチするごとに、音声表示が次のように切り換わります。

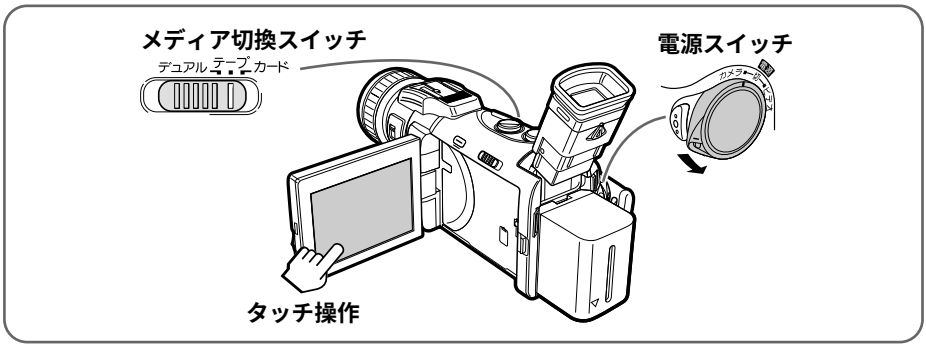
→音声1＋2→音声1→音声2



●**音声表示の色で、音声の記録状態（12bit/16bit）が確認できます。**
12bit記録→白色
16bit記録→緑色
●音声1また音声2選択時は、他の画面に切り換えた場合でもその音声表示が出ます。

「記録中メッセージ」を設定する

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る



静止画を撮影するとき、テープに録画されているか、カードに記録されているかをメッセージ表示することができます。

1 テープ撮影モードにする

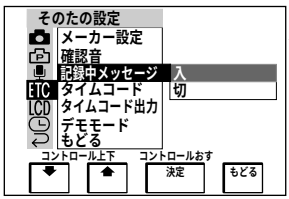
●デュアル撮影モード/カード撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① ETC(そのたの設定)
② 記録中メッセージ
③ 入



●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

●ここでは、カードを使った撮影と再生について説明しています。

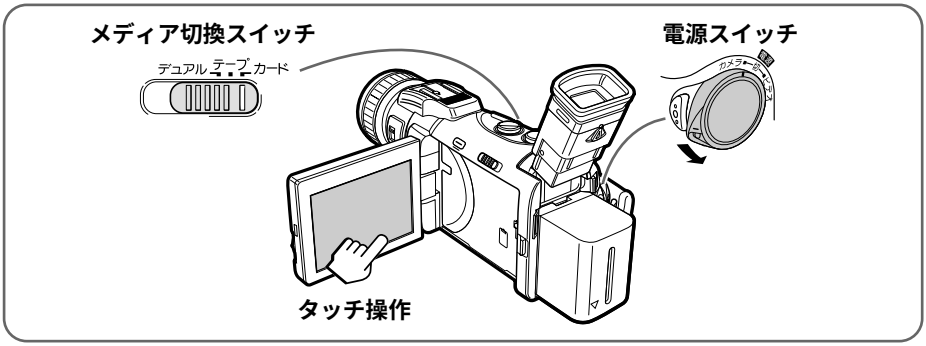
カードを使う

ページ

画質／画像サイズを設定する …… **136**
画質を設定する …… **136**
画像サイズを設定する …… **137**
静止画を撮る …… **138**
別売のフラッシュを使うときは …… **140**
セルフタイマーを使う …… **141**
静止画を見る …… **142**
全画面表示中にマルチ画面に戻したいとき …… **143**
静止画を連続で見る（スライドショー再生） …… **144**
スライドショー再生をする …… **144**
スライドショーを演出する（スライドショー設定） …… **145**
肌色補正をする …… **146**
テープ→カードにコピーする（フォトコピー） …… **148**
好きなシーンだけをコピーする …… **148**
テープの静止画を、カードにコピーする（オートフォトコピー） **149**
カード→テープにコピーする（フォトコピー） …… **150**
大切な画像を保護する（プロテクト） …… **152**
静止画を消去する …… **154**
カードを初期化する（フォーマット） …… **156**
カードの初期化（フォーマット）は、次のようなときに行ってください‥ **156**
プリント情報を付ける（プリントマーク） …… **158**
画像を選んでプリントマークを付ける（個別設定） …… **158**
すべての画像にプリントマークを付ける …… **160**

画質／画像サイズを設定する

カードで撮る　デュアルで撮る



カードを使って静止画を撮影するとき、用途に合わせて画質／画像サイズを設定することができます。

画質を設定する

[設定項目]
「標準」　：標準の画質で撮影できます。
「エコノミー」：多くの枚数が撮影できます。（画質はやや落ちます。）
「ファイン」　：高画質な撮影ができます。（撮影枚数は少なくなります。）

1 カード撮影モードにする

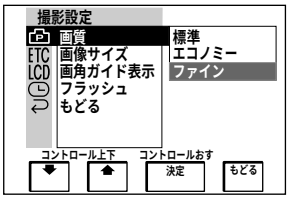
●デュアル撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影設定)
② 画質
③ 標準、エコノミーまたはファイン



●メニューの選びかた→**46**ページ

お知らせ

●カード再生のときの画質表示は、ファイルサイズを目安にして表示しますので、撮影のときの画質とは合わない場合があります。

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

カードで撮る

画像サイズを設定する

[設定項目]
「1280×960」：1280×960ピクセルで記録します。(表示[1280])
「640×480」：640×480ピクセルで記録します。(表示[640])

1 カード撮影モードにする

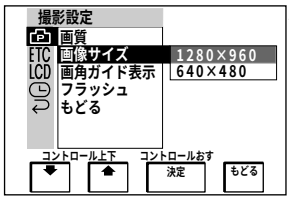
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影設定)
② 画像サイズ
③ 1280x960または640x480



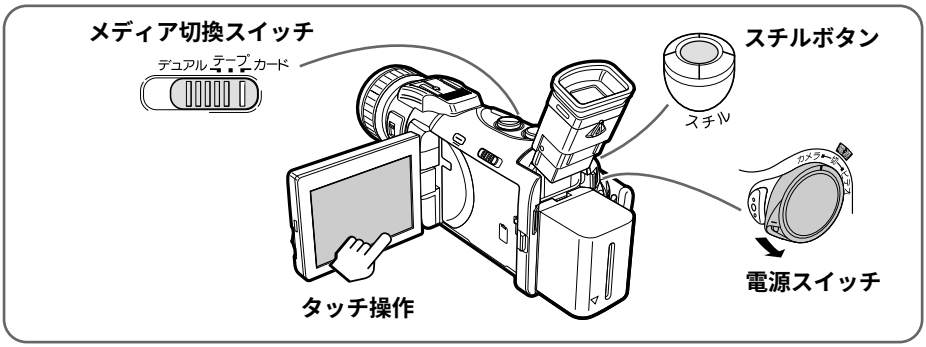
●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

静止画を撮る

カードで撮る　も使えます　28ページ



普通のカメラで写真を撮るように静止画を撮影し、カードに記録することができます。

1 カード撮影モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 押す

カードに記録されます。

記録中は赤く点滅します。完了すると白に戻ります。

●画面に表示されている文字やアイコンは、カードに記録されません。

お知らせ

- **記録中に本機の電源を切ったりカードを抜いたりしないでください。カードの記録データが消失したり、壊れて使えなくなることがあります。**
- **カード撮影モードでは、テープ／デュアル撮影モードにくらべて画角が少し広くなります。**
- **ズーム倍率は1～7倍になります。**

撮影枚数の目安

（アクセサリーキット付属のマルチメディアカード使用時）

画像サイズ	容量＼画質	標　準	エコノミー	ファイン
1280×960	8MB	約24枚	約46枚	約11枚
640×480	8MB	約100枚	約180枚	約60枚

※画像サイズおよび画質モードが混在した場合や、撮影した画像により、撮影枚数は変わります。

ガイド枠に合わせて撮る

液晶モニターにガイド枠を表示させて、撮影時の目安にすることができます。

[設定項目]

「切」　：ガイド枠を表示しません。

「クローズアップ」：顔をアップで撮るときのガイド枠を表示します。

「バストショット」：上半身を撮るときのガイド枠を表示します。

「フルショット」　：全身を撮るときのガイド枠を表示します。

1 カード撮影モードにする

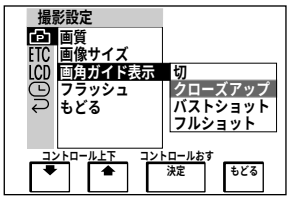
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影設定)
② 画角ガイド表示
③ クローズアップ、バストショットまたはフルショット



●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

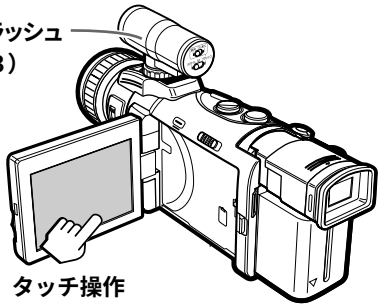
メニュー画面を消します。

静止画撮影時のヒント

- 本機は、シャッタースピードがオートになっているときは被写体の明るさに応じて自動的にシャッタースピードを可変します。**薄暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるため、手ブレを起こしやすくなります。**（画面に表示される画像が流れて見えることがあります。）
- **蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で撮影するときは、**画面が明るくなったり暗くなったりする“フリッカー現象”が起きたり、撮影するタイミングによって画像の色合いが変わることがあります。

静止画を撮る（つづき）

カードで撮る



至近距離でフラッシュを人に向けて発光させないでください。

別売のフラッシュ(VR-VIF3)を使用し、暗い場所でも静止画をきれいに撮ることができます。フラッシュについてくわしくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

別売のフラッシュを使うときは

[設定項目]

「オート」　：周囲が暗いときに（光量不足を示す「ライト」表示が出ているとき）に、スチルボタンに連動して発光します。

「キョウセイ」：撮影時、必ずフラッシュが発光します。

1 カード撮影モードにする

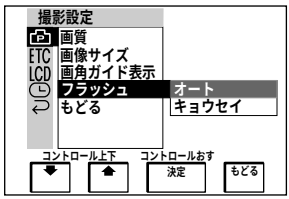
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (撮影設定)
② フラッシュ
③ オート、またはキョウセイ



●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

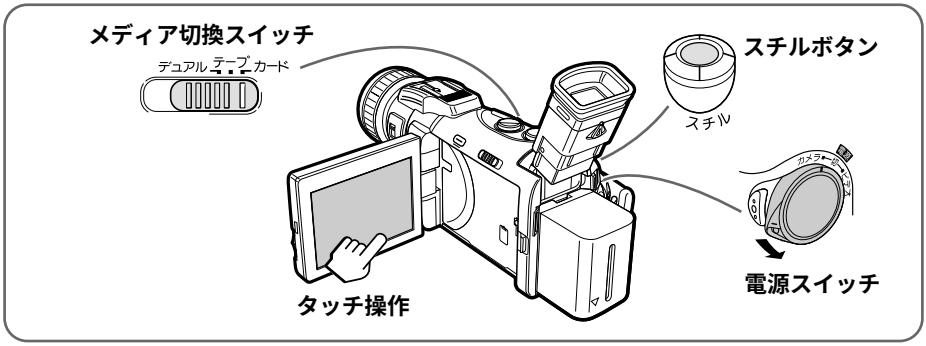
画面に ϟ マークが出ます。このマークはフラッシュの充電状態を示します。充電中は ϟ マークが点滅します。

お知らせ

- **別売のフラッシュを取り付けて、電源スイッチを「フラッシュ」にしないと選べません。**
- **ナイトレーダーを「入」にしているときは、フラッシュは発光しません。**
- **フラッシュ充電中に撮影すると、発光はしませんが記録はされます。**

セルフタイマーを使う

カードで撮る

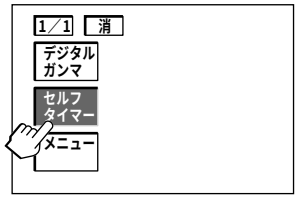


「セルフタイマー」を使うことができます。

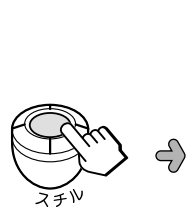
1 カード撮影モードにする

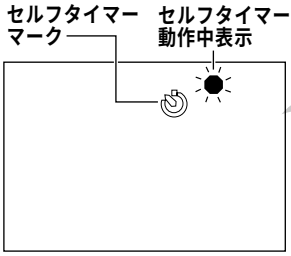
2 1/1 画面を出す

3 セルフタイマー をタッチする



4 押す





セルフタイマーが動作し、約10秒が経過すると静止画面になり、表示されている画面がカードに記録されます。

- モードの切り換えかた→**42**ページ
- セルフタイマーを使うときは、本機を三脚などで水平な場所に固定してください。

お知らせ

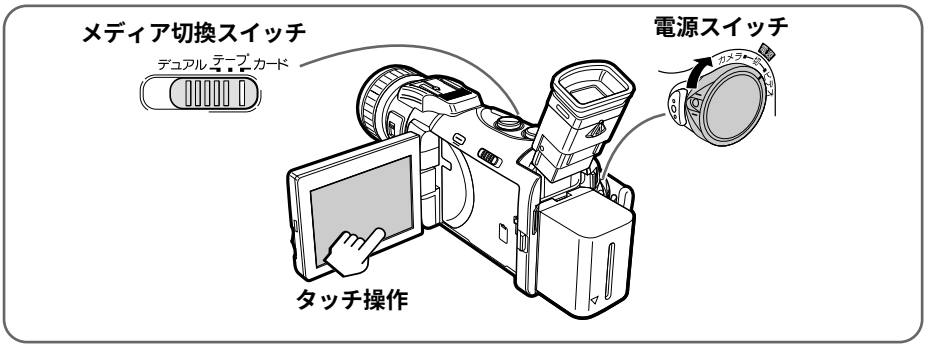
- **セルフタイマー動作中に、本機の電源を切ったりカードを抜いたりしないでください。**
- **液晶モニターリモコン使用時は、セルフタイマーは使用できません。**

- 撮影が終わると、セルフタイマーが解除されます。
- セルフタイマーを途中で止めたいときは、スチルボタンを押してください。
- このあと、セルフタイマーマークのある画面を解除するときは、画面をタッチします。通常画面に戻ります。

静止画を見る

カードを見る

28ページ



1 カード再生モードにする

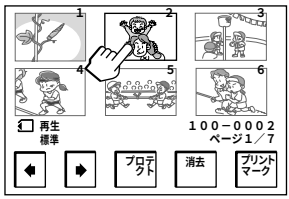
マルチ画面表示されます。

●モードの切り換えかた→**42**ページ

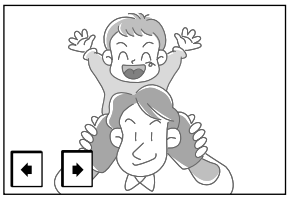
2 見たい画像をタッチ(選択)して、もう一度タッチ(決定)する

●すでに選択されているときは、一度タッチしただけで決定されます。

マルチ画面表示



全画面表示



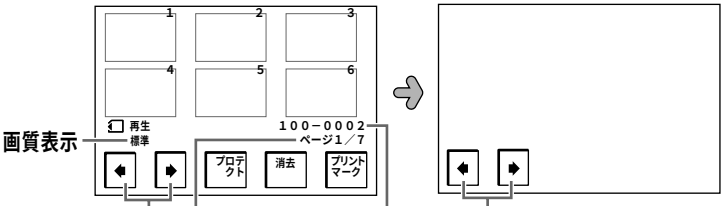
お知らせ

●カード再生のときの画質表示は、ファイルサイズを目安にして表示しますので、撮影のときに設定した画質とは合わない場合があります。

カード再生時の画質表示(標準、エコノミー、ファイン)について

●再生時の画質表示は、記録画像のデータ量を示しています。

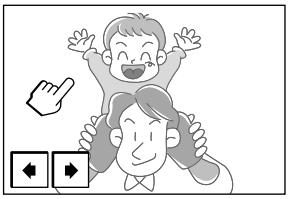
●データ量は記録する画像の細かさなどにより違いますので、記録画像のデータ量によっては記録時の画質設定と再生時の画質表示が一致しない場合があります。



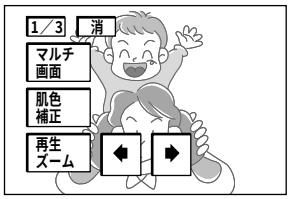
全画面表示中にマルチ画面に戻したいとき

1 1/3 画面を出す

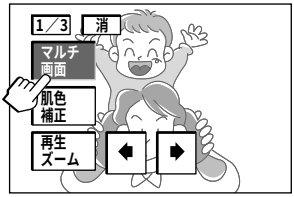
全画面表示

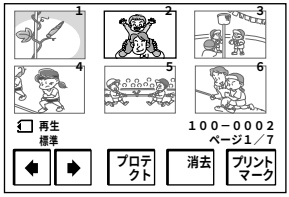


1/3 画面（操作表示画面）



2 マルチ画面 をタッチする

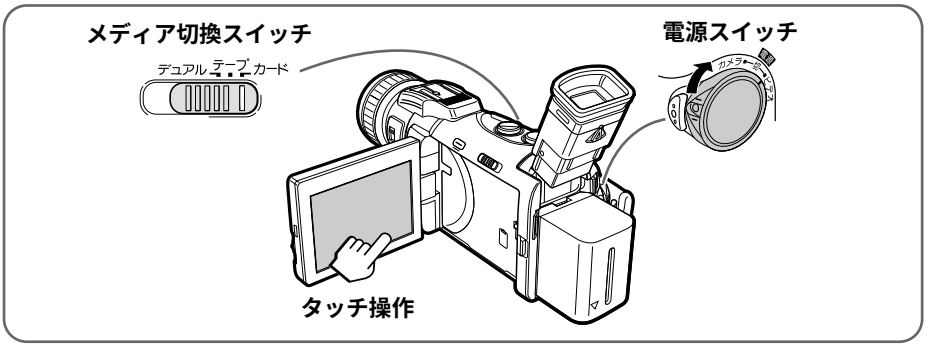




● パソコンで作成した画像データや他機で撮った画像データをその機器で再生したときに、データが壊れている症状（画面にノイズが出る、画像が乱れているなど）がある場合は、その画像データを本機で再生しないでください。本機で再生すると、画面に異常（縦線など）が出る場合があります。このようなときは本機の電源を切り、カードを取り外してください。（以後このデータは本機で再生しないでください。）

静止画を連続で見る(スライドショー再生)

カードを見る



カードに記録されている静止画を、自動で順番に再生することができます。
撮影内容を確認するときに便利な機能です。

スライドショー再生をする

1 カード再生モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 再生を始めたい画像を142ページの手順で全画面表示する

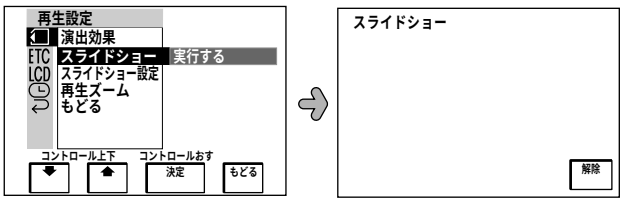
3 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

4 選んで決定する

① (再生設定)
② スライドショー
③ 実行する

●メニューの選びかた→**46**ページ
●スライドショー再生が1周すると、解除されます。



- 手順**2**で選んだ画像からスライドショーが始まります。
- 解除 をタッチすると、スライドショーを中止します。

お知らせ

- **スライドショー再生中は、再生設定の「演出効果」(104ページ)は働きません。**
- **スライドショー実行中に表示入／切ボタンを押すと、スライドショーは解除されます。**
- **画像サイズによっては、表示されている間隔が一定でない場合があります。**

スライドショーを演出する（スライドショー設定）

静止画の移り変わりをオーバーラップやワイプをして演出することができます。

オーバーラップ

ワイプ

1 カード再生モードにする

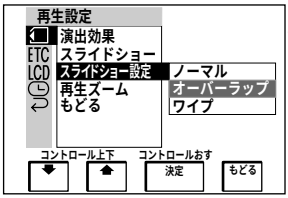
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① （再生設定）
② スライドショー設定
③ オーバーラップ
　またはワイプ



●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

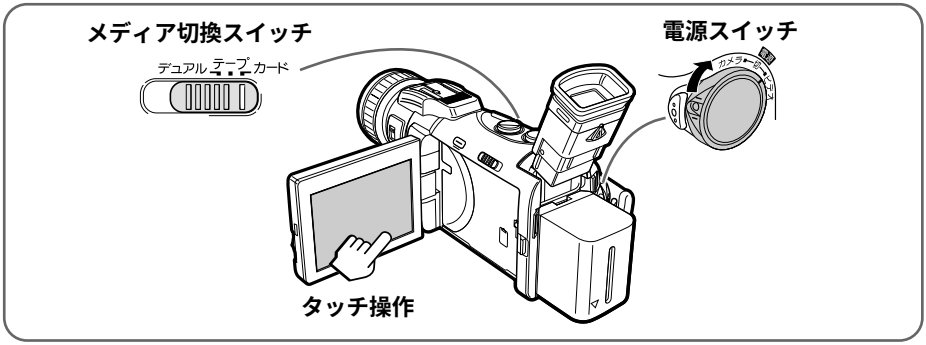
メニュー画面を消します。

5 スライドショー再生の手順を行い、再生する

静止画の移り変わりが、オーバーラップまたはワイプされます。

肌色補正をする

カードを見る



肌色補正機能を使って、肌の色をより美しく再生することができます。また、肌色補正をした画像は、そのままカードに記録することができます。
肌色補正は3段階で強弱がつけられます。

[設定項目]
レベル1：弱　　**レベル2**：中　　**レベル3**：強

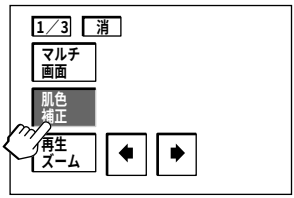
1 カード再生モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 1/3 画面にする

●カード再生画面の操作表示の出しかた→**142,143**ページ

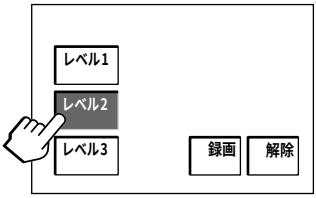
3 肌色補正 をタッチする



お知らせ

●再生ズームをしているときに肌色補正をすると、再生ズームは解除されます。

4 お好みの強さをタッチする



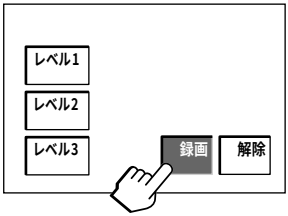
●解除をタッチすると、肌色補正が解除され、1/3画面に戻ります

カードに記録する

肌色補正した画像を、カードに記録することができます。

5 録画をタッチする

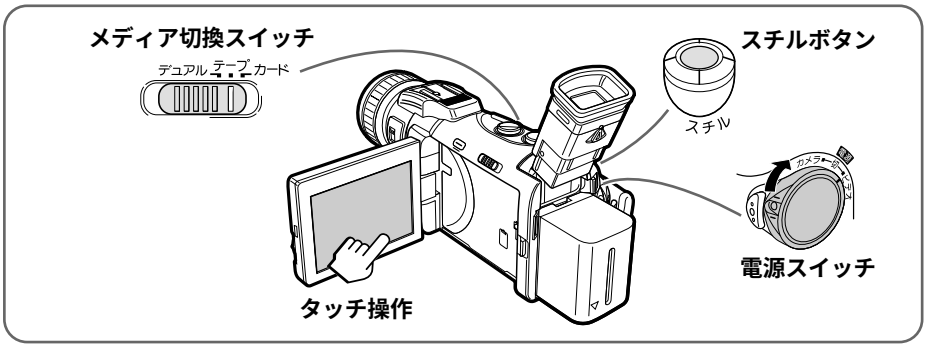
肌色補正された画像が、新たにカードに記録されます。



記録が終わると、マルチ画面表示になります。

テープ→カードにコピーする(フォトコピー)

テープを見る



好きなシーンだけをコピーする

テープで撮影した動画の好きなシーンを静止画にして、カードに記録することができます。

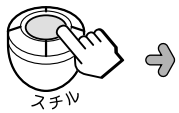
1 テープ再生モードにする

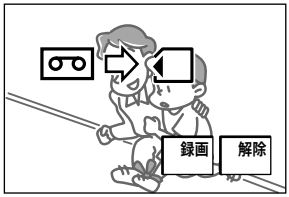
●モードの切り換えかた→42ページ

2 テープを再生する

3 コピーしたいシーンで、押す

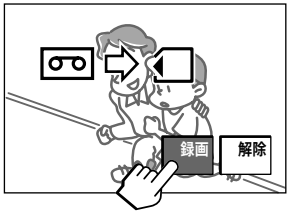
静止画面になります。





4 録画 をタッチする

表示されている画面がカードに記録されます。



5 解除 をタッチする

再生画面に戻ります。

お知らせ

- **本体には、テープとカード、両方をセットしておきます。**
- **液晶モニターリモコン上の操作では、フォトコピーはできません。**

テープの静止画を、カードにコピーする（オートフォトコピー）

テープに撮影した静止画を自動でカードに記録することもできます。

1 テープ再生モードにする

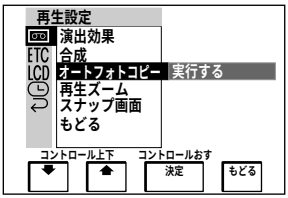
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

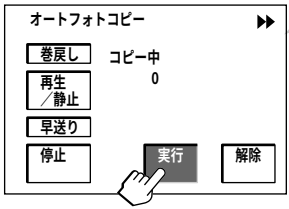
① （再生設定）
② オートフォトコピー
③ 実行する



●メニューの選びかた→**46**ページ

オートフォトコピー画面が表示されます。

4 実行 をタッチする



●実行前に 解除 をタッチすると、オートフォトコピーを行わずにメニュー画面に戻ります。
●実行中に中止したいときは、解除 をタッチします。

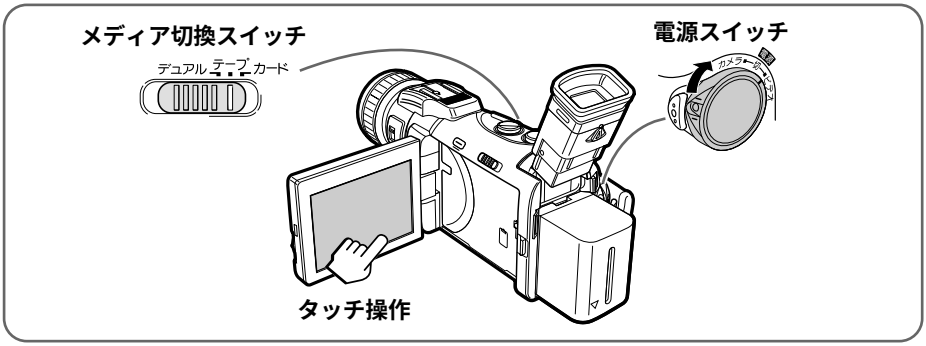
テープの早送りと静止画再生が自動的に行われ、テープに録画した静止画がカードにコピーされます。

お知らせ

- **オートフォトコピー中に、カードを抜いたり電源を切ったりしないでください。カードの記録データが消失したり使えなくなったりすることがあります。**
- **次の場合、オートフォトコピーができないことがあります。**
  - **静止画の撮影時間が短い場合（30秒程度）**
  - **静止画と静止画の間にある動画が、30秒以上撮影されていない場合**

カード→テープにコピーする(フォトコピー)

カードを見る



カードに記録した静止画から好きな画像を選んで、テープにコピーすることができます。

1 テープ再生モードにする

●モードの切り換えかた→**42**ページ

お知らせ

●本体には、テープとカード、両方をセットしておきます。

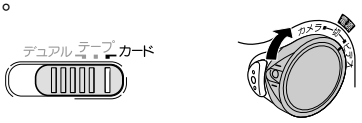
2 テープの無記録部分を頭出しする

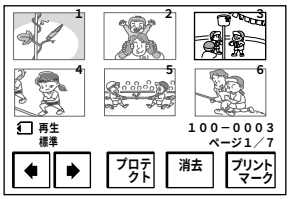
お知らせ

●テープの無記録部分を頭出しておかないと、現在のテープの位置から上書きされるため、前の映像と音声が消去されます。

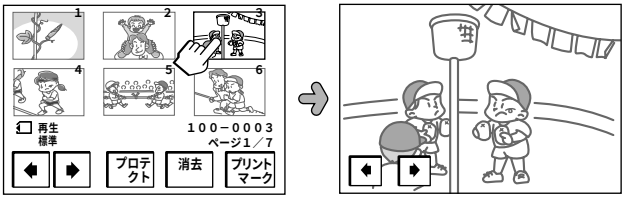
3 カード再生モードに切り換える

カードに記録されている画像がマルチ画面表示されます。

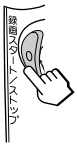




4 好きな画像を再生(全画面表示)する

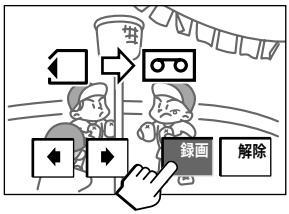


5 押す



録画ポーズ状態になります。

6 録画 をタッチする



●表示されている静止画が、テープにコピーされます。

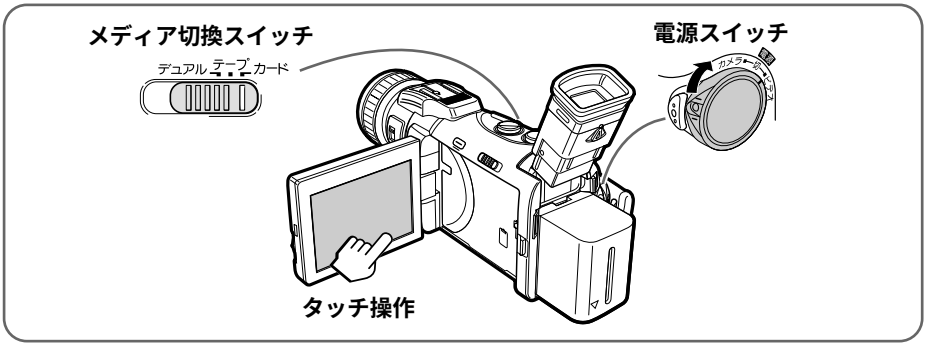
録画を止めるときは

7 解除 をタッチする

カード再生画面に戻ります。

大切な画像を保護する(プロテクト)

カードを見る



カードに記録した大切な画像を誤って消去しないために、画像ごとにプロテクト(保護)をかけて消去できないようにすることができます。

1 カード再生モードにする

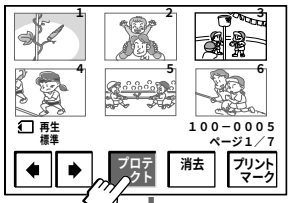
●モードの切り換えかた→**42**ページ

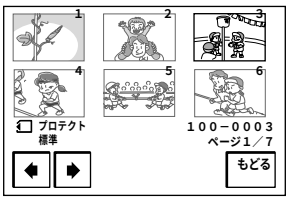
2 プロテクト画面にする

●カード再生画面の操作表示の出しかた→**142,143**ページ

全画面表示の時は、3/3画面で、プロテクトをタッチ

マルチ画面表示の時は、プロテクトをタッチ

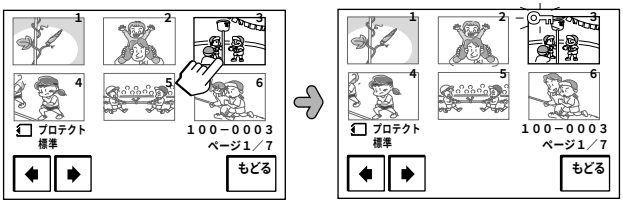




お知らせ

- **プロテクト中に電源を切ったり、カードを抜いたりしないでください。**
- **カードの初期化(フォーマット)を行うと、プロテクトした画像も消去されます。**

3 プロテクトしたい画像をタッチ(選択)して、もう一度タッチ(決定)する

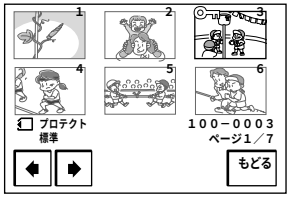


- すでに選択されているときは、一度タッチしただけで決定されます。
- プロテクトのかかった画像にプロテクトマークがつきます。
- 続けてプロテクトをかけるときは、同様にプロテクトしたい画像をタッチします。

4 終わるときは、もどる をタッチする

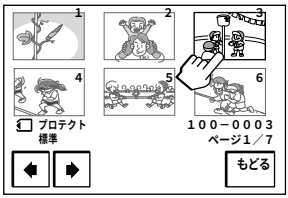
プロテクトを解除する

1 プロテクト画面にする



- 上の、手順3の画面がプロテクト画面です。

2 プロテクトマークがついた画像をタッチ(選択)して、もう一度タッチ(決定)する

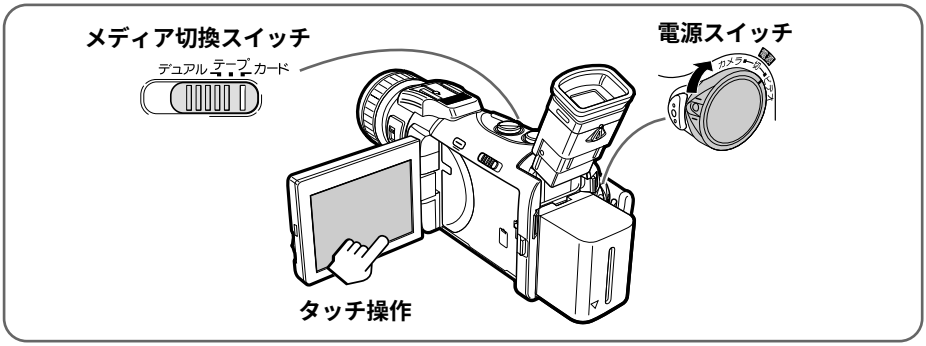


- すでに選択されているときは、一度タッチしただけで決定されます。

プロテクトマークが消え、プロテクトが解除されます。

静止画を消去する

カードを見る



撮影に失敗した画像など不要な静止画を消去することができます。

1 カード再生モードにする

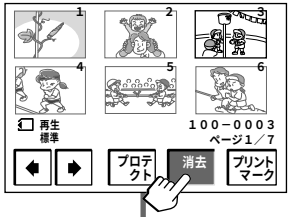
●モードの切り換えかた→**42**ページ

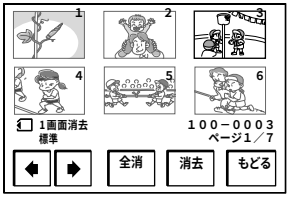
2 消去画面にする

●カード再生画面の操作表示の出しかた→**142,143**ページ

全画面表示の時は、3/3 画面で 消去 をタッチ

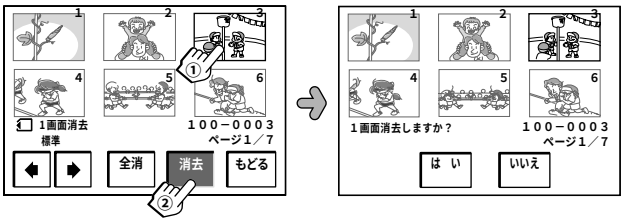
マルチ画面表示の時は、消去 をタッチ





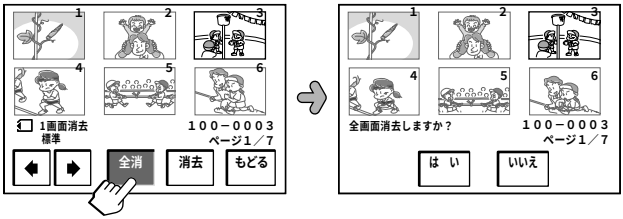
3 1枚ずつ消去(1画面消去)したいときは

消去したい画像を選び、消去 をタッチする



まとめて消去(全消去)したいときは

全消 をタッチする



4 はい をタッチする

- **1画面消去の場合**
  残った静止画が1つずつ前に詰まります。
  他の画像を消したいときは、手順**3**～**4**を繰り返します。

- **全消去の場合**
  プロテクト(**152**ページ)された画像をのぞいたすべての画像が消去され、マルチ画面に戻ります。

●消去しないときは、いいえ をタッチします。
●プロテクト(画像保護)した画像は、消去することができません。プロテクトを解除してから消去してください。詳しくは**153**ページをご覧ください。

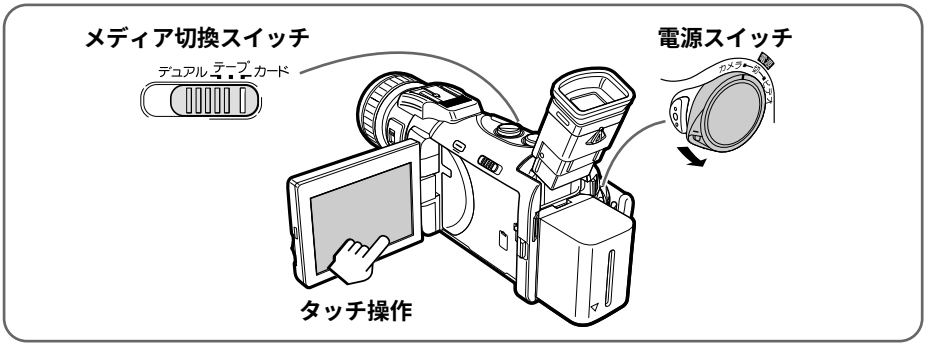
●このとき、プロテクトされた画像にプリントマーク(**158**ページ)が付いていた場合、プリントマークは解除されます。
(プロテクトは解除されません。)

お知らせ

●全消去するには、多少時間がかかります。
●消去中に電源を切らないでください。

カードを初期化する(フォーマット)

カードで撮る



カードを、本機やパソコンで読み書きできるようにすることを、初期化(フォーマット)といいます。
(アクセサリーキットに付属しているカードは初期化されていますので、そのままお使いいただけます。)

カードの初期化(フォーマット)は、次のようなときに行ってください

- **使用中に、カード関係の警告表示が出たとき。(カードエラー、カードリードエラー、カードにデータが書き込めません)**
- **「カードをフォーマットしてください」と表示されたとき。**
- **市販のカードを購入後、初めて本機で使うとき。**

●初期化(フォーマット)は、必ず本機で行ってください。パソコンや他の機器で初期化(フォーマット)したカードは、本機で認識されないことがあります。

●**初期化(フォーマット)を行うと、カードに記録されているタイトル/背景デザインや、プロテクト(画質保護)した画像などすべてのデータが失われます。大切な画像データは、初期化(フォーマット)を行う前に、パソコンへ転送するなどして保存してください。**

お知らせ

●**初期化(フォーマット)中に、電源を切ったりカードを抜き出したりしないでください。カードや本機が故障する原因となります。バッテリーが残り少ないときは、ACアダプターをお使いになることをおすすめします。**

お知らせ

●**タイトル/背景デザインをパソコンに保存するときは、タイトル/背景デザイン以外のデータ(撮影した静止画など)も全て保存してください。**
(保存のしかた→181ページ)
(カード内のデザインデータについて→208ページの「付録」)

1 本機に、初期化したいカードを入れる

2 カード撮影モードにする

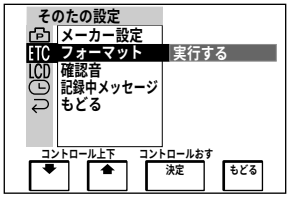
●モードの切り換えかた→**42**ページ

3 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

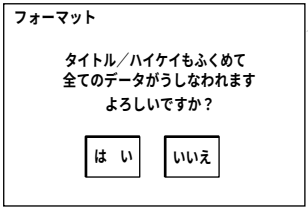
4 選んで決定する

① ETC(そのたの設定)
② フォーマット
③ 実行する



●メニューの選びかた→**46**ページ

5 はい をタッチする

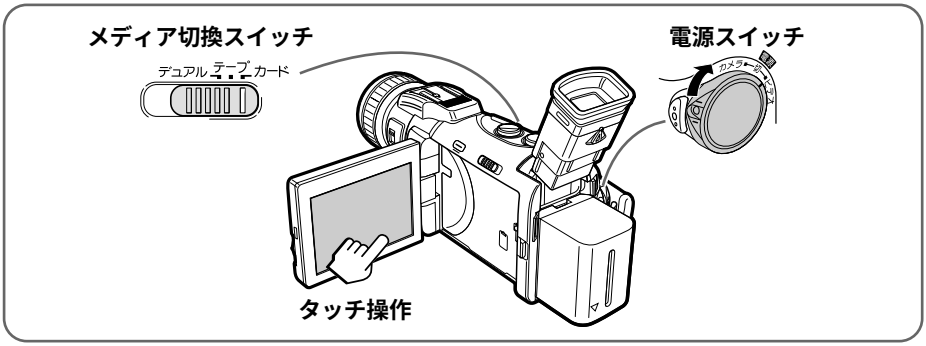


●初期化(フォーマット)を止めるときは、いいえ をタッチます。

初期化(フォーマット)が始まります。

プリント情報を付ける(プリントマーク)

カードを見る



プリントマークとは、カードに記録された静止画像にDPOF(ディーポフ)と呼ばれるプリント情報を追加する機能です。

■DPOFとは

Digital Print Order Formatの略で、印刷枚数の指定など“ プリントのための情報 ”を定めた規格です。

- 将来、DPOF対応プリンターを使うときや、DPOF付き画像をプリントするサービスを行っている店を利用するとき、静止画像を簡単にプリントして楽しむことができます。
- プリントマーク(DPOF)を付けていなくても、プリントすることはできます。

画像を選んでプリントマークを付ける(個別設定)

1 カード再生モードにする

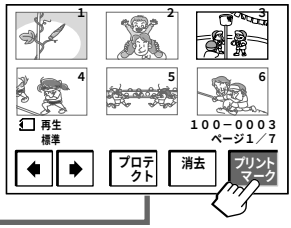
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 プリントマーク画面にする

●カード再生画面の操作表示の出しかた→**142,143**ページ

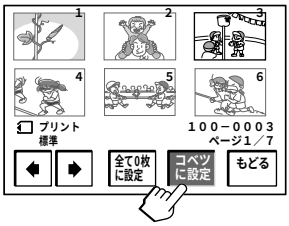
全画面表示の時は、3/3 画面で プリントマーク をタッチ

マルチ画面表示の時は、プリントマーク をタッチ

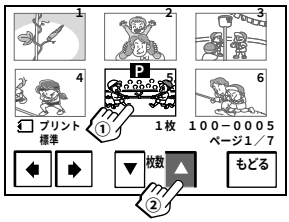


設定画面(手順3の画面)になります。

3 コベツに設定 をタッチする



4 プリントしたい画像を選び、▲または▼をタッチしてプリント枚数を設定する



選んだ画像に、設定した枚数のDPOF情報が付けられ、プリントマークPが点灯します。

- 0〜99枚のあいだで設定できます。
- 0枚に設定したときは、プリントしない設定になります。
- 続けてプリントマークを付けるときは、同様に画像を選び、プリント枚数を設定します。

5 終わるときは、もどる をタッチする

プリントマークを解除する

1 手順1〜3を行う

2 手順4でプリント枚数0枚に設定する

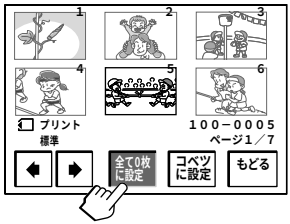
- すべての画像のプリントマークを解除したいときは→**160**ページをご覧ください。

プリント情報を付ける(プリントマーク)

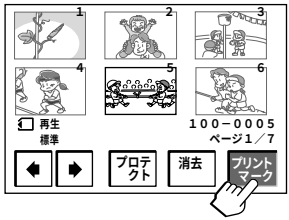
すべての画像にプリントマークを付ける

1 「画像を選んでプリントマークを付ける(158ページ)」の手順1、2を行う

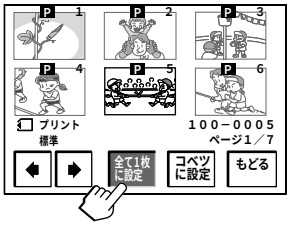
2 全て0枚に設定 をタッチする



3 プリントマーク をタッチする



4 全て1枚に設定 をタッチする



すべての画像に、1枚プリントするDPOF情報が付けられます。

カード内のすべての画像のプリントマークを解除する

プリント画面(手順2の画面)にして、**全て0枚に設定**をタッチすると、すべての画像のプリントマークが解除されます。

お知らせ

- 実行中に電源を切ったり、カードを抜いたりしないでください。

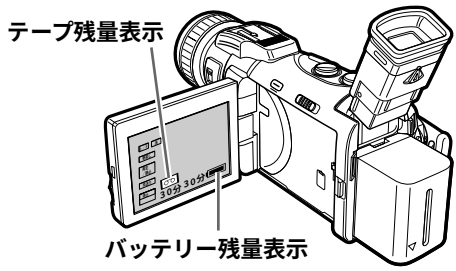
●ここでは、役立つ情報を説明しています。

役立つ情報

ページ

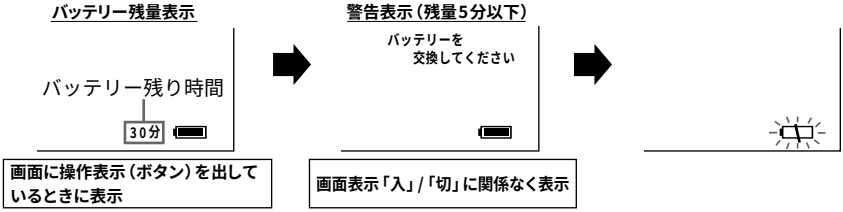
バッテリー残量とテープ残量の表示について ····· 162
バッテリー残量表示について ····· 162
テープ残量表示について ····· 162
確認音を変える ····· 163
映像を調整する（液晶モニター／ビューファインダー） ····· 164
海外の現地時間に合わせる ····· 166
「エリア」の合わせかた ····· 166
海外での電源コンセントの種類 ····· 167
撮りかたの基本 ····· 168
メニュー項目の説明 ····· 170
静止画加工パソコンソフト「デイジーコラージュ SHARP Edition」について ·· 178
オンラインマニュアルを見るために ····· 178
オンラインマニュアルを見る ····· 178
ユーザーサポートについて ····· 179
カードをパソコンで直接使う ····· 180
カードをパソコンで直接使うには ····· 180
フォルダ構成とファイル名について ····· 180
カード内のデータをパソコンに保存する ····· 181
カード→パソコンにデータを保存する ····· 181
パソコンに保存したデータをカードに戻す ····· 182
パソコン→カードにデータを戻す ····· 182
パソコン接続キット／USB動画キットがあれば ····· 183
パソコン接続キット「ピクスラボ」（VR-PK120）（別売） ····· 183
USB動画キット「ピクスラボ」（VR-PKU10）（別売） ····· 183
バッテリーパックについて ····· 184
つゆ付き（結露）について ····· 186
ヘッドの汚れについて ····· 187
使用上のご注意 ····· 188
故障かな？と思ったら ····· 193
保証とアフターサービスについて ····· 197
お客様ご相談窓口のご案内 ····· 198
仕様 ····· 202
警告とお知らせメッセージ ····· 204
用語の解説 ····· 206
付録 ····· 208
Quick Start Guide ····· 209
おもな機能別インデックス ····· 214
さくいん ····· 215

バッテリー残量とテープ残量の表示について



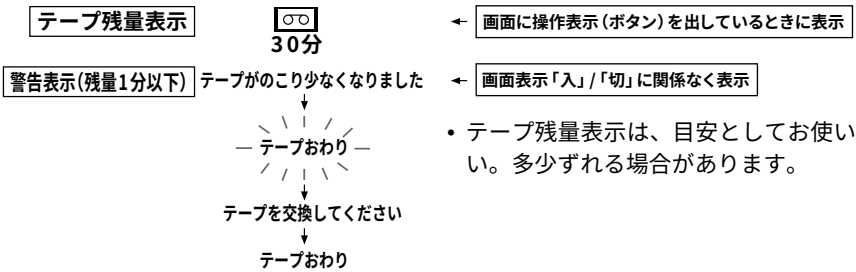
バッテリー残量表示について

本機は、アクセサリーキット（VR-KTX1）に同梱のインテリジェントバッテリーパックを使用したとき、バッテリー残量に応じて残り動作可能時間を分単位で表示する、「インテリジェントバッテリー機能」を持っています。



- インテリジェントバッテリーは、本機の使用状況を確認しながらバッテリー残量を計算しています。そのため、バッテリー残量が表示されるまでに30秒〜1分かかります。使用状況の変化によっては、残量表示が大幅に減ったり、増えたりすることがあります。
- バッテリー残量表示は、目安としてお使いください。
- 「インテリジェントバッテリー機能」に対応していないバッテリー（シャープ製VR-BL93など）をご使用のときは、バッテリー残り時間は表示されません。
- 正しい残量が表示されないと思われるときは、一度バッテリーを使いきってから、再度充電し直してください。

テープ残量表示について



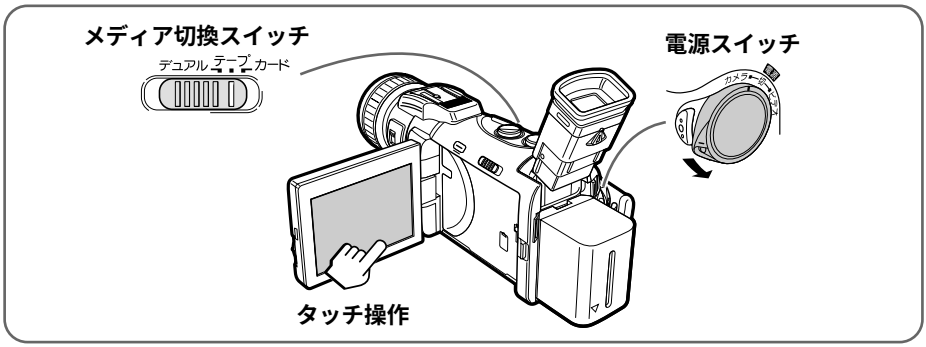
- テープ残量表示は、目安としてお使いください。多少ずれる場合があります。

バッテリーパックを交換したとき

- **本機にビデオテープを入れたままの状態で、バッテリーパック等の電源を取り外し／取り付けしたときは、テープ残量はすぐに表示されません。このときテープ残量を表示するには、約10秒間程度撮影してください。**

確認音を変える

テープで撮る　デュアルで撮る　テープを見る　カードで撮る　カードを見る



タッチ操作などをしたときに鳴る確認音を変更したり、 鳴らないように設定することができます。

[設定項目]

「チャイム」：操作したときチャイムが鳴ります。

「ノーマル」：操作したとき電子音が鳴ります。

「切」　　：確認音を鳴らしません。
確認音を「切」に設定すると、警告音も鳴らなくなります。

1 テープ撮影モードにする

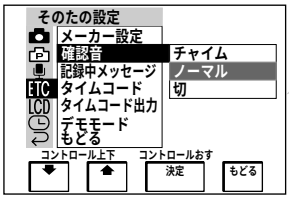
●全てのモードで操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① ETC(そのたの設定)
② 確認音
③ チャイム、ノーマル、または切



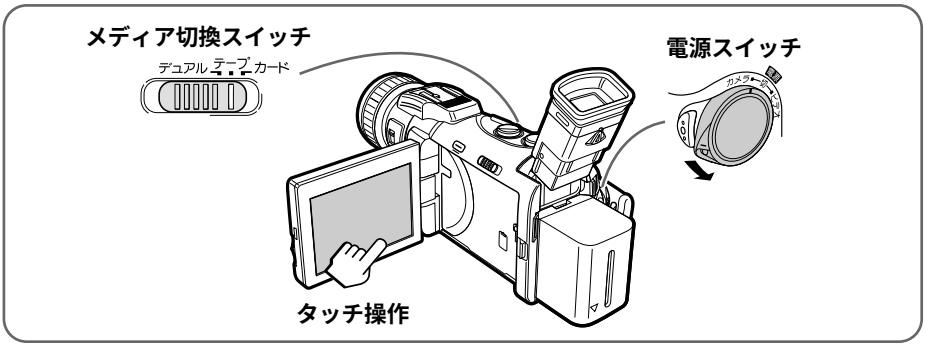
●メニューの選びかた→**46**ページ

4 もどる を繰り返しタッチする

メニュー画面を消します。

映像を調整する(液晶モニター/ビューファインダー)

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る　テープを見る　カードを見る



周囲の状況により液晶モニターが見づらいときに、明るさを調整したり、色の濃さを調整することができます。

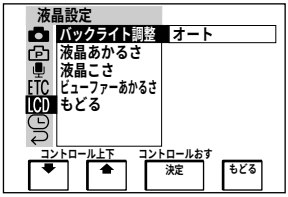
1 テープ撮影モードにする

●全てのモードで操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 LCD(液晶設定)項目を選ぶ



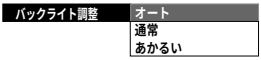
●メニューの選びかた→**46**ページ

お知らせ

- **バックライト調整を「オート」にしておくと、撮影時の明るさに応じて「通常」/「あかるい」が自動的に切り換わります。**
- **テープ/カードに記録される映像は、液晶設定を行っても変わりません。**

4 各調整項目を、お好みで調整する

- **「バックライト調整」：**
  液晶モニターを照らしているバックライトの明るさを設定します。（テープ再生／カード再生モードには、「オート」の設定はありません。）



- **「液晶あかるさ」：**
  液晶モニターの明るさを設定します。

- **「液晶こさ」：**
  液晶モニターの濃さを調整します。

- **「ビューファーあかるさ」：**
  ビューファインダーの明るさを調整します。

5 終わるときは、もどる を繰り返しタッチする

お知らせ

- **ビューファインダーでは「バックライト調整」「液晶あかるさ」「液晶こさ」を調整しても変わりません。**
- **色の濃さを調整すると、実際の撮影映像と異なるイメージになります。液晶設定は、明るさの調整を中心にお使いください。**

海外の現地時間に合わせる

テープで撮る　デュアルで撮る　カードで撮る

必ず前もって、日本時間(東京)に合わせてください。(38ページ)
海外旅行に行くときなど、現地の時間に合わせるときにお使いください。

「エリア」の合わせかた

1 テープ撮影モードにする

●デュアル撮影モード／カード撮影モードでも操作できます。
●モードの切り換えかた→**42**ページ

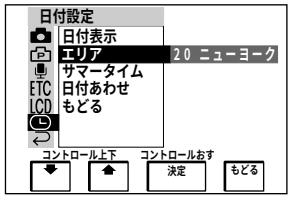
2 メニュー画面を出す

●メニュー画面の出しかた→**45**ページ

3 選んで決定する

① (日付設定)
② エリア
③ 渡航先のエリアコード

(例)　ニューヨーク時間に合わせたとき



●メニューの選びかた→**46**ページ

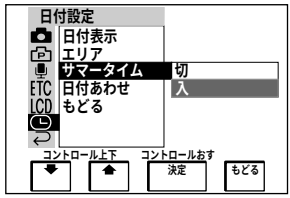
●日付・時刻表示の時間がニューヨーク時間になります。

エリアコード一覧表							
1	ロンドン	7	ダッカ	13	ウエリントン	19	シカゴ
2	パリ	8	バンコク	14	サモア	20	ニューヨーク
3	カイロ	9	ホンコン	15	ハワイ	21	カラカス
4	モスクワ	10	トウキョウ	16	アンカレジ	22	リオ
5	ドバイ	11	シドニー	17	ロサンゼルス	23	フェルナンド
6	カラチ	12	ソロモン	18	デンバー	24	アゾレス

●日本時間に戻すときは、以下の設定にします。
エリア→10　トウキョウ
サマータイム→切

現地がサマータイムのとき

3 「サマータイム」を選び、「入」にする



4 もどる を繰り返しタッチする

- メニュー画面を消します。
- 日付・時刻表示の時刻が1時間修正され☼マークが追加されます。

海外での電源コンセントの種類

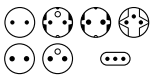
本機は海外でも使用できます

- アクセサリーキット付属のACアダプターは、100～240Vに対応しておりますので、海外でも使用することが可能です。旅行先によっては、電源コンセントの形状が異なりますので、地域に合わせた変換プラグを用いて使用してください。(変換プラグは空港売店などで販売しています。)
- 電源電圧および電源コンセントの形状は、あらかじめ旅行代理店等でご確認ください。

⚠注意

市販の「電子式変圧器」は使用しない

- ACアダプターを海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などに接続しますと、火災・感電・故障の原因となることがあります。

		海外での電源コンセントの種類			
タイプ	A	B	BF	C	S
壁のコンセントの形状例					
使用する変換プラグ	**不要です。** ACアダプターのプラグを、直接差し込みます。 主に北米、南米などの場合			 主にヨーロッパなどで使います。	 主にオーストラリアなどで使います。

主な国名と変換プラグ一覧

北米			
カナダ	A	アメリカ合衆国	A
中南米			
アルゼンチン	BF、C、S	バハマ	A
コロンビア	A	プエルトリコ	A
ジャマイカ	A	ブラジル	A、C
チリ	B、C	ベネズエラ	A
ハイチ	A	ペルー	A、C
パナマ	A、BF	メキシコ	A
オセアニア			
オーストラリア	S	トンガ	S
グアム	A	ニュージーランド	S
タヒチ	C	フィジー	S
アジア			
インド	B、C	パキスタン	B、C
インドネシア	B、C	バングラデシュ	C
シンガポール	B、BF	フィリピン	A、C、S
タイ	A、BF、C	ベトナム	A、C
大韓民国	A、B、C	香港	B、BF
スリランカ	B	マカオ	B、C
中華人民共和国	A、B、BF、C	マレーシア	B、BF、C
ネパール	C	モンゴル	C

ヨーロッパ			
アイスランド	C	デンマーク	C
アイルランド	C	ドイツ	C
イギリス	B、BF	ノルウェー	C
イタリア	C	ハンガリー	C
オーストリア	C	フィンランド	C
ギリシャ	C	フランス	C
オランダ	C	ベルギー	C
スイス	B、C	ポーランド	B、C
スウェーデン	C	ポルトガル	B、C
スペイン	A、C	ルーマニア	C
中近東			
イスラエル	C	クウェート	B、C
イラン	C	ヨルダン	B、BF
アフリカ			
アルジェリア	A、BF、C	ザンビア	B、BF
エジプト	B、BF	タンザニア	B、BF
カナリア諸島	C	南アフリカ共和国	B、BF、C
ギニア	C	モザンビーク	C
ケニア	B、C	モロッコ	C

テレビで再生するときは、日本国内仕様のNTSC方式のテレビが必要です。

日本と同じカラーテレビ方式(NTSC)を採用している国です

(五十音順)

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダード・トバゴ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

撮りかたの基本

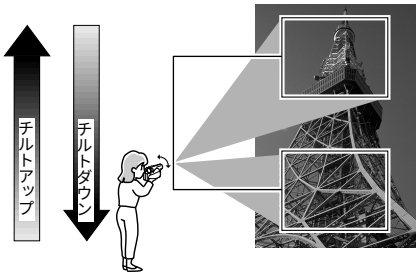
■カメラアングルは水平に

この画面は安定感があります。

このように傾けると画面が不安定です。

ビデオカメラをあまり動かしすぎないようにして撮ると、見やすい映像になります。

■高さを表現する（チルティング）



本機を固定したまま上体を動かします。

撮り始めと最後の画面は、数秒間安定した画面を撮るとより効果的になります。

■高い位置で撮る姿勢（ハイアングル）

■低い位置で撮る姿勢（ローアングル）

■広さや長さを表現したいときや、全景を撮影したいとき（パンニング）

1 まず、撮り終わりの方向に上体を向けて確認します。

2 足を動かさず、撮り始めの方向に腰を回してカメラを向け、撮影をスタートします。

3 ゆっくりと腰を戻しながらカメラを回します。

■被写体は画面中央部にくるように撮る

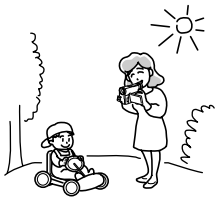
フォーカスがオートのときは、画面中央部にピントが合います。

被写体は画面中央部に

被写体を端にした構図でピントがボケるときは、手動でピント合わせをします。（**92**ページ）

■自然光で撮るとき

太陽を背負う（順光）ようなつもりでカメラポジションを選びましょう。そうすれば、被写体に太陽の光が均等に当たってきれいに撮れます。（液晶モニターが見にくくなる場合があります。）



- 被写体の後方が明るすぎる（逆光）と、被写体が暗く写ります。
- 逆光の中で撮るときは、明るさを補正します。（**75**ページ）

■照明を使うとき

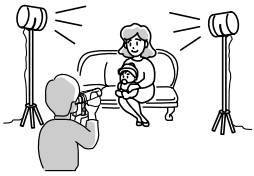
画面に「ライト」表示が出たときは光量が不足しています。照明を明るくするなどして明るいところで撮ってください。「逆光の中や暗いときに撮る（デジタルガンマ明るさ補正）」（**75**ページ）もご覧ください。

ビデオライト1灯の場合

- 蛍光灯だけでも充分に撮影できますが、被写体が明るいほど、鮮明な映像が得られます。
- ライトは被写体の正面斜め上から当てます。

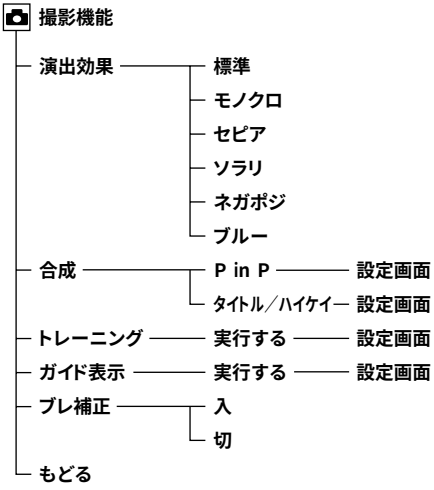
ビデオライト2灯の場合

- メインライトの影が強く出るところを消すつもりで補助ライトを当てます。補助ライトは、遠ざけたり白紙に反射させたりして、柔らかい光にして使います。
- 被写体に均一にライトを当てるには、左右から約45度の角度で当てます。



メニュー項目の説明

テープ撮影モード・デュアル撮影モードのメニュー項目一覧



撮影機能

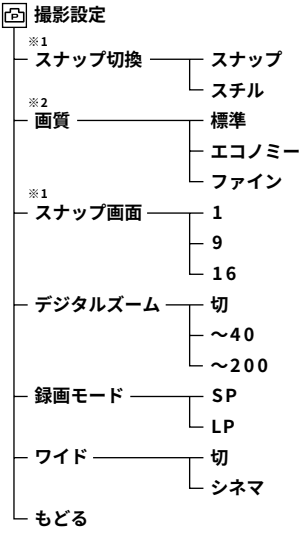
演出効果
特殊効果を入れて撮影ができる機能です。

合成
P in P：画面の中に別の画像を子画面表示して合成する機能です。
タイトル/ハイケイ：タイトルデータや背景データとカメラ映像を重ね合わせて合成する機能です。

トレーニング
撮影テクニックを練習する機能です。

ガイド表示
撮影中に、より上手に撮影するヒントを表示する機能です。

ブレ補正
手ブレを少なくする機能です。ズームなどを使った撮影で手ブレが気になるときに「入」にします。



※1. デュアル撮影モードには、この項目はありません。
※2. テープ撮影モードには、この項目はありません。

撮影設定

スナップ切換
スナップ：普通のカメラ感覚で、テープに約6秒間の静止画を録画する機能です。
スチル：静止画を連続で録画する機能です。

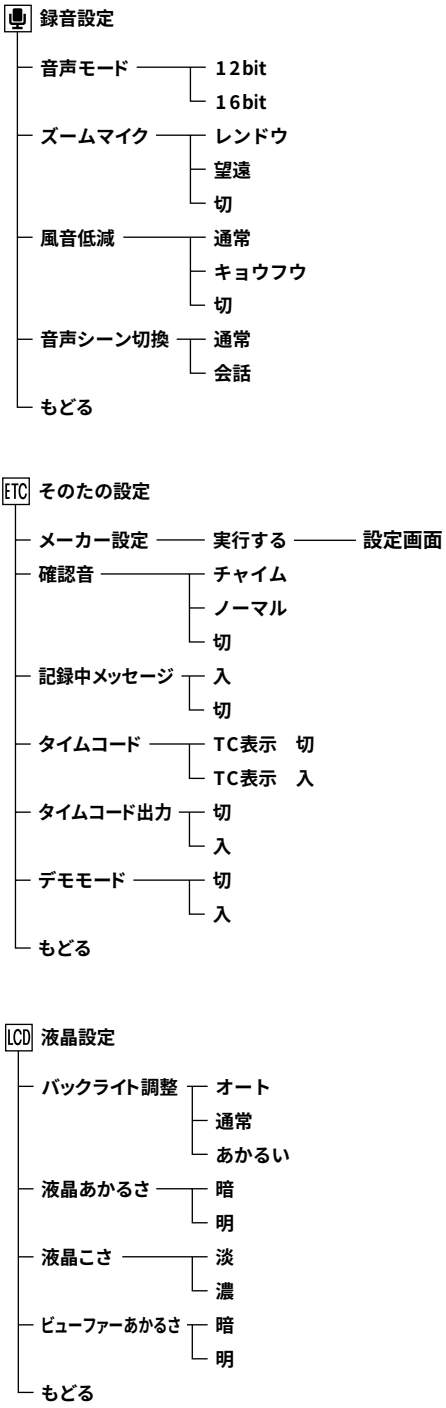
画質
記録する静止画の画質を設定します。（画質によって記録できる枚数が変わります。）

スナップ画面
スナップ（静止画）にしたときの画面数を設定する機能です。
1　：1画面の静止画になります。
9　：9連写風の静止画になります。
16：16連写風の静止画になります。

デジタルズーム
切：デジタルズームを使わない設定です。
～40倍：40倍までのデジタルズームを使う設定です。
～200倍：200倍までのデジタルズームを使う設定です。

録画モード
SP：通常はこの設定でお使いください。
LP：SPの約1.5倍の時間、撮影できます。

ワイド
切：ワイド画面撮影をしない設定です。
シネマ：画面の上下に黒帯がついた画面で撮影します。



録音設定

音声モード

12bit：原音を残したままアフレコをしたいときに設定します。

16bit：より高音質の音声で録画したいときに設定します。

ズームマイク

ズームマイクを接続したときに設定する機能です。

レンドウ：ズーム倍率に合わせてマイクの指向性を調整します。

望遠： 望遠マイクとして使用します。

切：内蔵マイクを使用する設定です。

風音低減

通常：風の強い日など、風の音が気になるとき自動的に風音を低減する機能です。

キョウフウ：より風の強い日に使用します。

音声シーン切換

人の声をよりクリアに拾いたいときに使用します。

そのたの設定

メーカー設定

日付設定以外のメニュー設定した機能をご購入時の状態に戻すとき実行します。

確認音

操作したときに鳴る確認音を変える機能です。

チャイム：操作したときチャイムが鳴ります。

ノーマル：操作したとき電子音が鳴ります。

切：確認音を消す設定です。

記録中メッセージ

静止画を撮影するとき、テープに録画されているか、カードに記録されているかをメッセージ表示することができます。

タイムコード

撮影経過時間を表示する機能です。

タイムコード出力

テレビ等に接続してモニター出力しているとき、タイムコードをテレビ画面に表示する機能です。

デモモード

177ページをご覧ください。

液晶設定

バックライト調整

液晶モニターを照らしているバックライトの明るさを設定する機能です。

液晶あかるさ

液晶モニターの明るさを調整する機能です。

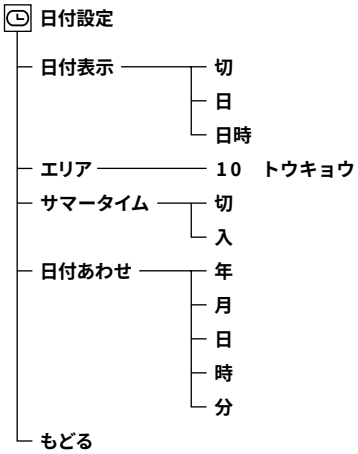
液晶こさ

液晶モニターの濃さを調整する機能です。

ビューファーあかるさ

ビューファインダーの明るさを調整する機能です。

メニュー項目の説明(つづき)



日付設定

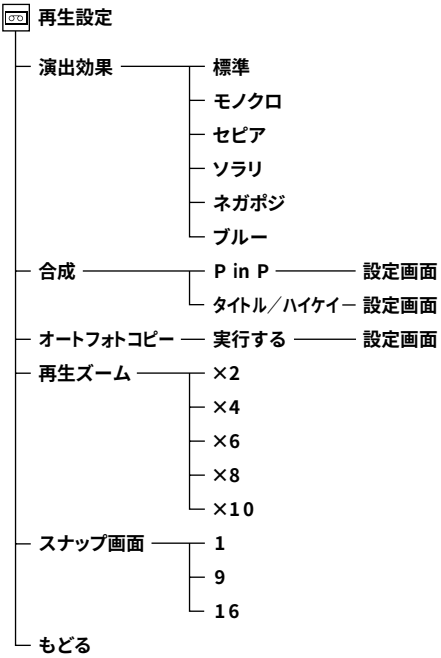
日付表示
画面に日付や時刻を表示させる機能です。
切：日付と時刻を表示しません。
日：日付のみ表示します。
日時：日付と時刻を表示します。

エリア
海外旅行先のエリア(数字)を指定するだけで、指定した都市の時刻が設定できる機能です。

サマータイム
海外旅行先などでサマータイムのときに設定する機能です。

日付あわせ
本機に内蔵されている時計を設定する機能です。

テープ再生モードのメニュー項目一覧



再生設定

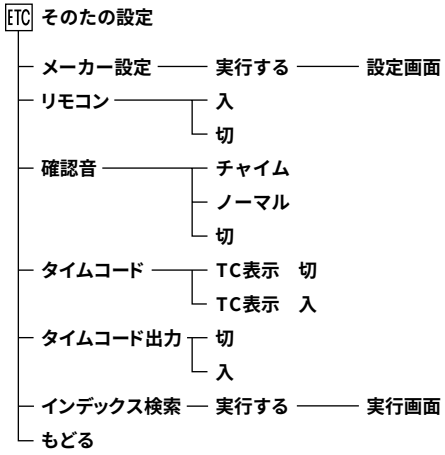
演出効果
特殊効果を入れて再生ができる機能です。

合成
P in P：画面の中に別の画像を子画面表示して合成する機能です。
タイトル／ハイケイ：タイトルデータや背景データと再生映像を重ね合わせて合成する機能です。

オートフォトコピー
テープに記録した静止画を、自動的にカードにコピーする機能です。

再生ズーム
再生ズームをするときの、倍率の設定です。

スナップ画面
静止画再生にしたときの画面数を設定する機能です。



そのたの設定

メーカー設定
日付設定以外のメニュー設定した機能をご購入時の状態に戻すとき実行します。

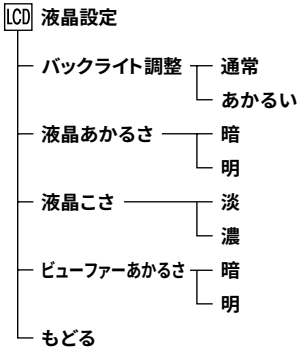
リモコン
ワイヤレスリモコンを使用するときに「入」にします。

確認音
操作したときに鳴る確認音を変える機能です。
チャイム：操作したときチャイムが鳴ります。
ノーマル：操作したとき電子音が鳴ります。
切：確認音を消す設定です。

タイムコード
撮影経過時間を表示する機能です。

タイムコード出力
テレビ等に接続してモニター出力しているとき、タイムコードをテレビ画面に表示する機能です。

インデックス検索
1枚のカードに、複数のテープのインデックスが記録されているとき、目的のインデックスを探し出す機能です。



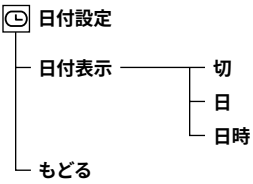
液晶設定

バックライト調整
液晶モニターを照らしているバックライトの明るさを設定する機能です。

液晶あかるさ
液晶モニターの明るさを調整する機能です。

液晶こさ
液晶モニターの濃さを調整する機能です。

ビューファーあかるさ
ビューファインダーの明るさを調整する機能です。

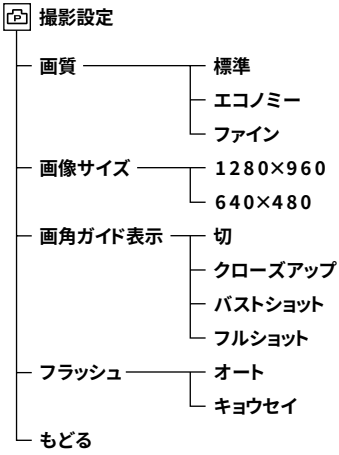


日付設定

日付表示
画面に日付や時刻を表示させる機能です。

メニュー項目の説明(つづき)

カード撮影モードのメニュー項目一覧



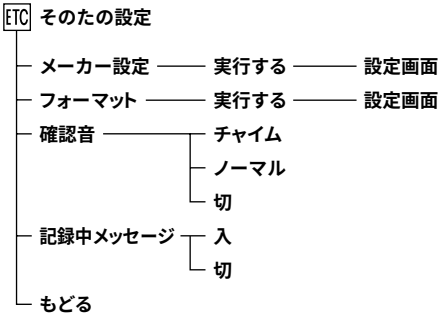
撮影機能

画質
記録する静止画の画質を設定します。(画質によって記録できる枚数が変わります。)

画像サイズ
記録する静止画のサイズを設定します。(サイズによって記録できる枚数が変わります。)

画角ガイド表示
静止画撮影時、液晶モニターにガイドを表示させる機能です。

フラッシュ
別売のフラッシュを装着したときに設定します。
オート：画面に光量不足を示す「ライト」表示が表示されているときにスチルボタンに連動してフラッシュが発光します。
キョウセイ：撮影時、必ずフラッシュが光ります。



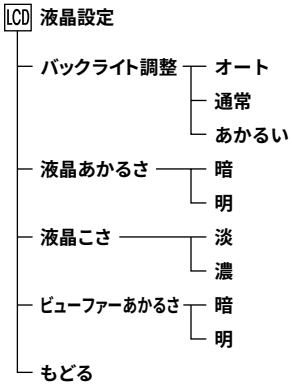
そのたの設定

メーカー設定
日付設定以外のメニュー設定した機能をご購入時の状態に戻すとき実行します。

フォーマット
初期化(フォーマット)されていないカードや、使用したカードを初期化したいときに使う機能です。初期化(フォーマット)すると、撮影した静止画像、内蔵されているタイトルや背景デザインを含め、カードに記録されたすべてのデータが消去されます。

確認音
操作したときに鳴る確認音を変える機能です。

記録中メッセージ
テープやカードに撮影しているとき、録画中であることを示すメッセージが表示されます。



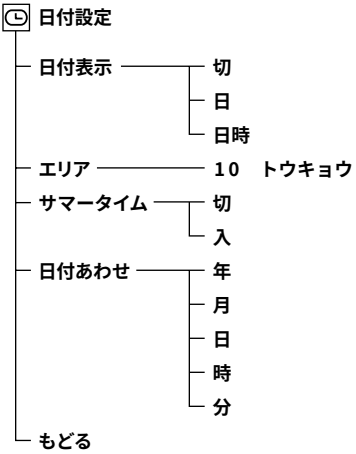
液晶設定

バックライト調整
液晶モニターを照らしているバックライトの明るさを設定する機能です。

液晶あかるさ
液晶モニターの明るさを調整する機能です。

液晶こさ
液晶モニターの濃さを調整する機能です。

ビューファーあかるさ
ビューファインダーの明るさを調整する機能です。



日付設定

日付表示
画面に日付や時刻を表示させる機能です。

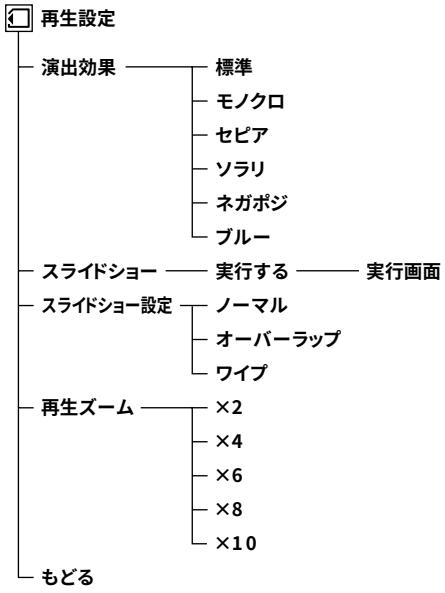
エリア
海外旅行先のエリア(数字)を指定するだけで、指定した都市の時刻が設定できる機能です。

サマータイム
海外旅行先などでサマータイムのときに設定する機能です。

日付あわせ
本機に内蔵されている時計を設定する機能です。

メニュー項目の説明(つづき)

カード再生モードのメニュー項目一覧



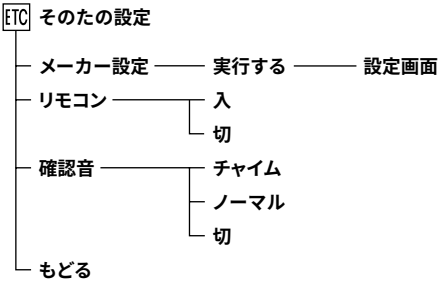
再生設定

演出効果
特殊効果を入れて、カード再生ができる機能です。

スライドショー
カードに記録した静止画を、1枚ずつ自動的に切り換えながら再生する機能です。

スライドショー設定
スライドショー再生をするときの、画像の切り換わりかたを設定する機能です。

再生ズーム
再生ズームをするときの、倍率の設定です。

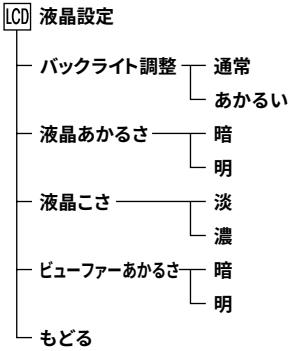


そのたの設定

メーカー設定
日付設定以外のメニュー設定した機能をご購入時の状態に戻すとき実行します。

リモコン
ワイヤレスリモコンを使用するときに「入」にします。

確認音
操作したときに鳴る確認音を変える機能です。



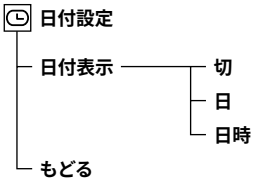
液晶設定

バックライト調整
液晶モニターを照らしているバックライトの明るさを設定する機能です。

液晶あかるさ
液晶モニターの明るさを調整する機能です。

液晶こさ
液晶モニターの濃さを調整する機能です。

ビューファーあかるさ
ビューファーの明るさを調整する機能です。



日付設定

画面に日付や時刻を表示させる機能です。

デモモード

本機が持つ機能の一部を、液晶モニターで分かりやすく説明するデモを見る機能です。

- テープを入れずにテープ撮影モードにし、メニューで「デモモード」を「入」にすると、デモが始まります。
- デモ中に、テープを入れたり何か操作をすると、デモが一時中断されます。（デモモードは「入」のままです。）テープが無い状態で何も操作をしなければ、約1分後にデモが再開されます。
- デモモードを「切」にしたいときは、何か操作を行いデモが一時中断されている間に、メニューでデモモードを「切」にしてください。

静止画加工パソコンソフト「デイジーコラージュ SHARP Edition」について

アクセサリーキット同梱の静止画加工パソコンソフト「デイジーコラージュ SHARP Edition」は、カードに撮影してパソコンに取り込んだ静止画像などをアルバム管理したり、簡単な加工が楽しめるソフトウェアです。

- **パソコンへの静止画ファイルの取り込みかた→180、181ページ**
- **インストール方法については、ソフトウェアに付属されている説明書のインストール手順をご覧ください。**
- **操作の方法については、オンラインマニュアルをご覧ください。**

オンラインマニュアルを見るために

オンラインマニュアルをご覧になるには、お使いのパソコンにAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。
Adobe Acrobat Readerがインストールされていない場合は、下記の手順でインストールしてください。

① アクセサリーキット同梱のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる。
② CD-ROMのAcrobatフォルダを開く。
③ Acrobatフォルダ内の" ar405jpn.exe "を実行すると、セットアップが起動します。
あとは、セットアップ画面に従ってAcrobat Readerをインストールしてください。

オンラインマニュアルを見る

1 「スタート」メニューをクリックする

2 「プログラム(P)」を選び、「デイジーコラージュ SHARP Edition」から「デイジーコラージュ SHARP Edition オンラインマニュアル」を選ぶ

- Adobe Acrobat Readerが起動し、オンラインマニュアルが表示されます。

オンラインマニュアルを印刷する

1 「オンラインマニュアルを見る」の操作を行い、オンラインマニュアルを表示する

2 「ファイル(F)」メニューから「印刷(P)...」を選ぶ

3 印刷するページなどを設定して、「OK」ボタンをクリックする

ユーザーサポートについて

デイジーコラージュ SHARP Editionに関するお問い合わせは、下記サポートセンターで受け付けます。

手紙によるお問い合わせ

お名前、返送先住所を必ずご明記ください。
〒261-8501　千葉市美浜区中瀬1-3　幕張テクノガーデンビル東中央館５F
株式会社　市川ソフトラボラトリー　「デイジーコラージュ　ユーザーサポート係」

電話によるお問い合わせ

TEL　043(296)8080
「市川ソフト　ユーザーサポートセンター」
土、日、祝祭日を除く10時～12時　・　13時～16時

FAXによる問い合わせ

お名前、返送FAX番号を必ずご明記ください。
FAX　043(296)8079
「デイジーコラージュ　ユーザーサポート係」

E-Mailインターネットを利用したお問い合わせ

下記へE-Mailしてください。
お名前、確実に返送できるE-Mailアドレスを必ずご明記ください。
宛先メールアドレス
support@isl.co.jp

デイジーコラージュ SHARP Editionホームページのご案内

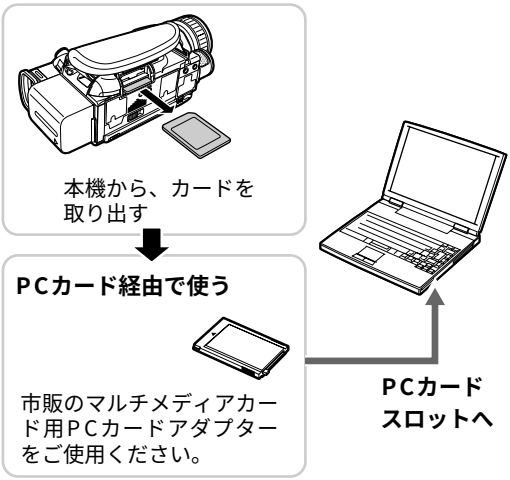
オンラインユーザー登録の方法やアップデートの情報などを掲載していきます。
URL. http://www.isl.co.jp/SHARP/

フォトネットサービスについてのお問い合わせは、下記サポートセンターで受け付けます。
TEL　03-5644-5500
「コダックお客様相談センター」
（9：30～17：30　月曜～金曜）

カードをパソコンで直接使う

市販のマルチメディアカード用PCカードアダプターを使って、カードに記録した画像をパソコンで直接コピーしたり編集することができます。

カードをパソコンで直接使うには

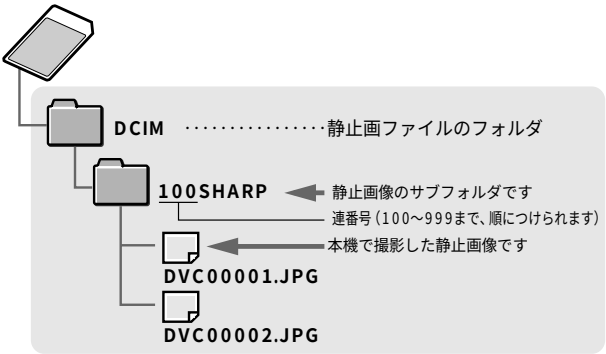


お知らせ

●タイトル／背景デザインは、カードを初期化（フォーマット）すると消えてしまいます。
パソコンをお持ちの方は、マルチメディアカード用PCカードアダプ ターを使い、タイトル／背景デザインをパソコンに保存しておくことをお勧めします。
タイトル／背景デザインをパソコンに保存する方法について詳しくは、次ページをご覧ください。

フォルダ構成とファイル名について

本機で記録した静止画は、下のイラストで示すように、カードに記録されています。



カード内のデータをパソコンに保存する

- アクセサリーキット付属のカードに記録されているデザインデータ(タイトルや背景など)の内容を、パソコンに保存しておけば、カードを初期化(フォーマット)したときやデザインデータを誤って消去してしまったときなどに、復元することができます。
- カードに撮影した静止画像をパソコンに取り込むことができます。
- 市販のマルチメディアカード用PCカードアダプター(以後アダプターといいます)が必要です。

カード→パソコンにデータを保存する

1 カードをアダプターに取り付ける

●取り付けかたについては、アダプターに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 アダプターを、お使いのパソコンに取り付ける

3 Windowsエクスプローラを起動し、カードが存在するドライブを探す

●以降このドライブを、「カードの存在するドライブ」といいます。

アダプターをお使いの場合は、新しいドライブ名が追加されています。図の例では、(D:)が追加されたドライブです。
この追加されたドライブ名が、カードの存在するドライブになります。

4 デザインデータのバックアップを取りたいとき

カードの存在するドライブを開き、「DCIM」フォルダ以外のファイルとフォルダを、ハードディスクなどにコピーする

静止画ファイルをパソコンに取り込むとき

「DCIM」フォルダを開き、xxxSHARPフォルダ内の静止画ファイルをハードディスクなどにコピーする。

お知らせ

●パソコンに保存したファイルとフォルダは、誤って消さないよう注意してください。

パソコンに保存したデータをカードに戻す

- パソコンに保存しておいたデザインデータ(タイトルや背景など)を、カードに戻すことができます。
- デザインデータをパソコンからカードに戻すには、市販のマルチメディアカード用PCカードアダプターが必要です。

パソコン→カードにデータを戻す

カードは、本機で初期化(フォーマット)されたもので、8MB以上の空き容量があるものを用意してください。

1 カードをアダプターに取り付ける

●取り付けかたについては、アダプターに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 アダプターを、お使いのパソコンに取り付ける

3 Windowsエクスプローラを起動し、カードが存在するドライブを探す

アダプターをお使いの場合は、新しいドライブ名が追加されています。
この追加されたドライブ名が、カードの存在するドライブになります。

●以後このドライブを、「カードの存在するドライブ」といいます。

4 パソコンに保存したファイルやフォルダを、カードの存在するドライブにコピーする

- (例)カードの存在するドライブがドライブDで、ドライブCの「backup」というフォルダからカードに戻す場合

- コピーが終了すると、デザインデータがカードに復元されます。

●ドラッグ＆ドロップでコピーすることができます。

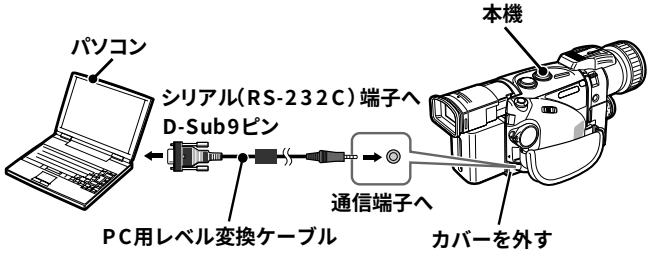
パソコン接続キット／USB動画キットがあれば

パソコン接続キット「ピクスラボ」（VR-PK120）（別売）

パソコンのシリアルインターフェース(RS-232C)を使って、カメラの画像やテープの再生画像を静止画にしてパソコンに取り込むためのキットです。
タイトルデザインと背景デザインがそれぞれ72個登録されています。このデザインを本機で利用することができます。（カレンダーは利用できません。）

■本機とパソコンの接続方法

本機の通信端子を使って、ピクスラボ(VR-PK120)に同梱されている「PC用レベル変換ケーブル」でパソコンに接続します。接続についてくわしくは、VR-PK120の取扱説明書をご覧ください。

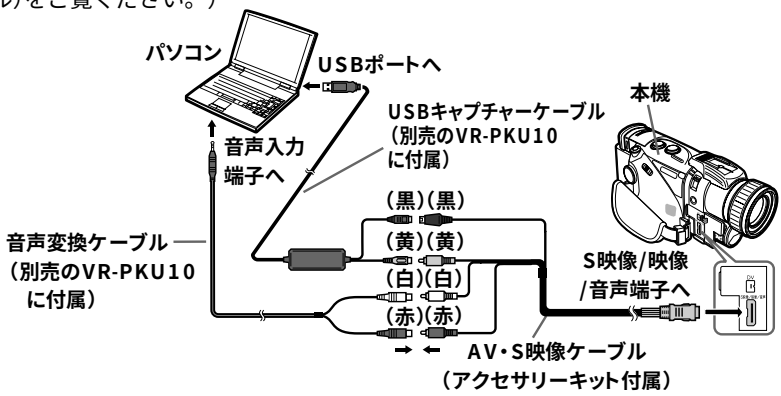


USB動画キット「ピクスラボ」（VR-PKU10）（別売）

パソコンのUSBインターフェースを使って、音声付き動画像をパソコンに取り込むためのキットです。

■本機とパソコンの接続方法

本機にアクセサリーキット付属のAV・S映像ケーブルのS映像プラグまたは映像プラグ（黄）と、VR-PKU10に同梱されているUSBキャプチャーケーブルでパソコンに接続します。（接続についてくわしくは、VR- PKU10のインストールガイドや取扱説明書（オンラインマニュアル）をご覧ください。）



お知らせ

●本機に適合する「ピクスラボ」が、新しく追加発売されることがあります。最新の「ピクスラボ」についてはカタログでご確認いただくか、販売店などにご相談ください。

バッテリーパックについて

バッテリーパックを安全にお使いいただくために、アクセサリーキット（VR-KTX1）取扱説明書の「安全にお使いいただくために」をよくお読みください。

アクセサリーキットに同梱のバッテリーパックはインテリジェントバッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータを通信する機能を持った新しいタイプのリチウムイオン電池です。

必ず
充電してからお使いください

- 充電は、**必ず充電ランプが消える**（満充電）まで行ってください。充電途中の状態でご使用の場合、使用時間が短くなります。
- リフレッシュ（充電の前に放電する）は必要ありません。

充電は使用直前か前日くらいに

- バッテリーパックは、充電して保存しても自然に放電しますので、使用する直前か前日くらいに充電してください。

充電するときは、周囲の温度が
10℃～30℃（人間が快適と感じる温度）
の範囲で充電してください

- 温度が低くなるほど充電しにくくなり、バッテリーパックを消耗させます。
  また、高温では十分な充電ができません。
- 充電中や使用中、バッテリーパックが温かくなることがありますが、異常ではありません。

保存するときは
使いきった状態で

バッテリーパックは使用しなくても消耗します。消耗をできるだけ防ぐためつぎの手順で保存してください。

① ご使用後はバッテリーパックを、必ず本体から取り外してください。
取り付けた状態では、本体の電源を「切」にしても、微少電流が流れて過放電となり、充電特性が極端に悪くなる恐れがあります。

② 保存するときは、つぎのように容量を使い切った状態で保存してください。
バッテリーパックの容量を使い切るには、テープを入れずに、撮影状態で電源が自動的に切れるまで使い切ってください。
使い切ったバッテリーパックを本体から取り外し、涼しい場所で保存してください。
（満充電、高温条件での保存は消耗を促進します。）

③ 半年に最低一度は必ずご使用ください。
消耗の防止になります。

端子はいつもきれいに

- バッテリーパックの電極が汚れているときは、柔らかい布などで掃除してください。

使用可能な時間について

VR-BLF41
連続撮影時間：約260分（約220分）
実使用時間：約135分（約115分）

充電を完了したバッテリーパックを常温25℃、液晶モニターを閉じて使用した場合です。

- （ ）内は、液晶モニターで撮影時の時間です。
- 「連続撮影時間」は、十分に充電されたバッテリーパックを使って、室内で固定して連続撮影した場合の時間です。
  短いシーンの撮影の繰り返しでは、テープに実際に記録される時間は、連続使用時の約半分以下になることがあります。
- 「実使用時間」は、録画、停止、電源入／切、ズームなどを※JEITA規格に基づき繰り返し操作したときの実撮影（記録）時間の目安です。
  ※JEITAとは、（社）電子情報技術産業協会の略称です。
- バッテリーパックは、予定撮影時間の2～3倍分用意していただくと安心です。

充電したのにバッテリーパックの
使用時間が短いときは

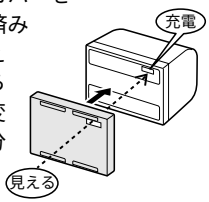
- バッテリーパックには寿命があります。
  正常に充電したバッテリーパックで使用時間が短くなってきたときは、バッテリーパックの寿命が来ていますので、新しいバッテリーパックをお買い求めください。
- バッテリーパックは使用していなくても時間の経過で消耗します。
  1年程度経過したバッテリーパックは保存状態により異なりますが、使用時間が短くなります。

低温下で使用するときはバッテリーパックを冷やさないように

- 低温下では、使用時間の合計が非常に短くなることがあります。
  電池は、内部で電気エネルギーを発生させるための化学反応を起こしますが、周囲の温度が低いほど化学反応が起こりにくく使用時間が短くなります。
- 特に消耗したバッテリーパックの場合、冬季の低温下(10℃以下)で冷えているときなどは、使用時間が極端に短くなる特性があります。このようなときは、バッテリーパックを冷やさないよう、内ポケットなどに入れて暖めておき、使用する直前に本体に入れることをおすすめします。
  約10℃～30℃(人間が快適と感じる温度)の範囲内に暖めておくことをおすすめします。冷えた状態に比べ長い時間お使いいただけます。
- カイロなどをお使いの場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。

上手な使いかた

- 断続撮影、電動ズーム、巻戻し、早送り、再生などの操作をすると、バッテリーパックの容量が消耗しますので、その分短くなります。
  使用しないときはこまめに電源を切ると、バッテリーパックは長持ちします。
- バッテリーパックには、充電確認マーク(「充電」の文字)が付いています。
  バッテリーパック保護カバーを取り付けるとき、充電済みなら「充電」の文字が見えるように、使い切ったら見えないように方向を変えて取り付けると、見分けがつき便利です。



バッテリーパックのリサイクルご協力のお願い

バッテリーパックはリチウムイオン電池を使用しています。
この電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。
バッテリーパックの交換、廃棄に際しては、リサイクルにご協力ください。

リチウムイオン電池のリサイクルマークです。
Li-ion

- ご使用済みのバッテリーパックは、「当店は充電式電池のリサイクルに協力しています。」のステッカーを貼ったシャープ商品取扱いのお店へご持参ください。
- リサイクルのときは、次のことにご注意ください。
  - 端子にテープを貼る
  - 外装カバー(被覆・チューブなど)を剥がさない
  - 分解しない

つゆ付き(結露)について

つゆ付きとは

よく冷えたジュースをコップに注ぐと、コップのまわりに水滴が付きます。
この状態を「つゆ付き(露付または結露)」といいます。ビデオの心臓部であるヘッドやドラムのまわりに「つゆ付き」がおきると、テープが貼りついてテープやヘッドを傷めてしまいます。

つゆ付きはこのようなときにおこります

- 湿気の多いところで使用したとき。
- 暖房した直後の部屋やエアコンなどの冷風が直接当たるとき。
- 本機を寒いところから急に暖かいところへ移動したとき。
- 冷房のきいたところから急に温度・湿度の高いところへ移動したとき。

つゆ付きは、本機内部のヘッドドラムまわりだけでなく、テープやレンズにもおこります

- テープにつゆ付きが発生したときは、録画スタート／ストップボタンを押してもテープが走行しないことがあります。この場合、ビデオテープを取り出し、2時間程度放置してからお使いください。
- レンズにつゆ付きが生じてくもったときは、しばらく放置して、くもりが消えてからお使いください。

知っておいていただきたいこと

- 通常、「つゆ付き」は徐々に進行します。「つゆ付き」が始まってから10～15分間は現象が現われないことがあります。
- 寒冷地域では、「つゆ」が凍結し「霜」になっていることがあります。このような場合、霜が溶けてつゆになるまでには、さらに時間がかかります。

つゆ付きがおきると

液晶モニターに「つゆが付きました」の文字が表示され、約10秒後に、ビデオカメラ保護のために自動的に電源が切れます。

お知らせ

●「つゆが付きました」の表示が出ているときは、ビデオテープを入れないでください。

ビデオテープが入っているときは

テープを直ちに取り出し、カセット入れを開けたまま数時間放置してください。

再び使うときは

数時間たってから再度、電源を入れてください。警告表示「つゆが付きました」が出なければ、ご使用になれます。

つゆ付きによるトラブルを防ぐには

- 急に暖かいところへ移動したときなどは、本機およびビデオテープをその場所に(場合によって異なりますが約1時間程度)なじませてからお使いください。

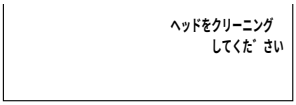
急に寒いところから(スキー場などで)暖かい部屋に持ち込む場合は、ビニール袋などに本機を入れておき、袋の中の空気が部屋の温度になじんでから本機を取り出します。

ヘッドの汚れについて

撮影や再生を行っているうちに下の画面のような症状が出ることがあります。
大切な記録の前や、ヘッドの汚れの症状が出たときは、ヘッドをクリーニングしましょう。

ヘッドが汚れると、次のような症状が出ます。

- 正常に撮影できない。
- 連続撮影中つなぎ撮り部分で液晶モニターに「ヘッドをクリーニングしてください」が表示される。



- ノイズの多い再生画面になる。
- 再生中にモザイク状のノイズが出る。

このようなときは、撮影／再生の操作をいったん中断して本機の電源を切り、30分程度の時間を置いてからヘッドをクリーニングしてください。

クリーニングテープは、別売の「VR-DVMCL」をご使用ください。

ヘッドのクリーニングのしかた

1 ①電源スイッチを「ビデオ」にする
②メディア切換スイッチを「テープ」にする

2 クリーニングテープを入れる
（クリーニングテープを入れると、撮影モードにしている場合でもクリーニングテープであることを検出して、自動的にテープ再生（ビデオ）モードになります。）

3 再生 をタッチする
自動的に20秒間テープを走行します。
（このとき、液晶モニターに「クリーニング中」の表示が出ます。）
20秒経過すると、自動的にテープ走行を停止し、「テープをとり出してください」の表示が出ます。
（走行中は、停止 ボタンでも停止できます。）

4 クリーニングテープを取り出す

クリーニング時のご注意

- クリーニングテープの取扱説明書をよくお読みください。
- クリーニングを続けて繰り返すには一度テープを取り出さないと作動しません。
  クリーニングテープを繰り返し再生すると、ヘッドの摩耗の原因となりますのでご注意ください。
- クリーニングテープを使っても直らないときは、**ヘッドが摩耗**していることがあります。このときは、ヘッドドラムの交換が必要です。
  お買いあげの販売店または、シャープのお客様ご相談窓口にご相談ください。
- クリーニングしても、再びヘッド汚れが生じる場合は、そのテープのご使用を避けてください。

お知らせ

- **クリーニングテープでは、早送りや巻戻しすることはできません。**
  巻戻しは、テープの終わりになれば自動的に巻き戻されます。

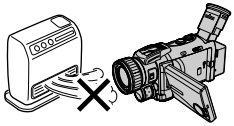
使用上のご注意

正しく安全にお使いいただくために次のことは必ずお守りください。

保管場所のご注意

直射日光が当たる場所や熱器具の近くに置かない

キャビネットや部品に悪い影響を与えますのでご注意ください。

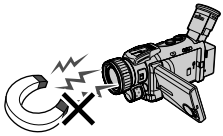


極端に高温になる場所に置かない

夏期の窓を閉めきった自動車の中など異常に温度が高くなる場所に放置すると、キャビネットが変形したり、故障の原因になることがあります。
本機およびビデオテープの周囲が高温状態にならないよう、十分ご注意ください。

磁気にご注意

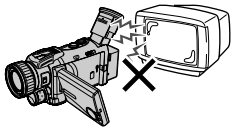
本機に磁石・電気時計・磁石を使用したおもちゃなど、磁気をもっているものを近づけないでください。磁気の影響を受けて、大切な記録が損なわれたりすることがあります。



使用場所のご注意

テレビの近く

画像や音声に悪い影響を与えることがあります。



高温や低温の場所では使用しない

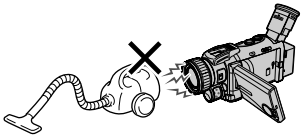
周囲の温度は0℃～40℃、湿度は30%～80%の範囲内でお使いください。

スキー場で使用する場合

スキー場など寒冷地でご使用のとき、本体が冷えきった状態では、電源を入れてしばらくの間は液晶モニターが多少暗くなる場合がありますが故障ではありません。このとき、しばらく時間を置くか毛布などであらかじめ本体を包んでおき、冷えきらないようにすることをおすすめします。

強い電波や磁気の発生するところ

強い電波や磁気の発生するところ(電波塔の近くやモーターのそばなど)で使用すると画像がゆがんだり、悪い影響を受けることがあります。



飛行機の中では使用しない

飛行機の中など、使用が制限または禁止されている場所では、使用しないでください。
事故の原因となる恐れがあります。

屋外で使用する場合

明るい場所での使用

液晶モニターが見づらいときは、バックライト調整を「あかるい」に切り換え(**164**ページ)、明るさの調整をしてください。

雨天での使用

雨天・降雪中でのご使用の場合は、本機をぬらさないようにご注意ください。

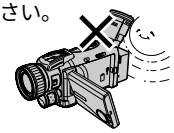
海辺での使用

砂浜や砂地など、砂ぼこりの多いところで使用する場合は砂などが内部に入らないようにしてください。砂が入ると故障の原因となります。

取り扱いにご注意

レンズや液晶モニター、ビューファインダーを太陽に向けない

本機を使用しているいないにかかわらず、レンズや液晶モニター、ビューファインダーを太陽に向けないでください。



三脚について

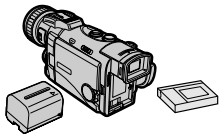
小型の携帯用三脚は取付けが難しいものもあり、不安定ですので絶対に使用しないでください。

持ち運ぶときは

- 三脚に固定したまま持ち運ぶときは、三脚側を持って移動してください。
- ハンドストラップを持ってビデオカメラを持ち運ぶときは、落下や接触などに注意してください。

ふだん使わないときは

- ビデオテープとマルチメディアカードを取り出し、電源スイッチを「切」にしてください。
- バッテリーパックを取り外してください。

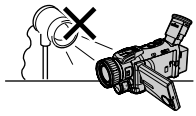


取り扱いはていねいに

落下させたり、強い衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。持ち運びや移動の際にもご注意ください。

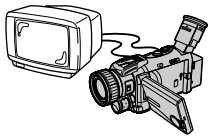
照明器具は離して

ビデオライトなどの照明器具を本機に近づけますと、照明器具の熱で変型や故障の原因になります。照明器具は離してお使いください。



他の機器との接続について

本機に接続して使用する機器の取扱説明書をよくご覧ください。また、取扱説明書はいつでも見られるところに必ず保存しておいてください。



長時間ご使用にならないときは

長時間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

お手入れについて

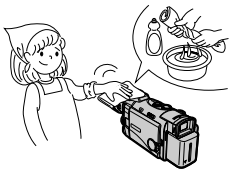
液晶モニターのお手入れ

液晶モニターについた汚れなどは、電源を切った上でアクセサリーキット付属のクリーニングクロスでふいてください。クリーニングクロス以外でふいた場合、液晶モニターに傷がつくことがあります。

また、汚れがなかなかとれない場合は、別売のクリーニングキットVR-CK1をご使用ください。

キャビネットのお手入れ

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。



- キャビネットの表面はプラスチックが多く使われています。ベンジン・シンナーなどでふいたり、日焼け止めクリームや、化粧品が付着すると、変質したり塗装がはげることがありますのでご注意ください。

つづく

使用上のご注意（つづき）

殺虫剤などにご注意

キャビネットに殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。変質したり、塗装がはげるなどの原因となります。

レンズやビューファインダーのお手入れ

レンズやビューファインダーの清掃は、カメラ用のブロワーやアクセサリーキット付属のクリーニングクロスで軽くふき取るように行ってください。傷つく恐れがあります。

液晶モニターの取り扱いについて

- 液晶モニターを強く押したり、強い衝撃を与えたり、固いもので押したりしないでください。割れたり、表示ムラが発生したり、キズがつく場合があります。
- 液晶モニターを下にして机の上などに置かないでください。
- 汚れなどは、アクセサリーキット付属のクリーニングクロスで軽くふきとるようにしてください。このとき本体の電源は「切」にしてください。
- 液晶モニターの表面および液晶モニターの周辺を押したとき、表示ムラの発生する場合があります。
- 表示ムラが発生した場合は、電源を「切」にし約30秒ほど放置すると自然に消えます。

液晶モニターについて

液晶モニターは非常に精密度の高い技術でつくられており、99.99%以上の有効画素がありますが0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

蛍光管について

液晶モニターのバックライトに使用されている蛍光管には寿命があります。（寿命の目安は、常温で連続使用約8,000時間です。）モニターが暗くなったり、点灯しないときは、販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

ご使用になれるビデオカセット

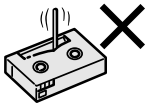
- 本機はDV方式のデジタルビデオカメラです。
- 本機には、Mini DV マークのついた「ミニDVカセット」を使用してください。LPモードを使い撮影するときは、LP 表示のある「ミニDVカセット」をお使いください。
- 8 、Hi8 方式や、VHS 、VHSC 、SVHS、SVHSC、β、ED Beta、DV、{} 方式のビデオカセットは使えません。
- 本機はカセットメモリー付ミニDVカセットテープの記録再生はできますが、カセットメモリー機能は使えません。

お知らせ

- **本機はMEテープで最高画質が得られるようになっています。MEテープのご使用をおすすめします。**

ミニDVカセット使用上のご注意

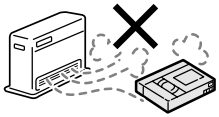
- 録画済みのミニDVカセットに新しく録画すると、前の映像と音声は自動的に消えます。
- ミニDVカセットは裏返しでは使えません。
- テープを走行させないでミニDVカセットの出し入れを繰り返さないでください。テープがたるんでテープを傷める原因となります。
- ミニDVカセット裏面の穴に物を入れたりして、穴をふさがないようにしてください。



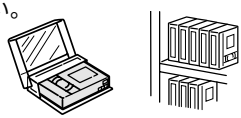
- ほこりの多いところおよび、カビの発生しやすいところは避けてください。

- 磁気をもっているもの（電気時計・磁石を使ったおもちゃなど）を近づけないでください。磁気の影響を受けて、大切な記録が損なわれたりすることがあります。

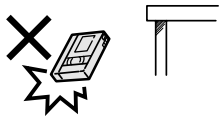
- 直射日光の当たるところや熱器具のそば、湿気の多いところは避けてください。
- 真夏の車内や、トランク、直射日光下など、高温になる場所に放置しないでください。



- カセットケースの中に入れ、立てて保管してください。



- 巻取りムラのある場合は、もう一度巻き直してください。



- 落としたり、強い振動やショックを与えないでください。

著作権保護信号について

本機は、マクロビジョンコーポレーション等が所有する合衆国特許および知的所有権によって保護された、著作権保護テクノロジーを搭載しています。この著作権保護テクノロジーの使用にはマクロビジョンコーポレーションの認可が必要であり、同社の認可がない限りは一般家庭および特定の視聴用に制限されています。解析（リバースエンジニアリング）または改造は禁止されています。

再生するとき

本機で再生されるビデオテープに著作権保護のための信号が記録されている場合には、本機で再生した信号の他機での記録が制限されます。

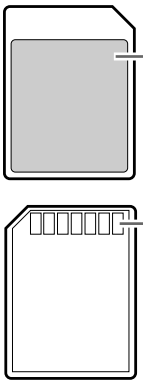
記録するとき

著作権保護のための信号が記録されているビデオテープは本機で録画することはできません。このようなビデオテープを録画しようとすると液晶モニターに「録画できません」の表示が現れます。

なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

使用上のご注意（つづき）

マルチメディアカード取り扱い上のご注意



ラベル

- ラベルは、はがさないでください。また、ラベルの上に紙、テープなどを貼らないでください。

端子部

- 機器との接続部分です。指や金属などで触れたり、汚したり傷つけたりしないよう、ご注意ください。

マルチメディアカードの取り扱いに注意

- マルチメディアカード（以降カードと表記します）の挿入方向を確認してください。無理な挿入は避けてください。
- カードは精密部品です。分解、改造等はしないでください。また、曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなど力が加わり、壊れることがあります。
- カードを火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。
- カードには寿命があります。長期間ご使用になると、新しく記録ができなくなります。

下記の環境下での使用、保管は避けてください。

- 電気的ノイズや強い磁気が発生しやすいところ。データを破損（消失）する恐れがあります。
- 直射日光のあたるところ。
- 高温・多湿のところ。
- ホコリの多いところや、砂ぼこりの立つところ。
- 腐食性のあるところ。
- 炎天下や密閉された空間等、気温の高くなるところ。

静電気に注意

- 端子部にゴミや異物を付着させたり、指で触れたり、こすらないでください。静電気によりデータを破損（消失）する恐れがあります。汚れは乾いた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。
- カードの持ち運びや保管は、端子部へのゴミ、ほこり、静電気による影響を避けるため、梱包されていたときのポリ袋をご利用ください。（このポリ袋は帯電防止処理がされています。）

つゆ付き（結露）に注意

- 短い時間で寒暖の差の大きい場所へ移動すると、カードの内部や外部に水滴が付くこと（結露）があります。結露は故障の原因になることがありますのでご注意ください。
- カードに結露が生じたときは、水滴が自然に消えるまで、カードを常温で放置してください。

データについて

- 大切なデータは、他のメディア（パソコンやフロッピーディスク、MOディスク等）にコピーしておくなどして、別に控えを残しておくことをおすすめします。
  カードの故障、修理などにより記憶内容が消えることがあります。
- データの記録中、消去中、フォーマット（初期化）中は、絶対にカードを取り出したり、本機の電源を切らないでください。データを消失させたり、カードが破壊する場合があります。
- カードを初期化すると、データが消去されます。初期化するときは、カード内に大切なデータがないことを確認してから行ってください。
- お客様または第三者がカードの取り扱いを誤ったり、静電気や電機的ノイズを受けたり、故障によりデータを消失した場合、損害について当社は一切責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

故障かな？と思ったら

この項にしたがって再度点検されても症状が変わらないときは、販売店にお問い合わせください。

こんなときは		ここをおたしかめください	どうするの？	ページ
電源	本機の電源が入らない	バッテリーパックは正しく取り付けていますか。	電源が入らないときは、一度電源スイッチを「切」にしてバッテリーパックを外し約2分たってから、再びバッテリーパックを取り付け、電源を入れ直してください。	34
		電源は正しく接続されていますか。		33,34
		バッテリーパックは充電されていますか。		32
		本機内部がつゆ付きになっていませんか。		186
撮影中	録画スタート／ストップボタンを押しても録画スタートしない	ビデオテープの誤消去防止ツマミが開いていませんか。	ツマミの開いているビデオテープには、録画・録音ができません。新しいビデオテープを用意するか、ツマミを閉じて撮影してください。	40
	電源が途中で切れる	撮影待機状態が5分以上続いていませんか。	再度、電源スイッチを「カメラ」に動かしてください。	53
	液晶モニターが見づらい	映像調整は行っていますか。	撮影メニューの「液晶設定」で、各項目を、見やすくなるように調整してください。	164
	オートフォーカスが働かない	フォーカスが「手動」になっていませんか。	フォーカス切換スイッチを「自動」にしてください。	92
		被写体に近いのに、ズームアップしていませんか。	ズームを広角にしてください。	54
		コントラスト（明暗差）のないもの、横じままたは縦じまだけのものを撮っていませんか。	マニュアルフォーカスで撮影してください。	92
	明るく光るものを撮ると縦に帯状の線が出る	背景とのコントラストが強いものを撮ったときに出る現象で、故障ではありません。	———	—
	画面が白トビする	ナイトレーダーが「入」になっていませんか。	ナイトレーダーを「切」にしてください。	76

故障かな？と思ったら(つづき)

こんなときは		ここをおたしかめください	どうするの？	ページ
撮影中	ズームボタンを動かさないのに自動的に広角になる	被写体に近づきすぎていませんか。	被写体が近く(約1.5m以内)にあるときに望遠にすると、ピントが合いにくくなり、自動的にピントが合うところまでズームが広角になります。	54
		画面に被写体が写っていますか。	画面に被写体がないときは、被写体があるところまで自動的にズームが広角になります。被写体のあるところにカメラを向けるか、あらかじめズームを広角にしておいてください。	—
再生中	テレビ画面に表示できない	テレビの入力切換は「ビデオ」になっていますか。	AV端子付テレビの場合は、テレビの入力切換ボタンで「ビデオ」にします。	62
		AV・S映像ケーブルは正しく接続されていますか。	AV・S映像ケーブルを正しく接続しなおしてください。	62
		著作権保護のための信号が記録されているテープを再生していませんか。	著作権保護のための信号が記録されているテープは、再生するとテレビや他のAV機器に信号を出力することができません。	—
	巻戻し・早送りができない	テープが早送り・巻戻しを完了していませんか。	テープの先頭や最後を越えて巻き戻しや早送りをすることはできません。	—
		クリーニングテープを使用していませんか。	クリーニングテープでは、早送りや巻戻しすることはできません。巻戻しは、テープの終わりになれば自動的に巻き戻されます。	187
	音声が出ない	12 bit記録のテープで「音声2」を選択していませんか。	「音声1+2」または「音声1」を選択してください。	132 133

こんなときは		ここをおたしかめください	どうするの？	ページ
再生中	テープを再生するとモザイクのような画面になったり消えてしまう	ビデオヘッドが汚れている可能性があります。	ヘッドをクリーニングする必要があります。市販のミニDV用乾式クリーニングテープをお使いください。	187
		何回も繰り返し使ったテープを使用していませんか。	テープがいたんでいると、画像が正しく再生できません。	—
	テープが動かない	電源スイッチは「ビデオ」になっていますか。	電源スイッチを「ビデオ」にしてください。	58
		メディア切換スイッチは「テープ」になっていますか。	メディア切換スイッチを「テープ」にしてください。	58
		ビデオテープが入ってますか。	ビデオテープを入れてください。	40
撮影中・再生中	電源スイッチをビデオ／カメラにしても動作しない	バッテリーが消耗していませんか。	バッテリーパックを取り外して充電するか、充電済みのバッテリーパックと交換してください。	32,34
		ACアダプターのプラグがコンセントから外れていませんか。	ACアダプターのプラグをコンセントに差し込んでください。	33
	バッテリーが消耗しやすい	極端に温度の低いところで使用していませんか。	使用直前まで、バッテリーパックを内ポケットなどに入れて暖めておいてください。	185
		充電は十分に行いましたか。	充電してください。	32
	ビデオテープが取り出せない	電源となるものがないと、取り出せません。	バッテリーパックを正しく取り付けてください。	34
			ACアダプターのプラグをコンセントに差し込み、ACアダプターとDCケーブルを正しく接続してください。	33
		バッテリーパックは充電されていますか。	バッテリーパックを取り外して充電するか、充電済みのバッテリーパックと交換してください。	32,34

故障かな？と思ったら（つづき）

こんなときは		ここをおたしかめください	どうするの？	ページ
その他	他のビデオに録画できない	ＤＶケーブル／ＡＶ・Ｓ映像ケーブルは正しく接続されていますか。	ＤＶケーブル／ＡＶ・Ｓ映像ケーブルを正しく接続してください。	126
	本機を振ると、「カタカタ」と音がする	本機の機械的可動部分の構造上、音がすることがあります。	故障ではありません。	—
	時計がリセット（初期状態）される	ボタン電池の極性（⊕⊖の向き）は合っていますか。	ボタン電池を正しく入れ直してください。	37
		ボタン電池が消耗しています。	新しいボタン電池に交換してください。	
カード	画像が消去できない	画像データにプロテクトをかけていませんか。	プロテクトを解除してから消去してください。	153
	カードが初期化（フォーマット）できない	———	お買い上げの販売店にご相談ください。	—

- 本機はマイコンを使用した機器です。マイコンを使用した機器は電磁波を出しています。電磁波により他の機器に影響をおよぼしたり、本機が外部からの影響を受けて電源が入らないなど、正常に動作しないことがあります。
  本機が正常に動作しない時は、本機のメニューにあるメーカー設定を実行し、マイコンをリセットしてください。また、本機から電源ユニット（バッテリーパックやACアダプター、ボタン電池など）を一度取り外してから、改めてご使用ください。

美しい画面を見るための点検のおすすめ

本機は撮影した内容を磁気テープなどに記録したり、再生したりするため非常に高い精度を必要とする機械です。
お使いになる間にテープの駆動部分などが汚れたり、摩耗したりしてきます。
性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくためには、使用環境（温度、湿度、ホコリ）等に左右されますが、およそご使用1,000時間をめどに“清掃、注油、一部部品交換”されることをおすすめいたします。くわしくは、販売店にご相談ください。

保証とアフターサービスについて

保証書（別添）

- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取ってください。
  保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。
- **保証期間**
  お買い上げの日から1年間です。（ただし、電池等の消耗部品は除きます。）
  保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

補修用性能部品の保有期間

- 当社は、この液晶デジタルビデオカメラの補修用性能部品を製造打切後、8年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

- 修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口（**198**ページ）にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

持込修理

- 「故障かな？と思ったら」（**193**ページ）を調べてください。
  それでも異常があるときは、使用をやめて、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証期間中

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。

便利メモ

お客様へ･･･
お買い上げ日・販売店名を記入されると便利です。

お買い上げ日
年　月　日
販売店名
電話 （　　）　　－

愛情点検

長年ご使用の
液晶デジタルビデオカメラの点検を！
こんな症状はありませんか？

- ACアダプターやコードが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- ACアダプターのコードに深いキズや変形がある。
- その他の異常や故障がある。

故障や事故防止のため、ACアダプターをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は、販売店にご相談ください。

お客様ご相談窓口のご案内

シャープ製品の修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は
お買いあげの販売店へ

なお、転居されたり、贈答品などで保証書記載の販売店にご相談できない場合は、下記の窓口にご相談ください。

- 製品の故障や部品のご購入などのご相談は……修理ご相談窓口へ
  （注）＊印の窓口は『持ち込み修理及び部品購入』のご相談窓口です。
- 製品に対するご意見・ご要望などは……一般ご相談窓口へ

修理ご相談窓口

出張修理のご相談はCSセンターにご連絡ください。
受付時間：月曜日～土曜日　午前9時～午後5時40分　（日曜日、祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

シャープエンジニアリング株式会社

担当地域	拠点名	電話番号	所在地
北海道	**CSセンター**	**(011)641-4690**	
	＊札幌	(011)641-4685	札幌市西区二十四軒1条7-3-17
	北見	(0157)36-4649	北見市三輪435
	帯広	(0155)21-6925	帯広市西8条南3-17
	苫小牧	(0144)34-7740	苫小牧市本町2-6-10
	室蘭	(0143)45-4649	室蘭市中島町1-9
	釧路	(0154)25-4649	釧路市光陽町8-13
	旭川	(0166)25-4649	旭川市一条通4-左10
	函館	(0138)51-4649	函館市五稜郭町31-17
青森県	青森	(0177)38-0281	青森市妙見3-3-4
	弘前	(0172)27-4649	弘前市豊田3-5-1
	八戸	(0178)44-4649	八戸市小中野2-8-16
秋田県	秋田	(018)863-4649	秋田市川尻町大川反170-56
	横手	(0182)33-4649	横手市横手町六の口5
岩手県	岩手	(019)638-6087	紫波郡矢巾町流通センター南3-1-1
	釜石	(0193)23-4649	釜石市上中島町4-6-43
宮城県	**CSセンター**	**(022)288-9250**	
	＊宮城	(022)288-9142	仙台市若林区卸町東3-1-27
山形県	山形	(023)631-4649	山形市飯田2-7-43
	酒田	(0234)24-4649	酒田市大町19-5
福島県	福島	(024)945-4649	郡山市安積町荒井方八丁33-1
	会津若松	(0242)25-4649	会津若松市山見町41-2
	いわき	(0246)28-4649	いわき市自由ケ丘37-10
新潟県	**CSセンター**	**(025)285-1513**	
	＊新潟	(025)285-3663	新潟市上所中1-7-21
	＊長岡	(0258)23-1819	長岡市摂田屋町崩2600
栃木県	**CSセンター**	**(03)5692-7722**	
	＊栃木	(028)637-1179	宇都宮市不動前4-2-41
	＊小山	(0282)62-5466	下都賀郡藤岡町藤岡5201
群馬県	**CSセンター**	**(03)5692-7722**	
	＊群馬	(027)252-4706	前橋市問屋町1-3-7
茨城県	**CSセンター**	**(03)5692-7722**	
	＊茨城	(029)241-4930	水戸市千波町1963
	＊南茨城	(0298)57-9130	つくば市栗原2857-9
埼玉県	**CSセンター**	**(03)5692-7722**	
	＊埼玉中央	(048)666-7987	大宮市宮原町2-107-2
	＊埼玉東	(0489)78-7101	越谷市南荻島346-1
千葉県	**CSセンター**	**(03)5692-7722**	
	＊千葉	(043)299-8840	千葉市美浜区中瀬1-9-2
	＊西千葉	(0473)68-4766	松戸市稔台295-1

担当地域	拠点名	電話番号	所在地
千葉県	＊東千葉	(0479)79-1181	八日市場市高字東2779-4
	＊木更津	(0438)37-7912	木更津市請西2-5-22
東京都	**CSセンター**	**(03)5692-7722**	
	＊江東	(03)3626-4642	東京都墨田区石原2-12-3
	＊城南	(03)3776-2419	東京都大田区南馬込1-5-15
	＊城北	(03)3972-4195	東京都板橋区東新町1-33-11
	＊世田谷	(03)3707-3345	東京都世田谷区用賀3-8-18
	＊田端	(03)5692-7765	東京都北区東田端2-13-17
	＊三多摩	(042)586-6059	日野市日野台5-5-4
神奈川県	**CSセンター**	**(03)5692-7722**	
	＊横浜	(045)753-4647	横浜市磯子区中原1-2-23
	＊湘南	(0463)54-4738	平塚市田村1381
	＊相模原	(0427)59-4195	相模原市横山2-2-12
山梨県	**CSセンター**	**(03)5692-7722**	
	＊山梨	(055)228-5375	甲府市富竹2-1-17
静岡県	**CSセンター**	**(054)285-9360**	
	＊静岡	(054)285-9340	静岡市曲金6-8-44
	＊沼津	(0559)22-5249	沼津市宮前町11-4
	＊浜松	(053)463-4680	浜松市植松町1476-2
長野県	**CSセンター**	**(026)293-6612**	
	＊松本	(0263)27-4694	松本市芳野8-14
	＊長野	(026)293-6262	長野市篠ノ井塩崎東田沢6877-1
愛知県	**CSセンター**	**(052)332-5880**	
	＊名古屋	(052)332-2623	名古屋市中川区山王3-5-5
	＊岡崎	(0564)24-2343	岡崎市柿田町1-21
	＊豊橋	(0532)53-4647	豊橋市下地町橋口17-1
岐阜県	**CSセンター**	**(052)332-5880**	
	＊岐阜	(058)273-4969	岐阜市六条南3-12-9
三重県	**CSセンター**	**(052)332-5880**	
	＊三重	(059)232-6300	津市栗真町屋町蒲池328
富山県	**CSセンター**	**(076)269-1875**	
	＊富山	(076)451-2459	富山市金泉寺71-1
石川県	**CSセンター**	**(076)269-1875**	
	＊金沢	(076)249-2434	石川郡野々市町御経塚町1096-1
福井県	**CSセンター**	**(076)269-1875**	
	＊福井	(0776)54-2459	福井市北四ツ居町625
滋賀県	**CSセンター**	**(06)6795-2899**	
	＊滋賀	(077)545-4692	大津市栗林町11-35
	＊彦根	(0749)24-4643	彦根市東沼波町133
京都府	**CSセンター**	**(06)6795-2899**	
	＊京都	(075)672-2378	京都市南区上鳥羽菅田町48
	＊北近畿	(0773)23-9151	福知山市末広町6-13
大阪府	**CSセンター**	**(06)6795-2800**	
	＊大阪	(06)6643-5331	大阪市浪速区恵美須西1-2-9
	＊堺	(0722)45-4651	堺市老松町1-39
	＊大阪TC	(06)6794-5611	大阪市平野区加美南3-7-19
	＊南大阪	(0724)31-1950	貝塚市沢1215
	＊北大阪	(0726)34-4519	茨木市鮎川5-15-3
(兵庫県)	＊阪神	(06)6421-4877	尼崎市猪名寺3-2-10
兵庫県	**CSセンター**	**(06)6795-2899**	
	＊兵庫	(078)791-1541	神戸市須磨区弥栄台3-15-2
	＊神戸	(078)453-4651	神戸市東灘区魚崎北町1-6-18
	＊姫路	(0792)66-1819	姫路市青山5-7-7
	＊豊岡	(0796)23-7515	豊岡市九日市上町下畑77-1
奈良県	**CSセンター**	**(06)6795-2899**	

つづく

お客様ご相談窓口のご案内(つづき)

担当地域	拠点名	電話番号	所在地
奈良県	┌＊奈　良	(0743)53-6693	大和郡山市美濃庄町492
	└＊奈良南	(0745)65-1492	御所市茅原4-3
和歌山県	**CSセンター**	**(06)6795-2899**	
	┌＊和歌山	(073)445-4615	和歌山市西小二里2-4-91
	└＊南　紀	(0739)25-3121	田辺市稲成町441-1
鳥取県	鳥　取	(0857)27-8831	鳥取市青葉町2-204
岡山県	**CSセンター**	**(086)292-1707**	
	┌＊岡　山	(086)292-1709	都窪郡早島町矢尾828
島根県	**CSセンター**	**(0852)24-4811**	
	┌＊松　江	(0852)24-4810	松江市西津田3-1-10
広島県	**CSセンター**	**(082)874-8071**	
	┌＊広　島	(082)874-8149	広島市安佐南区西原2-13-4
	CSセンター	**(0824)28-7448**	
	┌＊東広島	(0824)28-7490	東広島市八本松東4-3-30
	CSセンター	**(0849)51-7644**	
	┌＊福　山	(0849)51-7654	福山市津之郷町津之郷上開地
山口県	**CSセンター**	**(083)972-0870**	
	┌＊山　口	(083)972-0891	吉敷郡小郡町若草町4-12
	└＊東山口	(0833)44-0923	下松市西豊井173-1
香川県	**CSセンター**	**(087)823-5513**	
	┌＊香　川	(087)823-4901	高松市朝日町6-2-8
徳島県	**CSセンター**	**(088)625-4684**	
	┌＊徳　島	(088)625-4654	徳島市中常三島町3-11-14
愛媛県	**CSセンター**	**(089)971-4729**	
	┌＊愛　媛	(089)971-4563	松山市高岡町178-1
高知県	**CSセンター**	**(088)882-4021**	
	┌＊高　知	(088)882-4635	高知市高須960-1
福岡県	**CSセンター**	**(092)586-1122**	
	┌＊福　岡	(092)572-4652	福岡市博多区井相田2-12-1
	├＊南福岡	(0942)45-8211	久留米市御井旗崎3-7-14
	└＊北九州	(093)592-4677	北九州市小倉北区大手町6-12
佐賀県	**CSセンター**	**(092)586-1122**	
	┌＊佐　賀	(0952)24-9450	佐賀市鍋島町八戸五本松籠2043-2
長崎県	**CSセンター**	**(095)844-1870**	
	┌＊長　崎	(0957)52-3511	大村市古賀島町613ー3
	佐世保	(0956)32-6666	佐世保市白岳町107-5
大分県	**CSセンター**	**(097)552-9416**	
	┌＊大　分	(097)552-2313	大分市松原町3-5-3
熊本県	**CSセンター**	**(096)366-7070**	
	┌＊熊　本	(096)364-4777	熊本市新屋敷3-15-17
	天　草	(0969)23-8711	本渡市港町19-3
宮崎県	**CSセンター**	**(0985)31-1823**	
	┌＊宮　崎	(0985)31-1832	宮崎市原町4-12
鹿児島県	**CSセンター**	**(099)253-0250**	
	┌＊鹿児島	(099)253-4600	鹿児島市鴨池新町12-1

沖縄シャープ電機株式会社

担当地域	拠点名	電話番号	所在地
沖縄県	那　覇	(098)861-0866	那覇市曙2-10-1
	先　島	(09807)3-3603	平良市下里214-4
鹿児島県	奄　美	(0997)53-4777	名瀬市塩浜町8-1

一般ご相談窓口

シャープ株式会社

東日本相談室	TEL（043）297-4649 FAX（043）299-8280	〒261-8520　千葉市美浜区中瀬1-9-2
西日本相談室	TEL（06）6621-4649 FAX（06）6792-5993	〒547-0003　大阪市平野区加美南4-3-41

受付時間：月曜日～土曜日 午前9時～午後6時 （日曜日、祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

シャープエンジニアリング株式会社

北海道支店消費者相談室	（011）642-4649	〒063-0801　札幌市西区二十四軒1条7-3-17
東北支店消費者相談室	（022）288-9147	〒984-0002　仙台市若林区卸町東3-1-27
首都圏支店消費者相談室	（03）3893-4649	〒114-0013　東京都北区東田端2-13-17
中部支店消費者相談室	（052）332-4649	〒454-8721　名古屋市中川区山王3-5-5
近畿支店消費者相談室	（06）6794-7041	〒547-8510　大阪市平野区加美南3-7-19
中国支店消費者相談室	（082）874-4649	〒731-0113　広島市安佐南区西原2-13-4
四国支店消費者相談室	（087）823-4901	〒760-0065　高松市朝日町6-2-8
九州支店消費者相談室	（092）572-4655	〒816-0081　福岡市博多区井相田2-12-1

受付時間：月曜日～金曜日 午前9時～午後5時40分（土・日曜日、祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

所在地・電話番号・受付時間などは変わることがありますので、その節はご容赦願います。（01.01）

海外でのお客様ご相談窓口

1. この商品は国内仕様ですが、旅行等で海外へ携帯され万一の故障等不具合が生じた場合、下記の弊社のサービス窓口に連絡頂きご相談ください。
   付属している保証書は、日本国内のみ有効です。アフターサービスの費用は有料となります。
2. ご相談窓口一覧（99.10）

会社名 住所 電話番号	会社名 住所 電話番号	会社名 住所 電話番号
アメリカ Sharp Electronics Corporation 1300 Naperville Drive Romeoville, Illinois 60446 U.S.A. TEL: 1-800-237-4277/800 BE-SHARP	**カナダ** Sharp Electronics of Canada Ltd. 335 Britannia Road East Mississauga, Ontario L4ZIW9 Canada TEL: (905) 890-2100/(877) SHARP-CC	**ドイツ** Sharp Electronics (Europe) GmbH Sonninstrasse 3 20097 Hamburg Germany TEL: (040) 23760
イギリス Sharp Electronics (U.K.) Ltd. Sharp House Thorp Road, Newton Heath Manchester, M40 5BE U.K. TEL: (0161) 205-2623	**オーストラリア** Sharp Corporation of Australia Pty. Ltd. 1 Huntingwood Drive, Huntingwood N.S.W. 2148 Australia TEL: 1-800-807 820	**香港** Sharp-Roxy (Hong Kong) Ltd. Service Centre Unit B&D, 7/F., Roxy Industrial Centre, 58-66 Tai Lin Pai Road, Kwai Chung, N.T. TEL: 2410-2688
シンガポール Sharp-Roxy Sales (Singapore) Pte. Ltd. 138 Robinson Road, #21-00, Hong Leong Centre, Singapore 068906 TEL: 0226-1191	**タイ** Sharp Thebnakorn Co., Ltd. 664, Siphraya, Road Bangrak, Bangkok 10500, Thailand TEL: (02) 236-0170/233-1150	**北京（中国）** SHARP 夏普株式会社 北京事務所 北京市朝陽区北三環東路8号 静安中心1072室 TEL: (010) 6468-9118
上海（中国） SHARP 夏普株式会社 中国総代表処 上海市 浦東新区 新金橋路28号 上海新金橋大厦15楼1501室 TEL: (021) 5834-2085	**広州（中国）** SHARP 夏普株式会社 広州事務所 広州市光烈中路69号東山広場1907号室 TEL: (020) 8732-2081	**上記以外の地域及び相談窓口にて連絡がとれない場合は下記にご連絡ください。** シャープ株式会社 商品信頼性本部 サービス企画推進部 TEL: +81-6-6792-1001 FAX: +81-6-6792-8600

- 携帯される地域によっては、ご相談に応じることが困難な場合がある点ご容赦ください。
- 所在地・電話番号などは変わることがありますので、その節はご容赦願います。

仕　様

形　　名	VL-MX1
品　　名	液晶デジタルビデオカメラ
電　　源	DC7.4V
消 費 電 力	ビューファインダー使用時：4.3W（テープ撮影モード：オートフォーカス合焦時、ブレ補正「入」時） 液晶モニター使用時：5.1W（テープ撮影モード：オートフォーカス合焦時、ブレ補正「入」時、バックライト切換「通常」時）
信 号 方 式	NTSC
録 画 方 法	回転式2ヘッドヘリカルスキャン方式
使用カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テ ー プ 速 度	(SP) 約18.812mm/秒 、(LP) 約12.555mm/秒
録 画 時 間	最大90分（DVM60、LPモード記録にて）
巻戻し・早送り時間	ACアダプター使用時約180秒（DVM60にて）
映 像 入 出 力	1.0Vp-p75Ω不平衡、S映像端子、Y信号1.0Vp-pクロマ信号286mVp-p（バースト信号）75Ω不平衡
音 声 入 出 力	－8dBs、出力インピーダンス2.2kΩ以下
S 映像／映像／音声端子	10ピン特殊コネクター
通 信 端 子	ø2.5ミニジャック
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（ø3.5）
D V 端 子	4ピンコネクター（i.LINK）
スピーカー音声出力	300mW
撮影カラー方式	CCD補色カラー方式
撮 像 素 子	5.0mm（1/3.6型）CCD固体撮像素子、総画素約133万画素（オプチカルブラック部含む） テープ撮影モード（動画）時：有効約69万画素 カード撮影モード（静止画）時：有効約125万画素
必要最低照度	13ルクス（F1.6／デジタルズーム「切」時）
モ ニ タ ー	カラーモニター（約20万画素 8.8cm［3.5型］液晶）
レ ン ズ	光学10倍ズームレンズ（F=1.6～2.0、テープ撮影モード時f=4.2～42mm・カード撮影モード時f=5.7～42mm）
フィルター経	46mm
ホワイトバランス調整	自動追尾方式（ロック機能、屋内、屋外、調整機能付き）
ア イ リ ス	マルチ重点測光方式（補正可）
フ ォ ー カ ス	フルレンジ映像処理方式／手動切換可
画像圧縮方式／記録フォーマット	静止画:JPEGベースライン準拠／JPEG（Exif2.1） ※Design rule for Camera File system（DCF）準拠
記 録 枚 数	画像サイズ ＼ 画質 / 容量 ／ 標　準 ／ エコノミー ／ ファイン 1280×960 ／ 8MB ／ 約24枚 ／ 約46枚 ／ 約11枚 640×480 ／ 8MB ／ 約100枚 ／ 約180枚 ／ 約60枚 ※ 画像サイズおよび画質モードが混在した場合や、撮影した画像により、撮影可能枚数は変わります。
記 録 媒 体	マルチメディアカード
許容動作温度／湿度	0℃～40℃／30%～80%
許 容 保 存 温 度	－20℃～＋60℃

外形寸法	66mm×200mm×89.5mm（幅／奥行／高さ）（突起部含まず）
本体質量	約675g
撮影時総質量	約885g（バッテリーパック：VR-BLF41、ビデオテープ：VR-DVM60、ボタン電池：CR2025、レンズフード、ハンドストラップ）
付属品	レンズフード、ボタン電池、取扱説明書、保証書、撮影ガイドブック

DCFは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

■ズームマイク（アクセサリーキットに同梱）

外形寸法	幅36mm× 奥行96mm×高さ46mm（ウインドスクリーン含む）
	幅25mm× 奥行91mm×高さ40mm（ウインドスクリーン含まず）
質量	約28.5g（ウインドスクリーン含む）
	約27g（ウインドスクリーン含まず）

■マルチメディアカード（アクセサリーキットに同梱）

メモリー容量	8MB（コンテンツデータ入り）
インターフェイス	マルチメディアカード準拠
駆動電圧	3V（ボルト）
動作温度	0℃～40℃
保管温度	－20℃～＋65℃
動作・保管湿度	95%RH以下（ただし結露なきこと）
外形寸法	幅24mm×厚み1.4mm×高さ32mm
質量	約2g

■ACアダプター（アクセサリーキットに同梱）

電源	AC100～240V、50/60Hz
定格出力	VTR動作時 ： DC7.3V、1.4A（充電時 ： DC8.6V、1.4A）
動作温度	0℃～＋40℃
保存温度	－20℃～＋60℃
外形寸法	幅80mm、奥行98mm、高さ45mm
質量	約196g

製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
また本機に適合する別売品が、新しく追加発売になることがありますので、ご購入の際には最新のカタログで適合性や在庫の有無をご確認ください。

警告とお知らせメッセージ

つぎのような警告表示が出たときには、説明にしたがって操作してください。

表示	意味
テープをとり出してください	ビデオテープ保護機能が働いています。一度ビデオテープを取り出し、再度入れ直してください。(**40**ページ)
つゆが付きました	つゆ付き状態です。つゆ付きがなくなるまで数時間お待ちください。(**186**ページ) このマークが表示されると約10秒後に電源が切れ、表示も消えます。
※1 **テープを入れてください**	ビデオテープがビデオカメラに入っていません。 (**40**ページ)
バッテリーを交換してください	バッテリー残量がわずかです。 充電したバッテリーパックと交換してください。 (**32**、**34**ページ)
※1 **ヘッドをクリーニングしてください**	ヘッドが汚れています。 ヘッドクリーニングをしてください。(**187**ページ)
※1 **このテープでは録画できません**	ビデオテープの誤消去防止ツマミが開いているので、録画できません。ツマミを閉じるか、テープを取り替えてください。(**40**ページ)
※1 **テープがのこり少なくなりました**	テープ残量がわずかです。 新しいビデオテープを準備してください。
※1 **テープを交換してください**	テープを使い切りました。 新しいビデオテープと交換してください。(**40**ページ)
ランプ	ランプ(蛍光管)の寿命です。 販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。
録画できません	著作権保護のための信号が記録されている画像を本機に入力し外部録画をしようとしたときは、左のようなお知らせメッセージが表示され録画することができません。
カードがありません	カードが入っていません。またはカードが正しく取り付けられていません。 カードの取り付けを確認してください。(**41**ページ)
カードのメモリーがいっぱいになりました	カードに空き容量がなく、記録することができません。 消去や初期化(フォーマット)をするか、空き容量がある別のカードと交換してください。
ファイルがありません	取り付けられているカードには、本機で再生できる静止画が記録されていません。
カードエラー	カード内のデータが壊れているか、本機で認識できないカードが取り付けられています。
カードをフォーマットしてください	カードの初期化(フォーマット)が必要です。 初期化のしかたについては**156**ページをご覧ください。

表示	意味
カードがかきこみ禁止になっています	カードが書き込み禁止状態になっています。
データにプロテクトがかかっています	プロテクト(保護)した画像を消去しようとしています。消去してもよい画像のときは、プロテクトを解除してから消去してください。(**153**ページ)
カードリードエラー	選んだ静止画データは、本機で再生できません。
カードにデータがかきこめません	カードかデータの不具合により、カードに記録することができません。 別のカードと交換するなどしてから、もう一度操作してください。
カードにがいとうデータがありません	インデックスサーチ時、カードとテープのIDが一致しないか、カードにインデックスが記録されていません。 テープのIDに一致したカードを取り付けてください。または、インデックスを記録してからインデックスサーチを行ってください。
信号が入力されていません	入力信号のない(AV・S映像ケーブルが接続されていない)状態で外部録画をしようとしたときに表示されます。
⚠	対面撮影の警告またはマニュアル撮影時の警告表示です。対面撮影時に表示されたときは、液晶モニターを通常撮影状態に戻して警告内容を確認し、マニュアル撮影時は、オートに戻して警告内容を確認してください。
クリーニング中	クリーニングテープを入れて再生すると、表示されます。(この表示は、警告ではありません。)

お知らせ

- ※1の警告表示については、テープ撮影モード／デュアル撮影モード時のみ表示が出ます。
- 「バッテリーを交換してください」の表示が出ているときにズーム操作を行うと、すぐ電源が切れてしまう場合があります。充電済みのバッテリーと交換してください

用語の解説

英数字

DPOF(158ページ)
印刷枚数の指定など“ プリントのための情報 ”を定めた規格のこと。

DV端子(126，128ページ)
デジタル信号を入・出力し、高画質のダビング編集ができる端子。

JPEG(180ページ)
静止画の圧縮方式の規格です。ジェイペグと読みます。

LPモード(57ページ)
1本のテープに1.5倍の長時間記録ができる機能。60分テープで90分まで記録することができます。

S映像端子(62ページ)
より高画質な映像で入・出力するために、輝度信号と色信号に分離された映像信号を接続する端子。

S2対応(63ページ)
16：9(ワイドモード)で記録したテープを再生したとき、S2端子付ワイドテレビと接続していると自動的にワイド画面サイズに拡大して映像が楽しめる機能。

ア行

アイリス(82ページ)
背景が明るすぎて被写体が黒くつぶれるときや、背景に比べて被写体が明るすぎるとき絞りを補正する機能。

アフレコ編集(130ページ)
録画済みのテープへ、ナレーションなどの効果音を入れ、楽しむことができます。

オートフォーカス
撮影する被写体にレンズを向けると、自動的に焦点を合わせる機能。

音声切換(133ページ)
アフレコした音声と撮影した音声を切り換えて楽しめる機能。

カ行

画像サイズ(137ページ)
画像の面積的な大きさのことです。縦と横のピクセル数(画点の数)で表します。

合成(112ページ)
あらかじめ設定した背景やタイトルなどを合成できる機能。

コントロールレバー(48ページ)
メニュー項目を選択・決定するときに使うレバーです。

ゲイン(84ページ)
スチルカメラのフィルム感度に相当。暗い場面を忠実に撮影したいときや逆光で撮影するときに使います。

サ行

再生ズーム(109ページ)
再生中に見たい部分を最大で約10倍までズーム(拡大)して見られる機能。

撮影スタンバイ(66ページ)
撮影内容を確認した後、撮影終了場面(次に撮影スタートしたい場面)の頭出しを行う機能。

サマータイム設定(166ページ)
サマータイム制(夏の一定期間日照時間に合わせて時刻を繰り上げる制度)をとっている地域に対し、手軽に時刻を設定できる機能。

シネマ(103ページ)
画面の上下に黒帯をつけ、16:9画面にして撮影する機能です。

初期化(フォーマット)(156ページ)
カードの内容をすべて消去し、本機で使えるようにすること。

スナップ撮影(72ページ)
6秒間の静止画面を撮影すること。
(スチルカメラのシャッターを押す感覚で撮影が楽しめます。)

ズーミング(54ページ)
ズームボタンを使って広い範囲を撮影したり、一部をクローズアップにして撮影すること。

ズームアウト(54ページ)
ズームボタンを使い被写体を徐々に遠ざけながら撮影すること。

ズームイン(54ページ)
ズームボタンを使い被写体をだんだん近づけて撮影すること。

世界時計(166ページ)
海外旅行時等、現地の時間に簡単に合わせられる機能。

接写
小さな被写体に近づいて画面一杯に撮影すること。
(小さな植物や昆虫などを、画面一杯に撮影するときなどに使います。)

タ行

タイトル(112ページ)
カードに内蔵されている「タイトル」デザインのこと。

タイムコード(98ページ)
テープ上の位置を映像とともに時、分、秒、フレーム(1フレーム約1/30秒)単位で記録する機能。

対面撮影(36ページ)
液晶モニターと向き合った状態で画面を見ながら撮影すること。

チルティング(168ページ)
ビデオカメラを上下に(見上げたり見下ろしたりするように)動かしながら撮影すること。
(高さを効果的に表現したいときに使います。)

テープID(118ページ)
本機で撮影したテープに自動的に記録される、整理番号。(テープIDは001～999があり、自動的に割り当てられます。)

デジタルズーム(55ページ)
画像をデジタル処理して、最大200倍まで拡大する機能。
(デジタルズームのときは画質が落ちます。最大ズームアップの時、水平解像度が光学ズーム最大時の約95%劣化します。)

ナ行

ナイトレーダー(76ページ)
照度0ルクスでもモノクロ撮影が可能な機能。

ハ行

背景(112ページ)
カードに内蔵されている「背景」デザインのこと。

パンニング(168ページ)
ビデオカメラを左右に旋回するように動かしながら撮影すること。(風景や広い会場を撮るときなど、広さを表現したいときに使います。)

フェードアウト(102ページ)
撮影終了時に映像と音声を徐々に弱めて消していくこと。

フェードイン(102ページ)
撮影開始時に映像と音声を徐々に強めて撮っていくこと。

フレームサイズ
撮影時の被写体の大きさ。
クローズアップ、アップショット、バストショット、ウエストショット、フルショットなど。

フレーム表示(99ページ)
映像の1コマ1コマに対応しているタイムコード(1フレーム=1コマ)。
DV方式ではフレーム単位でカウントできるので、テープ位置の正確なカウンターとして使えます。本機のフレーム表示は、静止画再生やコマ送り再生のとき表示されます。

ブレ補正(100ページ)
アップでの撮影時などに起こる手ブレを補正する機能。

ホワイトバランスロック(78ページ)
ほとんどの場合は、自動で被写体を自然な色で撮影できるように調整できますが、夕焼けなどの赤い光源で撮影するときなど自動で調整しにくい場合には、ホワイトバランスをロックします。

マ行

マルチストロボ(106ページ)
複数の画像を1つの画面上に表示する機能。

マルチメディアカード(192ページ)
静止画データやタイトル/背景デザインを記録するためのメモリーカードのこと。

ラ行

録画モード(57ページ)
LP/SPモードがあり、Long playing mode と Standard playing mode の略でテープスピードモードのこと。
LPは、SPの1.5倍まで録画できます。

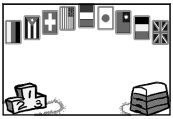
ワ行

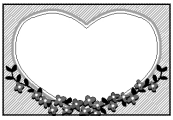
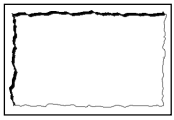
ワイドモード(103ページ)
画面の上下両端をカットし、画面の横縦比を約16:9にすることによりワイド感のある画面がつくれる機能。

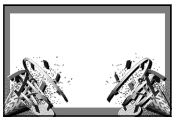
付録

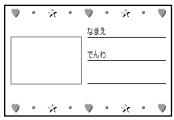
カード内のタイトルや背景の種類

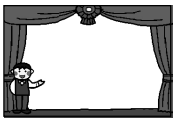
■背景







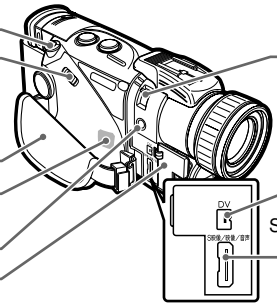


■タイトル

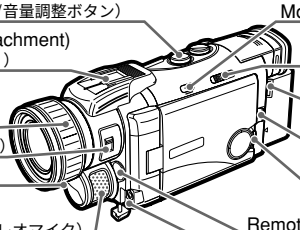
Quick Start Guide

For preparation, recording and playback

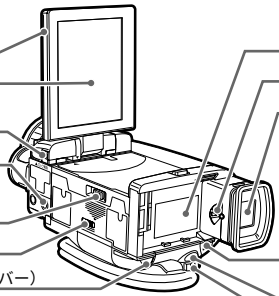
VIEWCAM



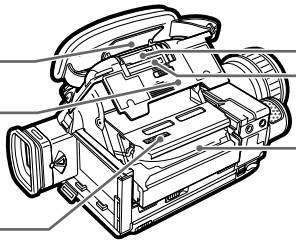
Still button（スチルボタン）
Media switch（メディア切換スイッチ）
Night radar on/off switch（ナイトレーダー入/切スイッチ）
Hand strap（ハンドストラップ）
Speaker（スピーカー）
Nightlight/white balance button（ナイトライト/ホワイトバランスボタン）
Terminal cover（端子部ふた）
DV terminal (i.LINK)（DV端子(i.LINK)）
S-VIDEO/VIDEO/AUDIO terminal（S映像/映像/音声端子）



Zoom/volume control button（ズーム/音量調整ボタン）
System shoe (zoom microphone attachment)（システムシュー（ズームマイク取付部））
Focus ring（フォーカスリング）
Focus switch（フォーカス切換スイッチ）
Nightlight（ナイトライト発光部）
Built-in stereo microphone（内蔵ステレオマイク）
Monitor on/off switch（表示入/切ボタン）
Manual switch（マニュアル切換スイッチ）
Shoulder strap loop（ショルダーベルト取付部）
Monitor release（液晶モニターロック解除レバー）
Control lever（コントロールレバー）
Remote sensor（ワイヤレスリモコン受信部）
Headphone jack（ヘッドホン端子）



Monitor remote control power switch（液晶モニターリモコン電源スイッチ）
Monitor（液晶モニター）
Monitor lock release（液晶モニターロック解除レバー）
Tripod socket（三脚用ネジ穴）
Cassette compartment door release（カセットふた開レバー）
Card cover release（カードふた開レバー）
Communication Terminal cover（通信端子カバー）
Battery/DC cable mount（バッテリー/DCケーブル取付部）
Diopter knob（視度調節ツマミ）
Viewfinder（ビューファインダー）
Battery release（バッテリー取外しレバー）
Record start/stop button（録画スタート/ストップボタン）
Power switch（電源スイッチ）

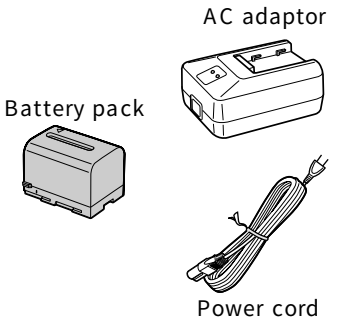


Card cover（カードふた）
Cassette compartment door（カセットふた）
Cassette compartment PUSH/押す mark（カセット入れ PUSH/押す マーク）
Button battery compartment（ボタン電池収納部）
Card slot（カード挿入口）
Cassette holder（カセット挿入口）

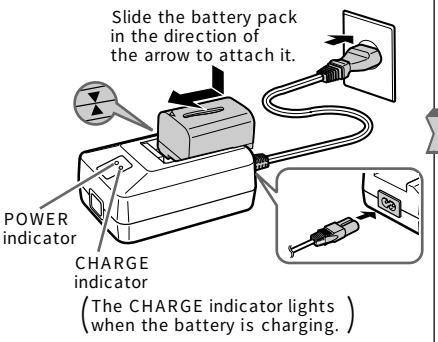
Charging the Battery Pack

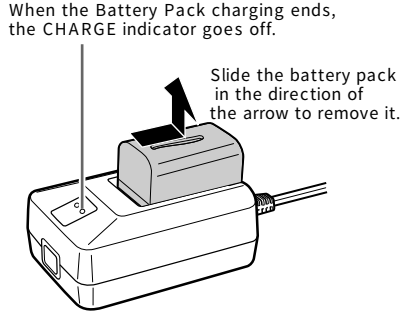
1 Preparation

Prepare the parts for charging.



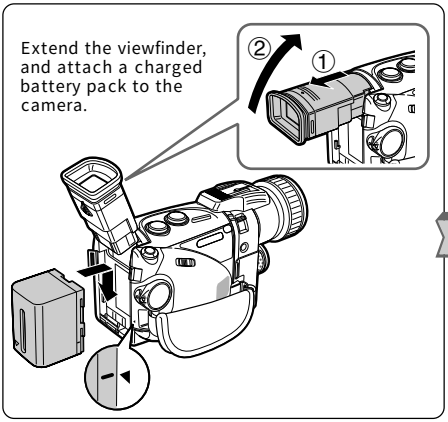
2 Charging

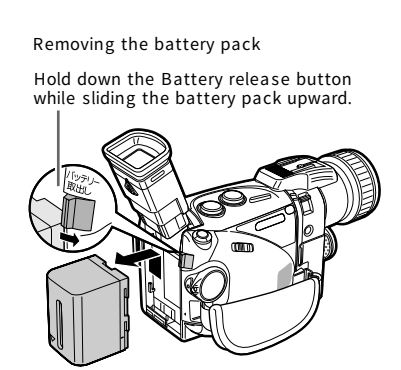




Charing time (VR-BLF41) : Approx.165min.

3 Attaching the Battery Pack to the camera



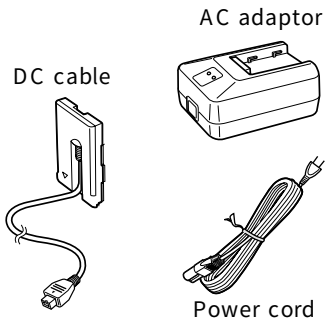


Quick Start Guide

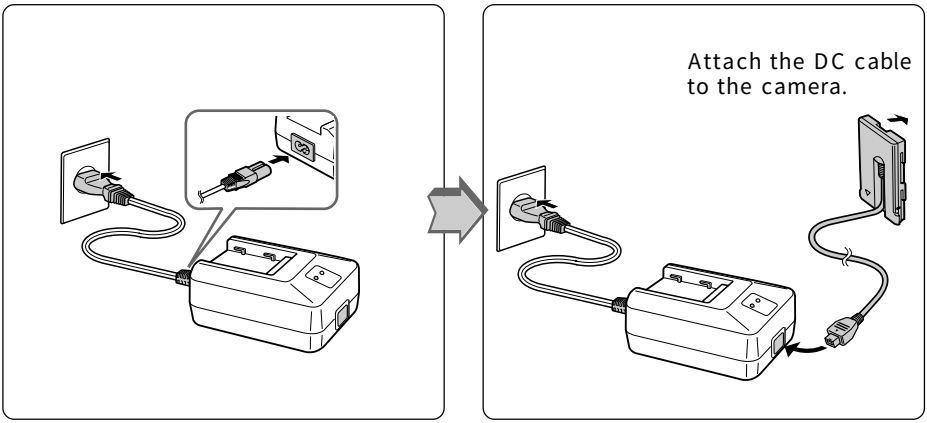
Plug the AC adaptor into a household power outlet.

1 *Preparation*

Prepare the parts for charging.

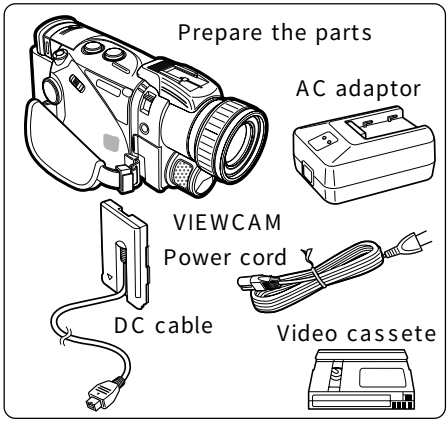


2 *Insert the power card of the AC adaptor into the wall outlet.*

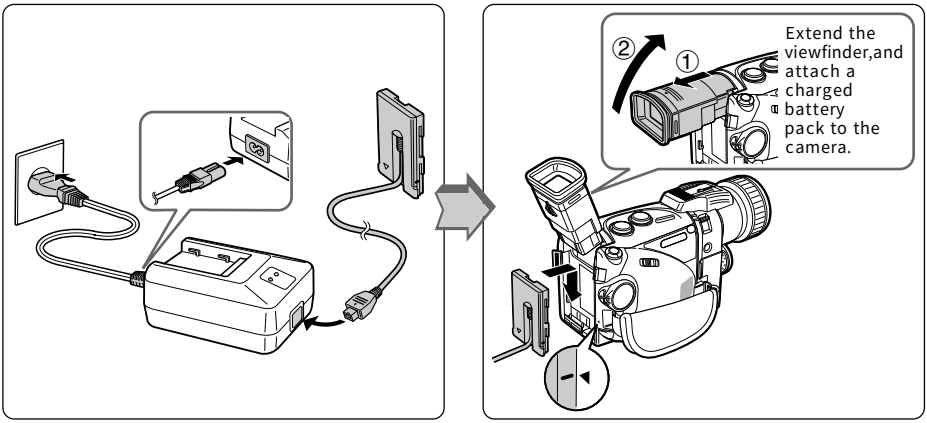


Recording and Playback

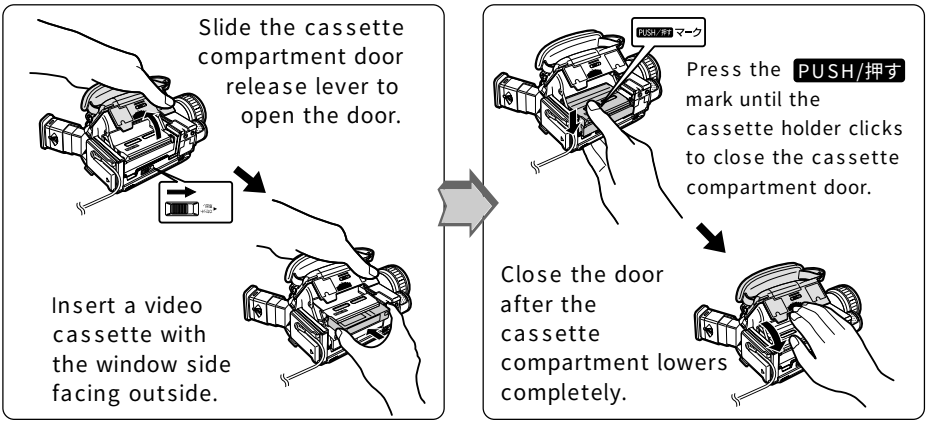
1 Preparation



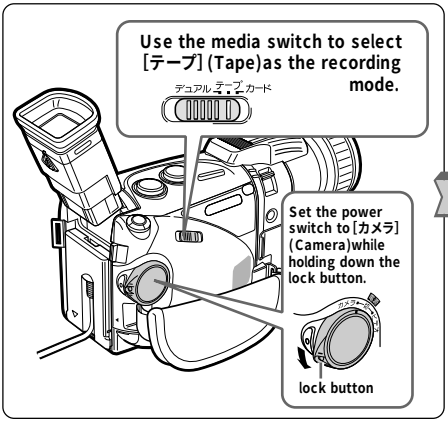
2 Insert the power plug of the AC adaptor into the wall outlet.

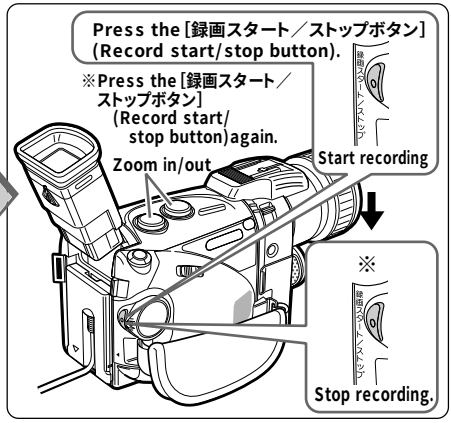


3 Load a Video cassete into the camera.

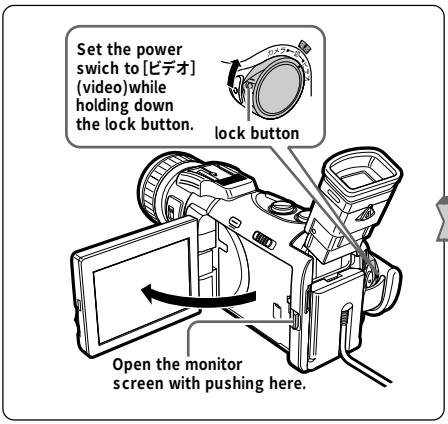


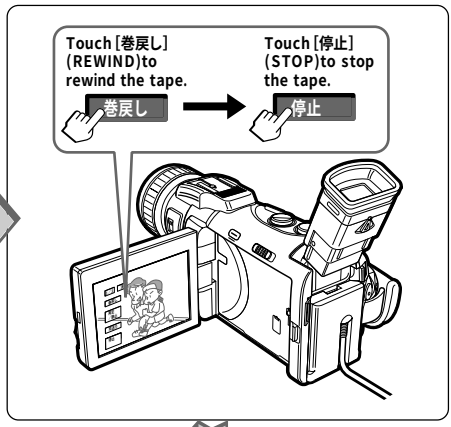
4 Recording

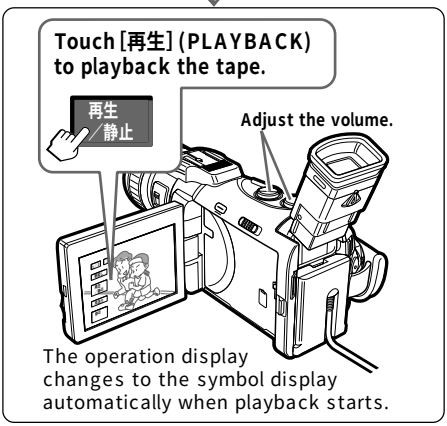




5 Playback







おもな機能別インデックス

撮影機能

インパクトのある映像を撮るための機能

自分を入れて撮りたい　対面撮影 …… 36ページ
静止画を撮りたい　スナップ撮影(テープ) …… 72ページ
静止画を撮る(カード) …… 56,138ページ
徐々に出て、徐々に消える映像にしたい　フェード …… 102ページ
横長のワイド画面にしたい　シネマ …… 103ページ
映像をデジタル処理したい　演出効果 …… 104ページ
タイトルを入れたい　合成機能 …… 112ページ

明るさが気になるときの機能

どうしても逆光になってしまう　デジタルガンマ明るさ補正 …… 75ページ
真っ暗なところで撮りたい　ナイトレーダー …… 76ページ
暗い場面が不必要に明るく映ってしまう　アイリス補正 …… 82ページ
ゲインコントロール …… 84ページ

自然な映像を撮るための機能

本番の撮影前に練習しておきたい　トレーニング機能 …… 68ページ
自然な色合いで撮りたい　ホワイトバランス …… 78ページ
運動会などで、ブレの少ない映像を撮りたい　プログラム設定(スポーツ) …… 88ページ
意図的にピントを合わせたい　マニュアルフォーカス …… 92ページ

撮影現場で役立つ機能

ビデオカメラから離れたところで操作したい　ワイヤレスリモコン …… 28ページ
液晶モニターリモコン …… 122ページ
一本のテープで長時間撮りたい　LPモード録画 …… 57ページ
今撮った映像がうまく撮れているか確認したい　録画サーチ …… 64ページ
撮影中にテープを見た後、前回の撮影終了場面を頭出したい　撮影スタンバイ …… 66ページ
テープの撮影時間を知りたい　タイムコード …… 98ページ

再生機能

いろいろな見かたをするための機能

撮影日時を確認したい　日付表示 …… 61ページ
テレビの画面で見たい　テレビで見る …… 62ページ
拡大して見たい　再生ズーム …… 109ページ

編集機能

撮ったテープを編集したい　ダビング …… 126ページ
ダビング(外部録画) …… 128ページ
撮ったテープにナレーションを入れたい　アフレコ …… 130ページ

さくいん

英数字

ACアダプター 32
DPOF 158
DV端子 126,128
LPモード 57
P in P 112
SPモード 57
S映像/映像/音声端子 62
TC表示 98

あ行

インデックスサーチ 116
液晶モニターリモコン 122
演出効果 104
オートフォトコピー 149
オーバーラップ 145

か行

ガイド表示 70
各部のなまえ 22
ガンマ明るさ補正 75
逆再生 28
警告表示 204
合成 112
コマ送り再生 29
コントロールレバー 48

さ行

再生 58
再生ズーム 109
撮影時間 32,184
撮影スタンバイ 66
シネマ 103
シャッタースピード 86
充電 32
消去 154
初期化 156
ズームマイク 94
スチル撮影 72,138
スナップ撮影 72
スロー再生 29
静止画再生 60,142
セルフタイマー 141

た行

タイムコード 98
対面撮影 36
通信端子 183
テープ残量表示 162
デジタルズーム 55
トレーニング機能 68

な行

ナイトライト 77
ナイトレーダー 76

は行

背景/タイトルデザイン 112
日付・時刻 38,61
ビューファインダー 35
風音低減 97
フェード 102
フォトコピー 148,150
プリントマーク 158
ブレ補正 100
プロテクト 152
ヘッドホン端子 61
ホワイトバランス 78

ま行

マニュアル機能 ..... 78~91
マニュアルフォーカス 92
マルチストロボ 106
マルチメディアカード 192
メニュー 45

ら行

ライト表示 75
録画モード 57

わ行

ワイプ 145

お問い合わせは、お客様ご相談窓口へ

■ この製品についてのご意見・ご質問
「一般ご相談窓口」へお申し付けください。

東日本相談室

☎ (043)297-4649
FAX(043)299-8280
〒261-8520　千葉市美浜区中瀬1-9-2

西日本相談室

☎ (06)6621-4649
FAX(06)6792-5993
〒547-0003　大阪市平野区加美南4-3-41

受付時間：月曜日～土曜日　午前9時～午後6時
（日曜日、祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

その他の地域にお住まいのかたは、「お客様ご相談窓口のご案内」の「一般ご相談窓口」（**201**ページ）へお申し付けください。

■ 製品の故障や部品のご購入などの相談
「修理ご相談窓口」へお申し付けください。
（くわしくは、198ページをご覧ください。）
修理サービスを依頼される前に、**193**～**196**ページの「故障かな？と思ったら」をもう一度お読みください。

シャープ株式会社

本　　社　〒545-8522　大阪市阿倍野区長池町22番22号
電話（06）6621-1221（大代表）
AVシステム事業本部　〒329-2193　栃木県矢板市早川町174番地
電話（0287）43-1131(大代表)

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

TINSJ0285TAZZⒷ　　0P10-JKM